

2016年度 自己点検・評価結果

基準5 学生の受け入れ

文学部・文学部研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会  
 文学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	5-1U	【学部】 学部・学科の「教育研究上の目的」を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしたアドミッションポリシーが、学科ごとに定められていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html 確認日:( 2016.5.15 )		年度初め
	5-1G	【研究科】 研究科・専攻の「教育研究上の目的」を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしたアドミッションポリシーが、専攻および課程ごとに定められていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html 確認日:(2016.5.21)		年度初め
(2)	5-2U	【学部】 アドミッションポリシーが、公的な刊行物、ホームページ等によって、受験生を含む社会一般に対して公表されていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html 確認日:( 2016.5.15 ) 募集要項 ( 2016 年度)	学部・学科パンフレット	年度初め
	5-2G	【研究科】 アドミッションポリシーが、公的な刊行物、ホームページ等によって、受験生を含む社会一般に対して公表されていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html 確認日:(2016.5.21) 募集要項 (2016年度) 研究科パンフレット ( 年度)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会  
 文学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入〕	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入〕	チェック 可能時期
(3)	5-4U	【学部】 学生募集および入学者選抜の方法は、受験生 に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を 受けるための能力・適性等を適切に判定するも のとなっていますか(※)。  ※ ・入試方式・結果の公表 ・入学者選抜における透明性の確保 ・入試方式・試験問題・合否判定の適切性 など	2016	○	大学ホームページ「入試・入学案内」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/admission/">http://www.aoyama.ac.jp/admission/</a> 確認日:(2016.5.15)		年度初め
	5-4G	【研究科】 学生募集および入学者選抜の方法は、受験生 に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を 受けるための能力・適性等を適切に判定するも のとなっていますか(※)。  ※ ・入試方式・結果の公表 ・入学者選抜における透明性の確保 ・入試方式・試験問題・合否判定の適切性 など	2016	○		大学ホームページ「大学院文学研究科各専攻入 学試験概要」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/admission/graduate/examination/">http://www.aoyama.ac.jp/admission/graduate/examination/</a> 確認日:(2016.5.30)	年度初め
(4)	5-5U	【学部】 アドミッションポリシーと学生募集、入学者選抜 の実施方法は整合性がとれていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日:( 2016.5.15 ) 募集要項 ( 2016 年度)		年度初め
	5-5G	【研究科】 アドミッションポリシーと学生募集、入学者選抜 の実施方法は整合性がとれていますか。	2016	○	大学ホームページ「大学院入学試験概要」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/admission/graduate/examination">http://www.aoyama.ac.jp/admission/graduate/examination</a> 「大 学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html/">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html/</a> 確認日:(2016.5.30)		年度初め



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会  
文学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	5-6U1	【学部】 学部全体および各学科において、適切な入学定員が設定されていますか。	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報5 入学者数推移及び入学定員に対する入学者数比率(2012～2016年度)」確認日: (2016.5.29)		年度初め
	5-6U2	【学部】 学部・学科の入学者数が、入学定員に基づいて適正に(※)管理されていますか。  ※過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均が、以下の数値の範囲内であること。 《教育人間科学部心理学科》《理工学部》 0.9以上1.20未満 《上記以外の学部学科》 0.9以上1.25未満	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報5 入学者数推移及び入学定員に対する入学者数比率(2012～2016年度)」文学部1.10～1.14 確認日:(2016.5.29)		年度初め
	5-6U3	【学部】 学部全体および各学科において、在籍学生数が収容定員に基づき適正に(※)管理されていますか。  ※ ・収容定員に対する在籍学生数比率が、以下の数値の範囲内であること。 《教育人間科学部心理学科》《理工学部》 0.9以上1.20未満 《上記以外の学部学科》 0.9以上1.25未満 ・編入学・転学部・転学科による在籍学生数比率の変動	2016	○	【学部】 大学資料集「教務課1 学生定員、在籍学生数及び収容定員充足率」文学部1.12～1.18 大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科試験結果(2016年度)」 確認日:(2016.5.29)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会  
 文学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	5-7U1	【学部】 適切な編入学定員が設定されていますか。  ※編入学を実施していない場合は、便宜上「○」 とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科 試験結果(2016年度)」 確認日:(2016.5.29)		年度初め
	5-7U2	【学部】 編入学生数が編入学定員に基づき適正に(※1) 管理されていますか(※2)。  ※1編入学定員に対する編入学生数比率が、以 下の数値の範囲内であること。 《未完成学部を除く全学部学科》 0.7以上1.30未満 ※2編入学を実施していない場合は、便宜上 「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科 試験結果(2016年度)」 0.7以上1.30未満 確認日: (2016.5.29)		年度初め
(7)	5-8G	【研究科】 研究科全体および各課程において、在籍学生数 が収容定員に基づき適正に(※)管理されていま すか。  ※収容定員に対する在籍学生数比率が、以下 の数値の範囲内であること。 《修士課程》《博士前期課程》《専門職学位 課程》 0.5以上2.00未満 《博士後期課程》《一貫制博士課程》 0.33以上2.00未満	2016	○	【研究科】 大学資料集「大学院1 ★大学院研究科の学生定員及び 在籍学生数」 確認日:(2015.5.30)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会  
 文学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(8)	5-9U1	<p>【学部】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性</p>	2016	○	<p>【学部】 大学学則第13条第4項第1号 検証会議体:教授会</p>	<p>【学部】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :( )</p>	年度初め
	5-9G1	<p>【研究科】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性</p>	2016	○	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第1号 検証会議体:研究科教授会</p>	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :( )</p>	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会  
 文学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	5-9U2	<p>【学部】                      学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点                      ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性                      ・学生募集・入学者選抜方法の適切性                      ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性</p>	2016	○	<p>【学部】                      2018年度受入について:第14回(2016.11.30)、第19回(2017.3.10)文学部教授会議題・議事録                      検証会議体:文学部教授会</p>		年度末
	5-9G2	<p>【研究科】                      学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点                      ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性                      ・学生募集・入学者選抜方法の適切性                      ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性</p>	2016	○	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】                      第4回(2016.7.27)文学研究科教授会議題・議事録等                      検証会議体:文学研究科教授会</p>	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】                      委任先議題・議事録等</p>	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会  
文学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(9)	5-10U	<p>【学部】 アドミッションポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○	<p>【学部】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日:( 2016.5.15 )</p>		年度初め
	5-10G	<p>【研究科】 アドミッションポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		<p>大学ホームページ研究科各専攻「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a>/確認日:(2016.5.30)</p>	年度初め

教育人間科学部・教育人間科学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会  
 教育人間科学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者： 学務部  
 評価基準： 5（学生の受け入れ）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
(1)	5-1U	【学部】 学部・学科の「教育研究上の目的」を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしたアドミッションポリシーが、学科ごとに定められていますか。	2016	×	【学部】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日：(2016/5/5)		年度初め
	5-1G	【研究科】 研究科・専攻の「教育研究上の目的」を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしたアドミッションポリシーが、専攻および課程ごとに定められていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日：(2016.05.07)		年度初め
(2)	5-2U	【学部】 アドミッションポリシーが、公的な刊行物、ホームページ等によって、受験生を含む社会一般に対して公表されていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日：(2016/5/5 ) 募集要項 (2016年度) 学部・学科パンフレット		年度初め
	5-2G	【研究科】 アドミッションポリシーが、公的な刊行物、ホームページ等によって、受験生を含む社会一般に対して公表されていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日：(2016.05.07) 募集要項 (2016年度) 研究科パンフレット (2016年度)		年度初め



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会  
 教育人間科学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者： 学務部  
 評価基準： 5（学生の受け入れ）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
(3)	5-4U	【学部】 学生募集および入学者選抜の方法は、受験生 に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育 を受けるための能力・適性等を適切に判定す るものとなっていますか(※)。  ※ ・入試方式・結果の公表 ・入学者選抜における透明性の確保 ・入試方式・試験問題・合否判定の適切性 など	2016	×			年度初め
	5-4G	【研究科】 学生募集および入学者選抜の方法は、受験生 に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育 を受けるための能力・適性等を適切に判定す るものとなっていますか(※)。  ※ ・入試方式・結果の公表 ・入学者選抜における透明性の確保 ・入試方式・試験問題・合否判定の適切性 など	2016	○	教育人間科学研究科 博士前期課程 心理学専攻[心 理学コース・臨床心理学コース]〈社会人入試・一般 入試〉共通 大学院生募集要項、教育人間科学研究科 博士前期課程 心理学専攻[心理学コース・臨床心理 学コース]	教育人間科学研究科合否判定教授会資料	年度初め
(4)	5-5U	【学部】 アドミッションポリシーと学生募集、入学者 選抜の実施方法は整合性がとれていますか。	2016	×			年度初め
	5-5G	【研究科】 アドミッションポリシーと学生募集、入学者 選抜の実施方法は整合性がとれていますか。	2016	×			年度初め



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会  
 教育人間科学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者： 学務部  
 評価基準： 5（学生の受け入れ）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
(5)	5-6U1	【学部】 学部全体および各学科において、適切な入学定員が設定されていますか。	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報5 入学者数推移及び入学定員に対する入学者数比率」		年度初め
	5-6U2	【学部】 学部・学科の入学者数が、入学定員に基づいて適正に（※）管理されていますか。  ※過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均が、以下の数値の範囲内であること。 ≪教育人間科学部心理学科≫ ≪理工学部≫ 0.9以上1.20未満 ≪上記以外の学部学科≫ 0.9以上1.25未満	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報5 入学者数推移及び入学定員に対する入学者数比率」		年度初め
	5-6U3	【学部】 学部全体および各学科において、在籍学生数が収容定員に基づき適正に（※）管理されていますか。  ※ ・収容定員に対する在籍学生数比率が、以下の数値の範囲内であること。 ≪教育人間科学部心理学科≫ ≪理工学部≫ 0.9以上1.20未満 ≪上記以外の学部学科≫ 0.9以上1.25未満 ・編入学・転学部・転学科による在籍学生数比率の変動	2016	○	【学部】 大学資料集「教務課1 学生定員、在籍学生数及び収容定員充足率」 大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科試験結果」		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会  
 教育人間科学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者： 学務部  
 評価基準： 5（学生の受け入れ）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日等を記入)	チェッ ク 可能時 期
(6)	5-7U1	【学部】 適切な編入学定員が設定されていますか。 ※編入学を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科試験結果」		年度初め
	5-7U2	【学部】 編入学生数が編入学定員に基づき適正に（※1）管理されていますか（※2）。 ※1編入学定員に対する編入学生数比率が、以下の数値の範囲内であること。 《未完成学部を除く全学部学科》 0.7以上1.30未満 ※2編入学を実施していない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科試験結果」		年度初め
(7)	5-8G	【研究科】 研究科全体および各課程において、在籍学生数が収容定員に基づき適正に（※）管理されていますか。 ※収容定員に対する在籍学生数比率が、以下の数値の範囲内であること。 《修士課程》《博士前期課程》《専門職学位課程》 0.5以上2.00未満 《博士後期課程》《一貫制博士課程》 0.33以上2.00未満	2016	○	【研究科】 大学資料集「大学院1 ★大学院研究科の学生定員及び在籍学生数」		年度初め
	5-9U1	【学部】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性（※）を検証するにあたり、会議体（委員会等）・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第1号 検証会議体:教授会		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会  
 教育人間科学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者： 学務部  
 評価基準： 5（学生の受け入れ）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日等を記入)	チェック 可能時期
(8)	5-9G1	<p>【研究科】                      学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点                      ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性                      ・学生募集・入学者選抜方法の適切性                      ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性</p>	2016	○	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】                      大学院学則第69条第1項第1号                      検証会議体:研究科教授会</p>		年度初め
	5-9U2	<p>【学部】                      学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点                      ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性                      ・学生募集・入学者選抜方法の適切性                      ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性</p>	2016	○	<p>【学部】                      第●回教授会議題・議事録等                      検証会議体:教授会</p>	<p>【学部】                      第19回教育人間科学部教授会(2016年3月10日)資料</p>	年度末
	5-9G2	<p>【研究科】                      学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点                      ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性                      ・学生募集・入学者選抜方法の適切性                      ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性</p>	2016	○	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】                      第●回研究科教授会議題・議事録等                      検証会議体:研究科教授会</p>	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】                      第19回教育人間科学部教授会(2016年3月10日)資料</p>	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会  
 教育人間科学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者： 学務部  
 評価基準： 5（学生の受け入れ）

SG	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
(9)	5-10U	<p>【学部】 アドミッションポリシーは適切ですか (※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー（学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等）の要請にあっているか。 ・自己点検・評価（チェックリスト）を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方（3ポリシー修正マニュアル参照）の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	×			年度初め
	5-10G	<p>【研究科】 アドミッションポリシーは適切ですか (※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー（学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等）の要請にあっているか。 ・自己点検・評価（チェックリスト）を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方（3ポリシー修正マニュアル参照）の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	×			年度初め

経済学部・経済学研究科

## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会  
 経済学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	5-1U	【学部】 学部・学科の「教育研究上の目的」を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしたアドミッションポリシーが、学科ごとに定められていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日:( 2016/6/4 )	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	5-1G	【研究科】 研究科・専攻の「教育研究上の目的」を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしたアドミッションポリシーが、専攻および課程ごとに定められていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日:( 2016/6/4 )	6/8学部自己点検委員会	年度初め
(2)	5-2U	【学部】 アドミッションポリシーが、公的な刊行物、ホームページ等によって、受験生を含む社会一般に対して公表されていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日:( 2016/6/4 ) 募集要項 ( 16 年度) 学部・学科パンフレット	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	5-2G	【研究科】 アドミッションポリシーが、公的な刊行物、ホームページ等によって、受験生を含む社会一般に対して公表されていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日:( 2016/6/4 ) 募集要項 ( 16 年度) 研究科パンフレット ( 16 年度)	6/8学部自己点検委員会	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会  
 経済学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	5-4U	【学部】 学生募集および入学者選抜の方法は、受験生 に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を 受けるための能力・適性等を適切に判定するも のとなっていますか(※)。  ※ ・入試方式・結果の公表 ・入学者選抜における透明性の確保 ・入試方式・試験問題・合否判定の適切性 など	2016	○		6/8学部自己点検委員会	年度初め
	5-4G	【研究科】 学生募集および入学者選抜の方法は、受験生 に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を 受けるための能力・適性等を適切に判定するも のとなっていますか(※)。  ※ ・入試方式・結果の公表 ・入学者選抜における透明性の確保 ・入試方式・試験問題・合否判定の適切性 など	2016	○		6/8学部自己点検委員会	年度初め
(4)	5-5U	【学部】 アドミッションポリシーと学生募集、入学者選抜 の実施方法は整合性がとれていますか。	2016	○		6/8学部自己点検委員会	年度初め
	5-5G	【研究科】 アドミッションポリシーと学生募集、入学者選抜 の実施方法は整合性がとれていますか。	2016	○		6/8学部自己点検委員会	年度初め



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会  
 経済学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	5-6U1	【学部】 学部全体および各学科において、適切な入学定員が設定されていますか。	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報5 入学者数推移及び入学定員に対する入学者数比率」2016/6/4確認	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	5-6U2	【学部】 学部・学科の入学者数が、入学定員に基づいて適正に(※)管理されていますか。  ※過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均が、以下の数値の範囲内であること。 《教育人間科学部心理学科》《理工学部》 0.9以上1.20未満 《上記以外の学部学科》 0.9以上1.25未満	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報5 入学者数推移及び入学定員に対する入学者数比率」2016/6/4確認	6/8学部自己点検委員会手	年度初め
	5-6U3	【学部】 学部全体および各学科において、在籍学生数が収容定員に基づき適正に(※)管理されていますか。  ※ ・収容定員に対する在籍学生数比率が、以下の数値の範囲内であること。 《教育人間科学部心理学科》《理工学部》 0.9以上1.20未満 《上記以外の学部学科》 0.9以上1.25未満 ・編入学・転学部・転学科による在籍学生数比率の変動	2016	○	【学部】 大学資料集「教務課1 学生定員、在籍学生数及び収容定員充足率」 大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科試験結果」2016/6/4確認	6/8学部自己点検委員会	年度初め



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会  
 経済学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	5-7U1	【学部】 適切な編入学定員が設定されていますか。  ※編入学を実施していない場合は、便宜上「○」 とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科試 験結果」2016/6/4確認	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	5-7U2	【学部】 編入学生数が編入学定員に基づき適正に(※1) 管理されていますか(※2)。  ※1編入学定員に対する編入学生数比率が、以 下の数値の範囲内であること。 《未完成学部を除く全学部学科》 0.7以上1.30未満 ※2編入学を実施していない場合は、便宜上 「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科試 験結果」2016/6/4確認	6/8学部自己点検委員会	年度初め
(7)	5-8G	【研究科】 研究科全体および各課程において、在籍学生数 が収容定員に基づき適正に(※)管理されていま すか。  ※収容定員に対する在籍学生数比率が、以下 の数値の範囲内であること。 《修士課程》《博士前期課程》《専門職学位 課程》 0.5以上2.00未満 《博士後期課程》《一貫制博士博士課程》 0.33以上2.00未満	2016	○	【研究科】 大学資料集「大学院1 ★大学院研究科の学生定員及び 在籍学生数2016/」6/4確認	6/8学部自己点検委員会	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会  
 経済学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(8)	5-9U1	【学部】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。  ※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第1号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :( )	年度初め
	5-9G1	【研究科】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。  ※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性	2016	○	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第1号 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :( )	年度初め
	5-9U2	【学部】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。  ※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性	2016	○	従来から慣行に基づき柔軟に行われており、それが規範として確立している。	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会  
 経済学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
	5-9G2	<p>【研究科】                      学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点                      ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性                      ・学生募集・入学者選抜方法の適切性                      ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性</p>	2016	○	従来から慣行に基づき柔軟に行われており、それが規範として確立している。	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末
(9)	5-10U	<p>【学部】                      アドミッションポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点                      ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。                      ・現状や計画と大きな乖離がないか。                      ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。                      ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。                      ・ホームページ等で公表できる内容か。                      ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		6/8学部自己点検委員会	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会  
 経済学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 〔・会議開催日 等を記入〕	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 〔・会議開催日 等を記入〕	チェック 可能時期
	5-10G	<p>【研究科】 アドミッションポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点                      ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。                      ・現状や計画と大きな乖離がないか。                      ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。                      ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。                      ・ホームページ等で公表できる内容か。                      ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		6/8学部自己点検委員会	年度初め

法学部・法学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会  
 法学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	5-1U	【学部】 学部・学科の「教育研究上の目的」を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしたアドミッションポリシーが、学科ごとに定められていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html 確認日:( 2016.04.01. )		年度初め
	5-1G	【研究科】 研究科・専攻の「教育研究上の目的」を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしたアドミッションポリシーが、専攻および課程ごとに定められていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html 確認日:( 2016.04.01. )		年度初め
(2)	5-2U	【学部】 アドミッションポリシーが、公的な刊行物、ホームページ等によって、受験生を含む社会一般に対して公表されていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html 確認日:( 2016.04.01. ) 募集要項 ( 2016 年度) 学部・学科パンフレット		年度初め
	5-2G	【研究科】 アドミッションポリシーが、公的な刊行物、ホームページ等によって、受験生を含む社会一般に対して公表されていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html 確認日:( 2016.04.01. ) 募集要項 ( 2016 年度) 研究科パンフレット ( 2016 年度)		年度初め

## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会  
 法学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	5-4U	【学部】 学生募集および入学者選抜の方法は、受験生 に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を 受けるための能力・適性等を適切に判定するも のとなっていますか(※)。  ※ ・入試方式・結果の公表 ・入学者選抜における透明性の確保 ・入試方式・試験問題・合否判定の適切性 など	2016	○			年度初め
	5-4G	【研究科】 学生募集および入学者選抜の方法は、受験生 に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を 受けるための能力・適性等を適切に判定するも のとなっていますか(※)。  ※ ・入試方式・結果の公表 ・入学者選抜における透明性の確保 ・入試方式・試験問題・合否判定の適切性 など	2016	○			年度初め
(4)	5-5U	【学部】 アドミッションポリシーと学生募集、入学者選抜 の実施方法は整合性がとれていますか。	2016	○			年度初め
	5-5G	【研究科】 アドミッションポリシーと学生募集、入学者選抜 の実施方法は整合性がとれていますか。	2016	○			年度初め



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会  
 法学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	5-6U1	【学部】 学部全体および各学科において、適切な入学定員が設定されていますか。	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報5 入学者数推移及び入学定員に対する入学者数比率」		年度初め
	5-6U2	【学部】 学部・学科の入学者数が、入学定員に基づいて適正に(※)管理されていますか。  ※過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均が、以下の数値の範囲内であること。 ≪教育人間科学部心理学科≫ ≪理工学部≫ 0.9以上1.20未満 ≪上記以外の学部学科≫ 0.9以上1.25未満	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報5 入学者数推移及び入学定員に対する入学者数比率」		年度初め
	5-6U3	【学部】 学部全体および各学科において、在籍学生数が収容定員に基づき適正に(※)管理されていますか。  ※ ・収容定員に対する在籍学生数比率が、以下の数値の範囲内であること。 ≪教育人間科学部心理学科≫ ≪理工学部≫ 0.9以上1.20未満 ≪上記以外の学部学科≫ 0.9以上1.25未満 ・編入学・転学部・転学科による在籍学生数比率の変動	2016	○	【学部】 大学資料集「教務課1 学生定員、在籍学生数及び収容定員充足率」 大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科試験結果」		年度初め



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会  
 法学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	5-7U1	【学部】 適切な編入学定員が設定されていますか。  ※編入学を実施していない場合は、便宜上「○」 とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科試 験結果」		年度初め
	5-7U2	【学部】 編入学生数が編入学定員に基づき適正に(※1) 管理されていますか(※2)。  ※1編入学定員に対する編入学生数比率が、以 下の数値の範囲内であること。 《未完成学部を除く全学部学科》 0.7以上1.30未満 ※2編入学を実施していない場合は、便宜上 「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科試 験結果」		年度初め
(7)	5-8G	【研究科】 研究科全体および各課程において、在籍学生数 が収容定員に基づき適正に(※)管理されていま すか。  ※収容定員に対する在籍学生数比率が、以下 の数値の範囲内であること。 《修士課程》《博士前期課程》《専門職学位 課程》 0.5以上2.00未満 《博士後期課程》《一貫制博士博士課程》 0.33以上2.00未満	2016	○	【研究科】 大学資料集「大学院1 ★大学院研究科の学生定員及び 在籍学生数」		年度初め
	5-9U1	【学部】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入 れの適切性(※)を検証するにあたり、会議体 (委員会等)・手続きが明文化されていますか。  ※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受 け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の 適切性	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第1号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :( )	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会  
 法学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入〕	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入〕	チェック 可能時期
(8)	5-9G1	<p>【研究科】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性</p>	2016	○	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第1号 検証会議体: 研究科教授会</p>	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 : ●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :( )</p>	年度初め
	5-9U2	<p>【学部】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性</p>	2016	○	<p>【学部】 第19回教授会議題・議事録等 検証会議体: 教授会・学部入試委員会</p>	<p>【学部】 委任先議題・議事録等</p>	年度末
	5-9G2	<p>【研究科】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性</p>	2016	○	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 第8回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体: 研究科教授会</p>	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任先議題・議事録等</p>	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会  
 法学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(9)	5-10U	<p>【学部】 アドミッションポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○			年度初め
	5-10G	<p>【研究科】 アドミッションポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○			年度初め

経営学部・経営学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会  
 経営学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	5-1U	【学部】 学部・学科の「教育研究上の目的」を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしたアドミッションポリシーが、学科ごとに定められていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日:(2016年6月7日)		年度初め
	5-1G	【研究科】 研究科・専攻の「教育研究上の目的」を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしたアドミッションポリシーが、専攻および課程ごとに定められていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日:(2016年6月7日)		年度初め
(2)	5-2U	【学部】 アドミッションポリシーが、公的な刊行物、ホームページ等によって、受験生を含む社会一般に対して公表されていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日:(2016年6月7日) 募集要項 (            年度) 学部・学科パンフレット		年度初め
	5-2G	【研究科】 アドミッションポリシーが、公的な刊行物、ホームページ等によって、受験生を含む社会一般に対して公表されていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日:(2016年6月7日) 募集要項 (            年度) 研究科パンフレット (            年度)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会  
 経営学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	5-4U	【学部】 学生募集および入学者選抜の方法は、受験生 に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を 受けるための能力・適性等を適切に判定するも のとなっていますか(※)。  ※ ・入試方式・結果の公表 ・入学者選抜における透明性の確保 ・入試方式・試験問題・合否判定の適切性 など	2016	○			年度初め
	5-4G	【研究科】 学生募集および入学者選抜の方法は、受験生 に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を 受けるための能力・適性等を適切に判定するも のとなっていますか(※)。  ※ ・入試方式・結果の公表 ・入学者選抜における透明性の確保 ・入試方式・試験問題・合否判定の適切性 など	2016	○			年度初め
(4)	5-5U	【学部】 アドミッションポリシーと学生募集、入学者選抜 の実施方法は整合性がとれていますか。	2016	○			年度初め
	5-5G	【研究科】 アドミッションポリシーと学生募集、入学者選抜 の実施方法は整合性がとれていますか。	2016	○			年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会  
 経営学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	5-6U1	【学部】 学部全体および各学科において、適切な入学定員が設定されていますか。	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報5 入学者数推移及び入学定員に対する入学者数比率」		年度初め
	5-6U2	【学部】 学部・学科の入学者数が、入学定員に基づいて適正に(※)管理されていますか。  ※過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均が、以下の数値の範囲内であること。 《教育人間科学部心理学科》《理工学部》 0.9以上1.20未満 《上記以外の学部学科》 0.9以上1.25未満	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報5 入学者数推移及び入学定員に対する入学者数比率」		年度初め
	5-6U3	【学部】 学部全体および各学科において、在籍学生数が収容定員に基づき適正に(※)管理されていますか。  ※ ・収容定員に対する在籍学生数比率が、以下の数値の範囲内であること。 《教育人間科学部心理学科》《理工学部》 0.9以上1.20未満 《上記以外の学部学科》 0.9以上1.25未満 ・編入学・転学部・転学科による在籍学生数比率の変動	2016	○	【学部】 大学資料集「教務課1 学生定員、在籍学生数及び収容定員充足率」 大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科試験結果」		年度初め



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会  
 経営学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	5-7U1	【学部】 適切な編入学定員が設定されていますか。  ※編入学を実施していない場合は、便宜上「○」 とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科試 験結果」		年度初め
	5-7U2	【学部】 編入学生数が編入学定員に基づき適正に(※1) 管理されていますか(※2)。  ※1編入学定員に対する編入学生数比率が、以 下の数値の範囲内であること。 《未完成学部を除く全学部学科》 0.7以上1.30未満 ※2編入学を実施していない場合は、便宜上 「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科試 験結果」		年度初め
(7)	5-8G	【研究科】 研究科全体および各課程において、在籍学生数 が収容定員に基づき適正に(※)管理されていま すか。  ※収容定員に対する在籍学生数比率が、以下 の数値の範囲内であること。 《修士課程》《博士前期課程》《専門職学位 課程》 0.5以上2.00未満 《博士後期課程》《一貫制博士博士課程》 0.33以上2.00未満	2016	○	【研究科】 大学資料集「大学院1 ★大学院研究科の学生定員及び 在籍学生数」		年度初め
	5-9U1	【学部】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入 れの適切性(※)を検証するにあたり、会議体 (委員会等)・手続きが明文化されていますか。  ※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受 け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の 適切性	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第1号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :( )	年度初め



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会  
 経営学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(8)	5-9G1	【研究科】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。  ※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性	2016	○	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第1号 検証会議体: 研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 : ●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :( )	年度初め
	5-9U2	【学部】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。  ※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性	2016	○	【学部】 第13回教授会議議題・議事録等 検証会議体: 教授会	【学部】 委任先議題・議事録等	年度末
	5-9G2	【研究科】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。  ※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性	2016	○	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 第11回・第12回研究科教授会議議題・議事録等 検証会議体: 研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任先議題・議事録等	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会  
 経営学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(9)	5-10U	<p>【学部】 アドミッションポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○			年度初め
	5-10G	<p>【研究科】 アドミッションポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○			年度初め

国際政治経済学部・国際政治経済学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会  
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	5-1U	【学部】 学部・学科の「教育研究上の目的」を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしたアドミッションポリシーが、学科ごとに定められていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/faculty/sippec/objective.html#anchor_admissionpolicy">http://www.aoyama.ac.jp/faculty/sippec/objective.html#anchor_admissionpolicy</a> 確認日:(2016/5/17)		年度初め
	5-1G	【研究科】 研究科・専攻の「教育研究上の目的」を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしたアドミッションポリシーが、専攻および課程ごとに定められていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/faculty/graduate_sippec/objective.html#anchor_admissionpolicy">http://www.aoyama.ac.jp/faculty/graduate_sippec/objective.html#anchor_admissionpolicy</a> 確認日:(2016/5/17)		年度初め
(2)	5-2U	【学部】 アドミッションポリシーが、公的な刊行物、ホームページ等によって、受験生を含む社会一般に対して公表されていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/faculty/sippec/objective.html#anchor_admissionpolicy">http://www.aoyama.ac.jp/faculty/sippec/objective.html#anchor_admissionpolicy</a> 確認日:(2016/5/17) 募集要項(____年度) 学部・学科パンフレット		年度初め
	5-2G	【研究科】 アドミッションポリシーが、公的な刊行物、ホームページ等によって、受験生を含む社会一般に対して公表されていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日:(2016/5/17) 募集要項(____年度) 研究科パンフレット(____年度)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会  
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	5-4U	<p>【学部】                      学生募集および入学者選抜の方法は、受験生                      に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を                      受けるための能力・適性等を適切に判定するも                      のとなっていますか(※)。</p> <p>※                      ・入試方式・結果の公表                      ・入学者選抜における透明性の確保                      ・入試方式・試験問題・合否判定の適切性 など</p>	2016	○		以下については教授会の協議事項として適切性を 判定している ・入試方式・試験問題・合否判定の適切性 (2015年度第8回国際政治学部教授会 (2015/9/16)協議事項1.-2.、2015年度第9回国際 政治学部教授会(2015/9/30)協議事項1.-2.、2015 年度第10回国際政治学部教授会(2015/10/14)協 議事項1.-3.、2015年度第12回国際政治学部教授 会(2015/11/11)協議事項1.、2015年度第13回国 際政治学部教授会(2015/11/25)協議事項1.-4.、 2015年度第16回国際政治学部教授会 (2016/1/20)協議事項1.、2015年度第17回国際政 治学部教授会(2016/2/23)協議事項1.、2015年度 第18回国際政治学部教授会(2016/3/10)協議事 項6.、 2016年度第1回国際政治学部教授会(2016/4/20) 協議事項3.-4.)	年度初め
	5-4G	<p>【研究科】                      学生募集および入学者選抜の方法は、受験生                      に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を                      受けるための能力・適性等を適切に判定するも                      のとなっていますか(※)。</p> <p>※                      ・入試方式・結果の公表                      ・入学者選抜における透明性の確保                      ・入試方式・試験問題・合否判定の適切性 など</p>	2016	○		以下については教授会の協議事項として適切性を 判定している ・入試方式・試験問題・合否判定の適切性 (2015年度第5回国際政治学研究科教授会 (2015/7/8)協議事項1.、2015年度第8回国際政治 学研究科教授会(2015/9/30)協議事項1.、2015年 度第9回国際政治学研究科教授会(2015/10/14) 協議事項1.、2015年度第11回国際政治学研究科 教授会(2015/11/11)協議事項1.、2015年度第13 回国際政治学研究科教授会(2015/12/9)協議事 項1.、2015年度第16回国際政治学研究科教授会 (2016/2/9)報告事項1.協議事項1.-2.、2015年度第 17回国際政治学研究科教授会(2016/2/23)報告 事項1.-3.、2016年度第1回国際政治学研究科教 授会(2016/4/20)協議事項2.-3.、2016年度第2回 国際政治学研究科教授会(2016/5/11)協議事項 1.)	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会  
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	5-5U	【学部】 アドミッションポリシーと学生募集、入学者選抜 の実施方法は整合性がとれていますか。	2016	×			年度初め
	5-5G	【研究科】 アドミッションポリシーと学生募集、入学者選抜 の実施方法は整合性がとれていますか。	2016	×			年度初め
(5)	5-6U1	【学部】 学部全体および各学科において、適切な入学定 員が設定されていますか。	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報5 入学者数推移及び入学定員に 対する入学者数比率(2012～2016年度)」 <a href="https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/d-gakuchou/jikotenken-hyouka/shiryoushu/shiryo2016/4.nyugaku_koho/nyugaku_koho5.pdf">https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/d-gakuchou/jikotenken-hyouka/shiryoushu/shiryo2016/4.nyugaku_koho/nyugaku_koho5.pdf</a>		年度初め
	5-6U2	【学部】 学部・学科の入学者数が、入学定員に基づいて 適正に(※)管理されていますか。  ※過去5年間の入学定員に対する入学者数比 率の平均が、以下の数値の範囲内であること。 《教育人間科学部心理学科》《理工学部》 0.9以上1.20未満 《上記以外の学部学科》 0.9以上1.25未満	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報5 入学者数推移及び入学定員に 対する入学者数比率(2012～2016年度)」 <a href="https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/d-gakuchou/jikotenken-hyouka/shiryoushu/shiryo2016/4.nyugaku_koho/nyugaku_koho5.pdf">https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/d-gakuchou/jikotenken-hyouka/shiryoushu/shiryo2016/4.nyugaku_koho/nyugaku_koho5.pdf</a>	2016年度第1回国際政治経済学部教授会 (2016/4/20)報告事項2.	年度初め



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会  
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	5-6U3	<p>【学部】 学部全体および各学科において、在籍学生数が 収容定員に基づき適正に(※)管理されています か。</p> <p>※ ・収容定員に対する在籍学生数比率が、以下の 数値の範囲内であること。                      ≪教育人間科学部心理学科≫ ≪理工学部≫                      0.9以上1.20未満                      ≪上記以外の学部学科≫                      0.9以上1.25未満                      ・編入学・転学部・転学科による在籍学生数比率                      の変動</p>	2016	○	<p>【学部】 大学資料集「教務課1 学生定員、在籍学生数及び収容 定員充足率(2016年5月1日現在)」  <a href="https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/d-gakuchou/jikotenken-hyouka/shiryoushu/shiryoy2016/5.kyoumu/kyoumuka1.pdf">https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/d-gakuchou/jikotenken-hyouka/shiryoushu/shiryoy2016/5.kyoumu/kyoumuka1.pdf</a>                      大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科試 験結果(2016年度)」<a href="https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/d-gakuchou/jikotenken-hyouka/shiryoushu/shiryoy2016/4.nyugaku_koho/nyugaku_koho4.pdf">https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/d-gakuchou/jikotenken-hyouka/shiryoushu/shiryoy2016/4.nyugaku_koho/nyugaku_koho4.pdf</a></p>	2016年度第2回国際政治経済学部教授会 (2016/5/11)報告事項3.(学2)	年度初め
	5-7U1	<p>【学部】 適切な編入学定員が設定されていますか。</p> <p>※編入学を実施していない場合は、便宜上「○」 とし、備考欄にその旨記載してください。</p>	2016	○	<p>【学部】 大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科試 験結果(2016年度)」<a href="https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/d-gakuchou/jikotenken-hyouka/shiryoushu/shiryoy2016/4.nyugaku_koho/nyugaku_koho4.pdf">https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/d-gakuchou/jikotenken-hyouka/shiryoushu/shiryoy2016/4.nyugaku_koho/nyugaku_koho4.pdf</a></p>	2015年度第18回国際政治経済学部教授会 (2016/3/10)協議事項6.(学14)2016年3月10日付 「2017年度各種入学試験について(変更点)」	年度初め
(6)	5-7U2	<p>【学部】 編入学生数が編入学定員に基づき適正に(※1) 管理されていますか(※2)。</p> <p>※1編入学定員に対する編入学生数比率が、以 下の数値の範囲内であること。                      ≪未完成学部を除く全学部学科≫                      0.7以上1.30未満                      ※2編入学を実施していない場合は、便宜上                      「○」とし、備考欄にその旨記載してください。</p>	2016	○	<p>【学部】 大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科試 験結果」大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・ 転学科試験結果(2016年度)」  <a href="https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/d-gakuchou/jikotenken-hyouka/shiryoushu/shiryoy2016/4.nyugaku_koho/nyugaku_koho4.pdf">https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/d-gakuchou/jikotenken-hyouka/shiryoushu/shiryoy2016/4.nyugaku_koho/nyugaku_koho4.pdf</a></p>	2015年度第17回国際政治経済学部教授会 (2016/2/23)協議事項1.(学1)	年度初め



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会  
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(7)	5-8G	<p>【研究科】 研究科全体および各課程において、在籍学生数が収容定員に基づき適正に(※)管理されていますか。</p> <p>※収容定員に対する在籍学生数比率が、以下の数値の範囲内であること。                      ≪修士課程≫ ≪博士前期課程≫ ≪専門職学位課程≫                      0.5以上2.00未満                      ≪博士後期課程≫ ≪一貫制博士博士課程≫                      0.33以上2.00未満</p>	2016	×	<p>【研究科】 大学資料集「大学院1 ★大学院研究科の学生定員及び在籍学生数」<a href="https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/d-gakuchou/jikotenken-hyouka/shiryoushu/shiryo2016/5.kyoumu/daigakuin1.pdf">https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/d-gakuchou/jikotenken-hyouka/shiryoushu/shiryo2016/5.kyoumu/daigakuin1.pdf</a></p>		年度初め
	5-9U1	<p>【学部】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点                      ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性                      ・学生募集・入学者選抜方法の適切性                      ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性</p>	2016	○	<p>【学部】 大学学則第13条第4項第1号 検証会議体: 教授会</p>	<p>【学部】 委任に関する申し合わせ等: 2016年5月25日付2016年度国際政治経済学部第3回教授会協議事項2.                      左記検証会議体からの委任先: 主任会                      手続: 2016年6月8日付2016年度第4回国際政治経済学部・研究科主任会議題2「青山学院大学国際政治経済学部・研究科主任会における自己点検・評価の検証事項に関する手続(案)」</p>	年度初め
	5-9G1	<p>【研究科】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点                      ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性                      ・学生募集・入学者選抜方法の適切性                      ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性</p>	2016	○	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第1号 検証会議体: 研究科教授会</p>	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等: 2016年5月25日付2016年度国際政治経済学研究科第3回教授会協議事項5.                      左記検証会議体からの委任先: 主任会                      手続: 2016年6月8日付2016年度第4回国際政治経済学部・研究科主任会議題2「青山学院大学国際政治経済学部・研究科主任会における自己点検・評価の検証事項に関する手続(案)」</p>	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会  
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(8)	5-9U2	<p>【学部】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性</p>	2016	○		<p>【学部】 2016年度第17回国際政治経済学部・研究科主任会記録議題2.「自己点検・評価の証事項に関する回答(案)」別添参考資料2</p>	年度末
	5-9G2	<p>【研究科】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性</p>	2016	○		<p>【研究科】 2016年度第17回国際政治経済学部・研究科主任会記録議題2.「自己点検・評価の証事項に関する回答(案)」別添参考資料2</p>	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会  
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(9)	5-10U	<p>【学部】 アドミッションポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	×			年度初め
	5-10G	<p>【研究科】 アドミッションポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	×			年度初め

総合文化政策学部・総合文化政策学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会  
 総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	5-1U	【学部】 学部・学科の「教育研究上の目的」を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしたアドミッションポリシーが、学科ごとに定められていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日:(2016年4月26日 )		年度初め
	5-1G	【研究科】 研究科・専攻の「教育研究上の目的」を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしたアドミッションポリシーが、専攻および課程ごとに定められていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日:( 2016年5月31日 )		年度初め
(2)	5-2U	【学部】 アドミッションポリシーが、公的な刊行物、ホームページ等によって、受験生を含む社会一般に対して公表されていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日:( 2016年4月26日 ) 募集要項 ( 年度 ) 学部・学科パンフレット		年度初め
	5-2G	【研究科】 アドミッションポリシーが、公的な刊行物、ホームページ等によって、受験生を含む社会一般に対して公表されていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日:( 2016年5月31日 ) 募集要項 ( 年度 ) 研究科パンフレット ( 年度 )		年度初め

## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会  
総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	5-4U	【学部】 学生募集および入学者選抜の方法は、受験生 に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を 受けるための能力・適性等を適切に判定するも のとなっていますか(※)。  ※ ・入試方式・結果の公表 ・入学者選抜における透明性の確保 ・入試方式・試験問題・合否判定の適切性 など	2016	○		入学試験データ&ガイド2016	年度初め
	5-4G	【研究科】 学生募集および入学者選抜の方法は、受験生 に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を 受けるための能力・適性等を適切に判定するも のとなっていますか(※)。  ※ ・入試方式・結果の公表 ・入学者選抜における透明性の確保 ・入試方式・試験問題・合否判定の適切性 など	2016	○			年度初め
(4)	5-5U	【学部】 アドミッションポリシーと学生募集、入学者選抜 の実施方法は整合性がとれていますか。	2016	○		大学HP	年度初め
	5-5G	【研究科】 アドミッションポリシーと学生募集、入学者選抜 の実施方法は整合性がとれていますか。	2016	○		研究科HP	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会  
 総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	5-6U1	【学部】 学部全体および各学科において、適切な入学定員が設定されていますか。	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報5 入学者数推移及び入学定員に対する入学者数比率」		年度初め
	5-6U2	【学部】 学部・学科の入学者数が、入学定員に基づいて適正に(※)管理されていますか。  ※過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均が、以下の数値の範囲内であること。 《教育人間科学部心理学科》《理工学部》 0.9以上1.20未満 《上記以外の学部学科》 0.9以上1.25未満	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報5 入学者数推移及び入学定員に対する入学者数比率」		年度初め
	5-6U3	【学部】 学部全体および各学科において、在籍学生数が収容定員に基づき適正に(※)管理されていますか。  ※ ・収容定員に対する在籍学生数比率が、以下の数値の範囲内であること。 《教育人間科学部心理学科》《理工学部》 0.9以上1.20未満 《上記以外の学部学科》 0.9以上1.25未満 ・編入学・転学部・転学科による在籍学生数比率の変動	2016	○	【学部】 大学資料集「教務課1 学生定員、在籍学生数及び収容定員充足率」 大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科試験結果」		年度初め



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会  
 総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	5-7U1	【学部】 適切な編入学定員が設定されていますか。  ※編入学を実施していない場合は、便宜上「○」 とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科試 験結果」		年度初め
	5-7U2	【学部】 編入学生数が編入学定員に基づき適正に(※1) 管理されていますか(※2)。  ※1編入学定員に対する編入学生数比率が、以 下の数値の範囲内であること。 《未完成学部を除く全学部学科》 0.7以上1.30未満 ※2編入学を実施していない場合は、便宜上 「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科試 験結果」		年度初め
(7)	5-8G	【研究科】 研究科全体および各課程において、在籍学生数 が収容定員に基づき適正に(※)管理されていま すか。  ※収容定員に対する在籍学生数比率が、以下 の数値の範囲内であること。 《修士課程》《博士前期課程》《専門職学位 課程》 0.5以上2.00未満 《博士後期課程》《一貫制博士博士課程》 0.33以上2.00未満	2016	○	【研究科】 大学資料集「大学院1 ★大学院研究科の学生定員及び 在籍学生数」		年度初め
	5-9U1	【学部】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入 れの適切性(※)を検証するにあたり、会議体 (委員会等)・手続きが明文化されていますか。  ※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受 け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の 適切性	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第1号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :2016年5月25日付承認 左記検証会議体からの委任先 :( 学部・研究科合同主任会 )	年度初め

## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会  
総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入〕	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入〕	チェック 可能時期
(8)	5-9G1	【研究科】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。  ※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性	2016	○	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第1号 検証会議体: 研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 : ●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :( )	年度初め
	5-9U2	【学部】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。  ※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性	2016	×	【学部】 第●回教授会議題・議事録等 検証会議体: 教授会	【学部】 委任先議題・議事録等	年度末
	5-9G2	【研究科】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。  ※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性	2016	×	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 第●回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体: 研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任先議題・議事録等	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会  
 総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(9)	5-10U	<p>【学部】 アドミッションポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		大学ホームページ内総合文化政策学部	年度初め
	5-10G	<p>【研究科】 アドミッションポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		大学ホームページ内総合文化政策学研究科	年度初め

理工学部・理工学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会  
理工学研究科自己点検・評価委員会  
担当部署/担当者: 学務課(相)  
評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	5-1U	【学部】 学部・学科の「教育研究上の目的」を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしたアドミッションポリシーが、学科ごとに定められていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日:(20160423)		年度初め
	5-1G	【研究科】 研究科・専攻の「教育研究上の目的」を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしたアドミッションポリシーが、専攻および課程ごとに定められていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日:(20140423)		年度初め
(2)	5-2U	【学部】 アドミッションポリシーが、公的な刊行物、ホームページ等によって、受験生を含む社会一般に対して公表されていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日:(20160423) 募集要項 (2016年度) 学部・学科パンフレット		年度初め
	5-2G	【研究科】 アドミッションポリシーが、公的な刊行物、ホームページ等によって、受験生を含む社会一般に対して公表されていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日:(20160423) 募集要項 (2016年度) 研究科パンフレット (2016年度)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会  
理工学研究科自己点検・評価委員会  
担当部署/担当者: 学務課(相)  
評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	5-4U	【学部】 学生募集および入学者選抜の方法は、受験生 に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を 受けるための能力・適性等を適切に判定するも のとなっていますか(※)。  ※ ・入試方式・結果の公表 ・入学者選抜における透明性の確保 ・入試方式・試験問題・合否判定の適切性 など	2016	×		「入試方式・結果の公表」は、大学ホームページ http://www.aoyama.ac.jp/admission/ 物数: × 化生: 学科会議議事録(20150422, 20150513, 20150624, 20150916, 20151014, 20151028, 20151125, 20160120) 電気: × 機械: 学科会議議事録(第3回2015/5/27, 第16回 2015/11/25, 第18回2016/1/13, 第19回 2016/1/20) 経シス: × 情テク: 学科会議議事録平成27年12月9日(水)	年度初め
	5-4G	【研究科】 学生募集および入学者選抜の方法は、受験生 に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を 受けるための能力・適性等を適切に判定するも のとなっていますか(※)。  ※ ・入試方式・結果の公表 ・入学者選抜における透明性の確保 ・入試方式・試験問題・合否判定の適切性 など	2016	×		「入試方式・結果の公表」は、大学ホームページ http://www.aoyama.ac.jp/admission/ 基礎科学: × 化学: コース会議議事録(20150912) 機能物質: × 生命科学: コース会議議事録 (20150612), (20150722) 電気電子: × 機械創造: コース会議議事録(第5回2015/6/24, 第12回2015/9/30, 第13回2015/10/14) 知能情報: コース会議議事録平成27年7月22日 マネテク: コース会議議事録: 2015年7月8日(第8 回経営システム工学科会議議事録)	年度初め
	5-5U	【学部】 アドミッションポリシーと学生募集、入学者選抜 の実施方法は整合性がとれていますか。	2016	×		物数: 学科会議議事録 2015.12.9 化生: × 電気: × 機械: 学科会議議事録(第2回2015/ 5/14, 第3回 2015/ 5/27, 第15回2015/11/11) 経シス: × 情テク: 学科会議議事録 (20160120#21, )	年度初め



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会  
理工学研究科自己点検・評価委員会  
担当部署/担当者: 学務課(相)  
評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	5-5G	【研究科】 アドミッションポリシーと学生募集、入学者選抜 の実施方法は整合性がとれていますか。	2016	×		基礎科学: × 化学: × 機能物質: × 生命科学: × 電気電子: × 機械創造: コース会議議事録(第9回2015/8/3,第 18回2016/1/13) 知能情報: コース会議議事録平成27年7月29日 マネテク: ×	年度初め
(5)	5-6U1	【学部】 学部全体および各学科において、適切な入学定 員が設定されていますか。	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報5 入学者数推移及び入学定員に 対する入学者数比率」	入試検討委員会メモ2016.1.20 教授会議事録2016.3.10	年度初め
	5-6U2	【学部】 学部・学科の入学者数が、入学定員に基づいて 適正に(※)管理されていますか。  ※過去5年間の入学定員に対する入学者数比 率の平均が、以下の数値の範囲内であること。 《教育人間科学部心理学科》《理工学部》 0.9以上1.20未満 《上記以外の学部学科》 0.9以上1.25未満	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報5 入学者数推移及び入学定員に 対する入学者数比率」	大学資料集確認 2016年5月23日 2012年度 1.1882 2013年度 0.9866 2014年度 1.0958 2015年度 1.0571 2016年度 1.0857 物理・数理学科 1.10 化学・生命科学 1.01 電気電子工学科 1.07 機械創造工学科 1.13 経営システム工学科 1.12 情報テクノロジー学科 1.08 5年間 定員2975名 入学者3221名 1.0827	年度初め
	5-6U3	【学部】 学部全体および各学科において、在籍学生数が 収容定員に基づき適正に(※)管理されています か。  ※ ・収容定員に対する在籍学生数比率が、以下の 数値の範囲内であること。 《教育人間科学部心理学科》《理工学部》 0.9以上1.20未満 《上記以外の学部学科》 0.9以上1.25未満 ・編入学・転学部・転学科による在籍学生数比率 の変動	2016	○	【学部】 大学資料集「教務課1 学生定員、在籍学生数及び収容 定員充足率」 大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科試 験結果」	大学資料集確認 2016年5月23日 物理・数理 1.14 化学・生命 1.07 電気電子 1.09 機械創造 1.14 経営システム 1.15 情報テクノロジー 1.09 学部 定員2,380名 人数2,644名 1.11	年度初め



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会  
理工学研究科自己点検・評価委員会  
担当部署/担当者: 学務課(相)  
評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	5-7U1	【学部】 適切な編入学定員が設定されていますか。  ※編入学を実施していない場合は、便宜上「○」 とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科試 験結果」		年度初め
	5-7U2	【学部】 編入学生数が編入学定員に基づき適正に(※1) 管理されていますか(※2)。  ※1編入学定員に対する編入学生数比率が、以 下の数値の範囲内であること。 《未完成学部を除く全学部学科》 0.7以上1.30未満 ※2編入学を実施していない場合は、便宜上 「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科試 験結果」		年度初め
(7)	5-8G	【研究科】 研究科全体および各課程において、在籍学生数 が収容定員に基づき適正に(※)管理されていま すか。  ※収容定員に対する在籍学生数比率が、以下 の数値の範囲内であること。 《修士課程》《博士前期課程》《専門職学位 課程》 0.5以上2.00未満 《博士後期課程》《一貫制博士博士課程》 0.33以上2.00未満	2016	×	【研究科】 大学資料集「大学院1 ★大学院研究科の学生定員及び 在籍学生数」	大学資料集確認 2016年5月23日 博士前期課程 定員360名 人数360名 1.0  博士後期課程 定員45名 人数12名 0.2667	年度初め
	5-9U1	【学部】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入 れの適切性(※)を検証するにあたり、会議体 (委員会等)・手続きが明文化されていますか。  ※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受 け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の 適切性	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第1号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :2016年4月20日付承認 左記検証会議体からの委任先 :入試委員会, 学科会議	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会  
理工学研究科自己点検・評価委員会  
担当部署/担当者: 学務課(相)  
評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(8)	5-9G1	【研究科】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。  ※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性	2016	○	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第1号 検証会議体: 研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :2016年5月11日付承認 左記検証会議体からの委任先 :コース教務主任会議, コース会議	年度初め
	5-9U2	【学部】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。  ※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性	2016	○	【学部】 教授会議題・議事録等 検証会議体: 教授会 第17回教授会 2017年3月10日	第2回入試委員会議事録:2017年1月11日  物数: 学科会議議事録 2016/07/06 化生: 学科議事録その他進路指導における配布書類(日付の記載なし) 電気: 第3回 平成28年5月11日、第4回 平成28年5月25日、第19回 平成29年1月19日 経シス: 学科会議議事録(2017.1.18, 2017.4.19) 情テク: 学科会議議事録(2017/1/18)	年度末
	5-9G2	【研究科】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。  ※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性	2016	×	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 研究科教授会議題・議事録等 検証会議体: 研究科教授会 第1回研究科教授会 2016年4月20日	基礎科学: コース会議議事録2017/2/17 化学: 2016年6月8日コース会議議事録 機能物質: コース会議第五回議事録 2017.2.20/ 議事録送信3.20 生命科学: コース会議議事録 2016年4月27日 電気: 第8回 平成28年7月20日、第13回 平成28年10月20日、第15回 平成28年11月30日、第17回 平成28年12月21日 機械: 第5回教室会議メモ2016/6/22 知能情報: コース会議議事録(2016/6/1) マネテク: ×	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会  
理工学研究科自己点検・評価委員会  
担当部署/担当者: 学務課(相)  
評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(9)	5-10U	<p>【学部】 アドミッションポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	×		<p>物数: × 化生: × 電気: × 機械: × 経シス: × 情テク: 学科会議議事録(20160120#21,20160511, 20160525:一般入試と指定校について)</p>	年度初め
	5-10G	<p>【研究科】 アドミッションポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	×		<p>基礎科学: × 化学: × 機能物質: × 生命科学: × 電気電子: × 機械創造: × 知能情報: コース会議議事録(20160420:秋入学) マネテク: × 大学院教務主任会: ×</p>	年度初め

社会情報学部・社会情報学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会  
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務課(相)  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	5-1U	【学部】 学部・学科の「教育研究上の目的」を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしたアドミッションポリシーが、学科ごとに定められていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html 確認日:(2016.5.14)	<a href="http://www.aoyama.ac.jp/faculty/ssi/objective.html#anchor_admissionpolicy">http://www.aoyama.ac.jp/faculty/ssi/objective.html#anchor_admissionpolicy</a> 確認日:(2016.5.14)	年度初め
	5-1G	【研究科】 研究科・専攻の「教育研究上の目的」を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしたアドミッションポリシーが、専攻および課程ごとに定められていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html 確認日:( 2016年4月28日 )	<a href="http://www.aoyama.ac.jp/faculty/graduate_ssi/objective.html">http://www.aoyama.ac.jp/faculty/graduate_ssi/objective.html</a> 確認日:( 2016年4月28日 )	年度初め
(2)	5-2U	【学部】 アドミッションポリシーが、公的な刊行物、ホームページ等によって、受験生を含む社会一般に対して公表されていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html 確認日:(2016.5.14) 募集要項 (2016年度) 学部・学科パンフレット	<a href="http://www.aoyama.ac.jp/faculty/ssi/objective.html#anchor_admissionpolicy">http://www.aoyama.ac.jp/faculty/ssi/objective.html#anchor_admissionpolicy</a> 確認日:(2016.5.14)	年度初め
	5-2G	【研究科】 アドミッションポリシーが、公的な刊行物、ホームページ等によって、受験生を含む社会一般に対して公表されていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html 確認日:( 2016年4月28日 )	<a href="http://www.aoyama.ac.jp/faculty/graduate_ssi/objective.html">http://www.aoyama.ac.jp/faculty/graduate_ssi/objective.html</a> 確認日:( 2016年4月28日 )	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会  
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務課(相)  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	5-4U	【学部】 学生募集および入学者選抜の方法は、受験生 に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を 受けるための能力・適性等を適切に判定するも のとなっていますか(※)。  ※ ・入試方式・結果の公表 ・入学者選抜における透明性の確保 ・入試方式・試験問題・合否判定の適切性 など	2016	○		・入試結果の広報 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/admission/">http://www.aoyama.ac.jp/admission/</a> ・入学者選抜における透明性の確保 ・入試方式・試験問題・合否判定の適切性 など 教授会での合否審議、各入試担当委員の審議及 び承認 例: 第1回教授会(2015.4.22) 第20回 教授会記録(2016.02.20)	年度初め
	5-4G	【研究科】 学生募集および入学者選抜の方法は、受験生 に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を 受けるための能力・適性等を適切に判定するも のとなっていますか(※)。  ※ ・入試方式・結果の公表 ・入学者選抜における透明性の確保 ・入試方式・試験問題・合否判定の適切性 など	2016	○		・入試に関する大学ウェブサイト上の広報 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/admission/#anchor_02">http://www.aoyama.ac.jp/admission/#anchor_02</a>  このサイト内に課程ごとの入学試験要項を掲載。 入学試験後、研究科教授会にて合否審議を行っ ている。 例: 第13回研究科教授会(2015.12.9) 第13回研究科教授会記録(2017.2.8)	年度初め
(4)	5-5U	【学部】 アドミッションポリシーと学生募集、入学者選抜 の実施方法は整合性がとれていますか。	2016	○			年度初め
	5-5G	【研究科】 アドミッションポリシーと学生募集、入学者選抜 の実施方法は整合性がとれていますか。	2016	○			年度初め



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会  
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務課(相)  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	5-6U1	【学部】 学部全体および各学科において、適切な入学定員が設定されていますか。	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報5 入学者数推移及び入学定員に対する入学者数比率」		年度初め
	5-6U2	【学部】 学部・学科の入学者数が、入学定員に基づいて適正に(※)管理されていますか。  ※過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均が、以下の数値の範囲内であること。 ≪教育人間科学部心理学科≫ ≪理工学部≫ 0.9以上1.20未満 ≪上記以外の学部学科≫ 0.9以上1.25未満	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報5 入学者数推移及び入学定員に対する入学者数比率」	(1205人÷5年)÷200人 = 1.205 確認:2016.5.14	年度初め
	5-6U3	【学部】 学部全体および各学科において、在籍学生数が収容定員に基づき適正に(※)管理されていますか。  ※ ・収容定員に対する在籍学生数比率が、以下の数値の範囲内であること。 ≪教育人間科学部心理学科≫ ≪理工学部≫ 0.9以上1.20未満 ≪上記以外の学部学科≫ 0.9以上1.25未満 ・編入学・転学部・転学科による在籍学生数比率の変動	2016	○	【学部】 大学資料集「教務課1 学生定員、在籍学生数及び収容定員充足率」 大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科試験結果」		年度初め



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会  
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務課(相)  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	5-7U1	【学部】 適切な編入学定員が設定されていますか。  ※編入学を実施していない場合は、便宜上「○」 とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科試 験結果」	青山学院女子短期大学から昼間部へ編入  <a href="http://www.aoyama.ac.jp/admission/undergraduate/examination/from_luce.html">http://www.aoyama.ac.jp/admission/undergraduate/examination/from_luce.html</a>	年度初め
	5-7U2	【学部】 編入学生数が編入学定員に基づき適正に(※1) 管理されていますか(※2)。  ※1編入学定員に対する編入学生数比率が、以 下の数値の範囲内であること。 《未完成学部を除く全学部学科》 0.7以上1.30未満 ※2編入学を実施していない場合は、便宜上 「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科試 験結果」	編入学の定員は募集要項には「若干名」となっ ている 編入転部学生在籍数 5人 2年 1名 3年 2名 4年 2名	年度初め
(7)	5-8G	【研究科】 研究科全体および各課程において、在籍学生数 が収容定員に基づき適正に(※)管理されていま すか。  ※収容定員に対する在籍学生数比率が、以下 の数値の範囲内であること。 《修士課程》《博士前期課程》《専門職学位 課程》 0.5以上2.00未満 《博士後期課程》《一貫制博士博士課程》 0.33以上2.00未満	2016	○	【研究科】 大学資料集「大学院1 ★大学院研究科の学生定員及び 在籍学生数」	※ 博士前期 在籍 32、定員 60 博士後期 在籍 20、定員 9  $52(\text{在籍者}) \div 69(\text{収容定員}) = 0.75362$ [確認日:2016年 5月17日]	年度初め
	5-9U1	【学部】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入 れの適切性(※)を検証するにあたり、会議体 (委員会等)・手続きが明文化されていますか。  ※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受 け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の 適切性	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第1号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :( )  第20回 教授会記録(2016.02.20)	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会  
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務課(相)  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(8)	5-9G1	【研究科】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。  ※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性	2016	○	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第1号 検証会議体: 研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 : ●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :( ) 第16回大学院社会情報学研究科教授会記録 (2016.02.09)	年度初め
	5-9U2	【学部】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。  ※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性	2016	○	【学部】 第21回教授会議題・議事録等 検証会議体: 教授会	【学部】 委任先議題・議事録等	年度末
	5-9G2	【研究科】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。  ※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性	2016	○	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 第2回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体: 研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任先議題・議事録等	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会  
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務課(相)  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(9)	5-10U	<p>【学部】 アドミッションポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		<a href="http://www.aoyama.ac.jp/faculty/ssi/objective.html#anchor_admissionpolicy">http://www.aoyama.ac.jp/faculty/ssi/objective.html#anchor_admissionpolicy</a> 確認日:(2016.5.14)	年度初め
	5-10G	<p>【研究科】 アドミッションポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		<a href="http://www.aoyama.ac.jp/faculty/graduate_ssi/objective.html">http://www.aoyama.ac.jp/faculty/graduate_ssi/objective.html</a> [確認日:2016年 5月17日]	年度初め

地球社会共生学部

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 地球社会共生学部自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
(1)	5-1U	【学部】 学部・学科の「教育研究上の目的」を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしたアドミッションポリシーが、学科ごとに定められていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日:(2016/05/13) 学部ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.gsc.aoyama.ac.jp/introduction/policy/">http://www.gsc.aoyama.ac.jp/introduction/policy/</a> 確認日:(2016/05/13) 学部パンフレット(2015年度)		年度初め
(2)	5-2U	【学部】 アドミッションポリシーが、公的な刊行物、ホームページ等によって、受験生を含む社会一般に対して公表されていますか。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日:(2016/05/13) 募集要項(2016年度) 学部ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.gsc.aoyama.ac.jp/introduction/policy/">http://www.gsc.aoyama.ac.jp/introduction/policy/</a> 確認日:(2016/05/13) 学部パンフレット(2015年度)		年度初め
(3)	5-4U	【学部】 学生募集および入学者選抜の方法は、受験生に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を受けるための能力・適性等を適切に判定するものとなっていますか(※)。  ※ ・入試方式・結果の公表 ・入学者選抜における透明性の確保 ・入試方式・試験問題・合否判定の適切性 など	2016	○		大学ホームページ(入学試験制度一覧 地球社会共生学部) <a href="http://www.aoyama.ac.jp/admission/undergraduate/examination/system_list.html">http://www.aoyama.ac.jp/admission/undergraduate/examination/system_list.html</a> 確認日:(2016/06/17)	年度初め
(4)	5-5U	【学部】 アドミッションポリシーと学生募集、入学者選抜の実施方法は整合性がとれていますか。	2016	○		大学ホームページ(入学試験情報 地球社会共生学部自己推薦出願資格) <a href="http://www.aoyama.ac.jp/admission/undergraduate/examination/recommendation_self.html#anchor_04">http://www.aoyama.ac.jp/admission/undergraduate/examination/recommendation_self.html#anchor_04</a> 確認日:(2016/06/17)	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 地球社会共生学部自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
(5)	5-6U1	【学部】 学部全体および各学科において、適切な入学定員が設定されていますか。	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報5 入学者数推移及び入学定員に対する入学者数比率」		年度初め
	5-6U2	【学部】 学部・学科の入学者数が、入学定員に基づいて適正に(※)管理されていますか。  ※過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均が、以下の数値の範囲内であること。 《教育人間科学部心理学科》《理工学部》 0.9以上1.20未満 《上記以外の学部学科》 0.9以上1.25未満	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報5 入学者数推移及び入学定員に対する入学者数比率」		年度初め
	5-6U3	【学部】 学部全体および各学科において、在籍学生数が収容定員に基づき適正に(※)管理されていますか。  ※ ・収容定員に対する在籍学生数比率が、以下の数値の範囲内であること。 《教育人間科学部心理学科》《理工学部》 0.9以上1.20未満 《上記以外の学部学科》 0.9以上1.25未満 ・編入学・転学部・転学科による在籍学生数比率の変動	2016	○	【学部】 大学資料集「教務課1 学生定員、在籍学生数及び収容定員充足率」 大学資料集「入学広報4 編入学・転学部・転学科試験結果」地球ではこれらの制度がない		年度初め



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 地球社会共生学部自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
(6)	5-7U1	【学部】 適切な編入学定員が設定されていますか。  ※編入学を実施していない場合は、便宜上「○」 とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科試 験結果」		年度初め
	5-7U2		2016	○	【学部】 大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科試 験結果」		年度初め
(7)	5-9U1	【学部】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入 れの適切性(※)を検証するにあたり、会議体 (委員会等)・手続きが明文化されていますか。  ※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受 け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の 適切性	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第1号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :2016年4月20日付承認 左記検証会議体からの委任先 :( <b>入試委員会</b> )	年度初め
	5-9U2	【学部】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入 れの適切性(※)は、明文化された手続きに従っ て定期的に検証され、その結果は改善につな がっていますか。  ※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受 け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の 適切性	2016	○	【学部】 第21回教授会議議事録等 検証会議体:教授会	【学部】 委任先議事録等 第2回入試委員会(2017/01/25) 「GSCの入試(一般A方式、センター入試を除く) に関する検討事項」	年度末



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 地球社会共生学部自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
(8)	5-10U	<p>【学部】 アドミッションポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		地球社会共生学部設置届け出書(平成26年4月24日)	年度初め

国際マネジメント研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	5-1G	【研究科】 研究科・専攻の「教育研究上の目的」を踏まえ、 求める学生像や、修得しておくべき知識等の内 容・水準等を明らかにしたアドミッションポリシ ーが、専攻および課程ごとに定められていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日:( 2016/6/1 )	研究科ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyamabs.jp/value/admissionpolicy.html">http://www.aoyamabs.jp/value/admissionpolicy.html</a> .	年度初め
(2)	5-2G	【研究科】 アドミッションポリシーが、公的な刊行物、ホーム ページ等によって、受験生を含む社会一般に対 して公表されていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日:( 2016/6/1 ) 募集要項 (2016 年度) 研究科パンフレット (2016 年度)	研究科ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyamabs.jp/value/admissionpolicy.html">http://www.aoyamabs.jp/value/admissionpolicy.html</a> . 研究科 2016年度入学案内 研究科2016年度Ph.D/DBA募集要項 研 究科2016年度MBA募集要項	年度初め
(3)	5-4G	【研究科】 学生募集および入学者選抜の方法は、受験生 に対して公正な機会を保証し、かつ大学教育を 受けるための能力・適性等を適切に判定するも のとなっていますか(※)。  ※ ・入試方式・結果の公表 ・入学者選抜における透明性の確保 ・入試方式・試験問題・合否判定の適切性 など	2016	○		研究科ホームページ 専門職 (MBA) <a href="http://www.aoyamabs.jp/application.mba/html">http://www.aoyamabs.jp/application.mba/html</a> . 研究科ホームページ 博士課程・一貫制博士 <a href="http://www.aoyamabs.jp/application/phddba.html">http://www.aoyamabs.jp/application/phddba.html</a> . 研究科2016年度Ph.D/DBA募集要項 研究科2016年度MBA募 集要項 MBA入試審査方法	年度初め
(4)	5-5G	【研究科】 アドミッションポリシーと学生募集、入学者選抜 の実施方法は整合性がとれていますか。	2016	○		研究科2016年度Ph.D/DBA募集要項 研究科2016年度MBA募 集要項 MBA入試審査方法 Ph.D/DBA入試プロセス(事前面 談の推奨と4名の教員による面接	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 {資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入}	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 {資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入}	チェック 可能時期
(5)	5-8G	<p>【研究科】 研究科全体および各課程において、在籍学生数が収容定員に基づき適正に(※)管理されていますか。</p> <p>※収容定員に対する在籍学生数比率が、以下の数値の範囲内であること。                      ≪修士課程≫ ≪博士前期課程≫ ≪専門職学位課程≫                      0.5以上2.00未満                      ≪博士後期課程≫ ≪一貫制博士課程≫                      0.33以上2.00未満</p>	2016	○	<p>【研究科】 大学資料集「大学院1 ★大学院研究科の学生定員及び在籍学生数」</p>		年度初め
(6)	5-9G1	<p>【研究科】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点                      ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性                      ・学生募集・入学者選抜方法の適切性                      ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性</p>	2016	○	<p>【専門職】 専門職大学院学則第56条第1項第1号 検証会議体: 研究科教授会</p> <p>【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第1号 検証会議体: 研究科教授会</p>	<p>【専門職】 委任に関する申し合わせ等 : ●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :( )</p> <p>【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 : ●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :( )</p>	年度初め
	5-9G2	<p>【研究科】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点                      ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性                      ・学生募集・入学者選抜方法の適切性                      ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性</p>	2016	○	<p>【専門職】 2017年度第3回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体: 研究科教授会</p> <p>【博士後期・一貫制博士】 2017年度第3回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体: 研究科教授会</p>	<p>【専門職】 2017年度第2回国際マネジメント研究科議事録 委任に関する申し合わせ等 : 2017年5月24日付承認 左記検証会議体からの委任先 :(国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会)</p> <p>【博士後期・一貫制博士】 2017年度第2回国際マネジメント研究科議事録 委任に関する申し合わせ等 : 2017年5月24日付承認 左記検証会議体からの委任先 :(国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会)</p>	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入〕	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入〕	チェック 可能時期
(7)	5-10G	<p>【研究科】 アドミッションポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		2016/6/1研究科自己点検・評価委員会で議論し、適切であることを確認	年度初め

# 法務研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法務研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部専門職大学院教務課

評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	5-1G	【研究科】 研究科・専攻の「教育研究上の目的」を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしたアドミッションポリシーが、専攻および課程ごとに定められていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日:( 6/9 )		年度初め
(2)	5-2G	【研究科】 アドミッションポリシーが、公的な刊行物、ホームページ等によって、受験生を含む社会一般に対して公表されていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日:( 6/9 ) 募集要項 ( 2017 年度) 研究科パンフレット ( 2017 年度)		年度初め
(3)	5-4G	【研究科】 学生募集および入学者選抜の方法は、受験生に対して公正な機会を保証し、かつ大学教育を受けるための能力・適性等を適切に判定するものとなっていますか(※)。 ※ ・入試方式・結果の公表 ・入学者選抜における透明性の確保 ・入試方式・試験問題・合否判定の適切性 など	2016	○		法務研究科ホームページ <a href="http://www.law.aoyama.ac.jp/selection/selection_result.html">http://www.law.aoyama.ac.jp/selection/selection_result.html</a> <a href="http://www.law.aoyama.ac.jp/selection/old_problem.html">http://www.law.aoyama.ac.jp/selection/old_problem.html</a> <a href="http://www.law.aoyama.ac.jp/Q_A/answer.html">http://www.law.aoyama.ac.jp/Q_A/answer.html</a>	年度初め
(4)	5-5G	【研究科】 アドミッションポリシーと学生募集、入学者選抜の実施方法は整合性がとれていますか。	2016	○		青山学院大学大学院法務研究科主任会規程	年度初め
(5)	5-8G	【研究科】 研究科全体および各課程において、在籍学生数が収容定員に基づき適正に(※)管理されていますか。 ※収容定員に対する在籍学生数比率が、以下の数値の範囲内であること。 《修士課程》《博士前期課程》《専門職学位課程》 0.5以上2.00未満 《博士後期課程》《一貫制博士課程》 0.33以上2.00未満	2016	×	【研究科】 大学資料集「大学院1 ★大学院研究科の学生定員及び在籍学生数」		年度初め



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法務研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部専門職大学院教務課

評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 〔・会議開催日 等を記入〕	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 〔・会議開催日 等を記入〕	チェック 可能時期
(6)	5-9G1	<p>【研究科】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性</p>	2016	○	<p>【専門職】 専門職大学院学則第56条第1項第1号 検証会議体: 研究科教授会</p>	<p>【専門職】 青山学院大学大学院法務研究科主任会規程 検証会議体:( 法務研究科主任会 )</p>	年度初め
	5-9G2	<p>【研究科】 学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性 ・学生募集・入学者選抜方法の適切性 ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性</p>	2016	○		<p>【研究科】 検証会議体:( 法務研究科教授会、主任会 ) 教授会記録</p>	年度末
(7)	5-10G	<p>【研究科】 アドミッションポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		法務研究科自己点検・評価報告書	年度初め

会計プロフェッション研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 会計プロフェッション研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	5-1G	【研究科】 研究科・専攻の「教育研究上の目的」を踏まえ、 求める学生像や、修得しておくべき知識等の内 容・水準等を明らかにしたアドミッションポリシ ーが、専攻および課程ごとに定められていますか。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日: (2016/5/25) ・入学試験要項 (2016年度)「2016年度青山学院大学大 学院会計プロフェッション研究科会計プロフェッション専攻 入学試験要項」 ・研究科パンフレット (2015年度)「青山学院大学大学院 会計プロフェッション研究科研究科案内2015」 ・研究科パンフレット (2015年度)「青山学院大学大学院 会計プロフェッション研究科研究科案内2015」 ・研究科パンフレット (2015年度)「青山学院大学大学院 会計プロフェッション研究科研究科案内2015」 ・研究科パンフレット (2015年度)「青山学院大学大学院 会計プロフェッション研究科研究科案内2015」	【研究科】 ・「青山学院大学会計プロフェッション研究科2014年度自 己点検評価報告書」	年度初め
(2)	5-2G	【研究科】 アドミッションポリシーが、公的な刊行物、ホーム ページ等によって、受験生を含む社会一般に対 して公表されていますか。	2016	○	【研究科】 ・大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> 確認日: (2016/5/25) ・募集要項 (2016年度)「2016年度青山学院大学大学院 会計プロフェッション研究科会計プロフェッション専攻入学 試験要項」 ・研究科パンフレット (2015年度)「青山学院大学大学院 会計プロフェッション研究科研究科案内2015」 ・研究科パンフレット (2015年度)「青山学院大学大学院 会計プロフェッション研究科研究科案内2015」 ・研究科パンフレット (2015年度)「青山学院大学大学院 会計プロフェッション研究科研究科案内2015」	【研究科】 ・「青山学院大学会計プロフェッション研究科2014年度自 己点検評価報告書」 ・入試説明会	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 会計プロフェッション研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部  
 評価基準： 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	5-4G	<p>【研究科】                      学生募集および入学者選抜の方法は、受験生                      に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を                      受けるための能力・適性等を適切に判定するも                      のとなっていますか(※)。</p> <p>※                      ・入試方式・結果の公表                      ・入学者選抜における透明性の確保                      ・入試方式・試験問題・合否判定の適切性 など</p>	2016	○		<p>【研究科】                      ・「青山学院大学会計プロフェッション研究科2014年度自                      己点検評価報告書」                      ・2015年度第2回会計プロフェッション研究科教授会 協議                      事項1、協議事項2                      ・2015年度会計プロフェッション研究科第3回教授会 協議                      事項1                      ・2015年度第4回会計プロフェッション研究科教授会 協議                      事項1                      ・2015年度第10回会計プロフェッション研究科教授会 協                      議事項1                      ・2015年度第12回会計プロフェッション研究科教授会 協                      議事項2                      ・2015年度第13回会計プロフェッション研究科教授会 協                      議事項4                      ・2015年度第14回会計プロフェッション研究科教授会 協                      議事項1                      ・2015年度第15回会計プロフェッション研究科教授会 協                      議事項3                      ・2015年度第17回会計プロフェッション研究科教授会 協                      議事項1                      ・2015年度第18回会計プロフェッション研究科教授会 協                      議事項6</p>	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 会計プロフェッション研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	5-5G	【研究科】 アドミッションポリシーと学生募集、入学者選抜 の実施方法は整合性がとれていますか。	2016	○	【研究科】 ・大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html</a> ・入学試験要項 (2016年度)「2016年度青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科会計プロフェッション専攻入学試験要項」 ・2016年度青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科プロフェSSIONナル会計学専攻博士後期課程一般入学試験要項」 ・研究科パンフレット (2015年度)「青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科研究科案内2015」 ・青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科プロフェSSIONナル会計学専攻博士後期課程案内2015」	【研究科】 ・「青山学院大学会計プロフェッション研究科2014年度自己点検評価報告書」 ・2015年度第2回会計プロフェッション研究科教授会 協議事項1、協議事項2 ・2015年度会計プロフェッション研究科第3回教授会 協議事項1 ・2015年度第4回会計プロフェッション研究科教授会 協議事項1 ・2015年度第10回会計プロフェッション研究科教授会 協議事項1 ・2015年度第12回会計プロフェッション研究科教授会 協議事項2 ・2015年度第13回会計プロフェッション研究科教授会 協議事項4 ・2015年度第14回会計プロフェッション研究科教授会 協議事項1 ・2015年度第15回会計プロフェッション研究科教授会 協議事項3 ・2015年度第17回会計プロフェッション研究科教授会 協議事項1 ・2015年度第18回会計プロフェッション研究科教授会 協議事項6	年度初め
(5)	5-8G	【研究科】 研究科全体および各課程において、在籍学生数が収容定員に基づき適正に(※)管理されていますか。  ※収容定員に対する在籍学生数比率が、以下の数値の範囲内であること。 ≪修士課程≫ ≪博士前期課程≫ ≪専門職学位課程≫ 0.5以上2.00未満 ≪博士後期課程≫ ≪一貫制博士博士課程≫ 0.33以上2.00未満	2016	○	【研究科】 大学資料集「大学院1 ★大学院研究科の学生定員及び在籍学生数」	【研究科】 ・「青山学院大学会計プロフェッション研究科2014年度自己点検評価報告書」	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 会計プロフェッション研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	5-9G1	<p>【研究科】                      学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点                      ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性                      ・学生募集・入学者選抜方法の適切性                      ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性</p>	2016	○	<p>【専門職】                      専門職大学院学則第56条第1項第1号                      検証会議体:研究科教授会</p> <p>【博士後期・一貫制博士】                      大学院学則第69条第1項第1号                      検証会議体:研究科教授会</p>	<p>【専門職】                      委任に関する申し合わせ等                      :2015年2月18日付承認                      左記検証会議体からの委任先                      :(入試委員会・FD委員会)                      ・入学試験要項 (2016年度)「2016年度青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科会計プロフェッション専攻入学試験要項」                      ・「青山学院大学会計プロフェッション研究科2014年度自己点検評価報告書」</p> <p>【博士後期・一貫制博士】                      委任に関する申し合わせ等                      :2015年2月18日付承認                      左記検証会議体からの委任先                      :(入試委員会・FD委員会)                      ・入学試験要項 (2016年度)「2016年度青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科プロフェSSIONナル会計学専攻博士後期課程一般入学試験要項」                      ・「青山学院大学会計プロフェッション研究科2014年度自己点検評価報告書」</p>	年度初め
	5-9G2	<p>【研究科】                      学生募集および入学者選抜など学生の受け入れの適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点                      ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性                      ・学生募集・入学者選抜方法の適切性                      ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性</p>	2016	○	<p>【専門職】                      専門職大学院学則第56条第1項第1号                      2016年度第2回研究科教授会協議事項1および2、第3回研究科教授会協議事項1、第5回研究科教授会協議事項2、第7回研究科教授会協議事項1、第8回研究科教授会報告事項4、第9回研究科教授会協議事項1および報告事項2、第10回研究科教授会協議事項1、第11回研究科教授会協議事項1、第12回研究科教授会協議事項1、2および報告事項2、第13回研究科教授会協議事項1、第15回研究科教授会協議事項4および報告事項3、第16回研究科教授会協議事項1および7、第17回研究科教授会協議事項3、4および報告事項2、第18回研究科教授会協議事項1、第19回研究科教授会報告事項3、2017年度第3回研究科教授会協議事項4~6                      検証会議体:研究科教授会</p> <p>【博士後期・一貫制博士】                      大学院学則第69条第1項第1号                      検証会議体:研究科教授会</p>	<p>【専門職】                      「青山学院大学会計プロフェッション研究科2016年度自己点検評価報告書」</p> <p>【博士後期・一貫制博士】                      「青山学院大学会計プロフェッション研究科2016年度自己点検評価報告書」</p>	年度末



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 会計プロフェッション研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部  
 評価基準： 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(7)	5-10G	<p>【研究科】 アドミッションポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点                      ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。                      ・現状や計画と大きな乖離がないか。                      ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。                      ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。                      ・ホームページ等で公表できる内容か。                      ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		<p>【研究科】                      ・「青山学院大学会計プロフェッション研究科2014年度自己点検評価報告書」                      ・2015年度第2回会計プロフェッション研究科教授会 協議事項1、協議事項2                      ・2015年度会計プロフェッション研究科第3回教授会 協議事項1                      ・2015年度第4回会計プロフェッション研究科教授会 協議事項1                      ・2015年度第10回会計プロフェッション研究科教授会 協議事項1                      ・2015年度第12回会計プロフェッション研究科教授会 協議事項2                      ・2015年度第13回会計プロフェッション研究科教授会 協議事項4                      ・2015年度第14回会計プロフェッション研究科教授会 協議事項1                      ・2015年度第15回会計プロフェッション研究科教授会 協議事項3                      ・2015年度第17回会計プロフェッション研究科教授会 協議事項1                      ・2015年度第18回会計プロフェッション研究科教授会 協議事項6</p>	年度初め



入学試験委員会

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 入学試験委員会

担当部署/担当者: 入学広報部

評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	5-1W	【大学全体】 「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」 を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知 識等の内容・水準等を明らかにしたアドミッション ポリシーが定められていますか。	2016	○	【大学全体】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ admission.html</a> 確認日:( 2016/4/20 )		年度初め
(2)	5-2W	【大学全体】 アドミッションポリシーが、公的な刊行物、ホーム ページ等によって、受験生を含む社会一般に対 して公表されていますか。	2016	○	【大学全体】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ admission.html</a> 確認日:( 2016/4/20 ) 入学試験要項 (2016年度) 学部学科/研究科パンフレット (———年度)		年度初め
(3)	5-3W	【大学全体】 障がいのある学生の受け入れ方針を定めていま すか。 また、その方針を公的な刊行物、ホームページ 等によって、受験生を含む社会一般に対して、公 表していますか。  ※内部質保証のための諸活動に関する方針の ひとつ	2016	×			年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 入学試験委員会

担当部署/担当者: 入学広報部

評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	5-4W	<p>【大学全体】 学生募集および入学者選抜の方法は、受験生 に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を 受けるための能力・適性等を適切に判定するも のとなっていますか(※)。</p> <p>※ ・入試方式・結果の公表 ・入学者選抜における透明性の確保 ・入試方式・試験問題・合否判定の適切性 など</p>	2016	○		<p>【入試方式・募集形式・志願状況、結果等の公表 (募集形式と結果についての透明性の確保を含 む)】 ・本学ホームページ「入学試験情報」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/admission/undergraduate/examination/">http://www.aoyama.ac.jp/admission/undergraduate/examination/</a> (確認日2016/4/20) ・2016年度入学試験データ&amp;ガイド ・2016年度入学試験要項</p> <p>【入試成績開示(不合格者のみ)】 ・入学試験要項(2016年度 p.44)</p> <p>【推薦・特別入試問題(一部除く)の公表(窓口配 付)】 ・2016年度入学試験問題</p> <p>【入試問題の第三者による確認】 ・入試問題の適切性を保持するため、試験終了 後、外部機関による確認作業を行っている。内容 の性質上、根拠資料は提示不可。</p> <p>【入学者選抜・入試方式・入試問題・合否判定の 適切性】 ・各学部・研究科において管理、運用し、点検を 行っている。</p>	年度初め
(5)	5-5W	<p>【大学全体】 アドミッションポリシーと学生募集、入学者選抜 の実施方法は整合性がとれていますか。</p>	2016	×		2016年度入学試験要項より趣旨(目的)抜粋一覧	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 入学試験委員会

担当部署/担当者： 入学広報部

評価基準： 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	5-6W1	<p>【大学全体】 各学部・学科における適切な入学定員の設定および入学者数の適正な(※)管理が確認されていますか。</p> <p>※過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均が、以下の数値の範囲内であること。                      ≪教育人間科学部心理学科≫ ≪理工学部≫                      0.9以上1.20未満                      ≪上記以外の学部学科≫                      0.9以上1.25未満</p>	2016	○	<p>【大学全体】 大学資料集「入学広報5 入学者数推移及び入学定員に対する入学者数比率」</p>		年度初め
(7)	5-9W	<p>【大学全体】 各学部・研究科において、学生募集および入学者選抜など(※1)学生の受け入れの適切性(※2)を検証する会議体(委員会等)・手続きが明文化されていること、また、それによって定期的に検証され、改善につながっていることが確認されていますか。</p> <p>※1 一般入試、大学入試センター試験利用入試、推薦・特別入試、編入学試験、転学部・転学科試験、大学院入試などすべてを含む。                      ※2適切性の視点                      ・アドミッションポリシー・障がいのある学生の受け入れ方針との適合性                      ・学生募集・入学者選抜方法の適切性                      ・定員設定・入学者数比率・在籍学生数比率の適切性                      ※3                      編入学試験、転学部・転学科試験については、学務部からの実施状況等の報告を踏まえる。</p>	2016	×		<p>【大学全体】 ①入学試験委員会 (根拠規程:「青山学院入学試験委員会規則」) 第1回(2016.4.5)議事1 ②学部長会 (根拠規程:「学部長会規則」) 第13回(2016.12.12)議事25[アドミッションポリシー] 第8回(2016.7.25)報告6[障がいのある学生の受け入れ委方針] 第16回(2017.3.13)議事14[各学部の入試の概要および変更点] ③大学協議会 (根拠規程:「大学協議会規則」)</p>	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 入学試験委員会

担当部署/担当者: 入学広報部

評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(8)	5-10W	<p>【大学全体】 アドミッションポリシーは適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 ・3ポリシー策定に関する基本的な考え方(3ポリシー修正マニュアル参照)の内容に則ったものか。 など</p> <p>適切でない場合は修正案を作成のうえ、上位の委員会へ附議してください。</p>	2016	✕			年度初め

学務部

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	5-1W	【大学全体】 「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」 を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知 識等の内容・水準等を明らかにしたアドミッション ポリシーが定められていますか。	2016		【大学全体】 大学ホームページ「アドミッションポリシー」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/admission.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ admission.html</a> 確認日:( )		年度初め
(2)	5-6W2	【大学全体】 各学部・学科における収容定員に基づいた在籍 学生数の適正な(※)管理が確認されていますか。  ※ ・収容定員に対する在籍学生数比率が、以下の 数値の範囲内であること。 《教育人間科学部心理学科》《理工学部》 0.9以上1.20未満 《上記以外の学部学科》 0.9以上1.25未満 ・編入学・転学部・転学科による在籍学生数比率 の変動	2016	○	【大学全体】 大学資料集「教務課1 学生定員、在籍学生数及び収容 定員充足率」 大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科試 験結果」		年度初め
(3)	5-7W	【大学全体】 編入学を実施している学部・学科における適切 な編入学定員の設定および編入学生数の適正 な(※)管理が確認されていますか。  ※編入学定員に対する編入学生数比率が、以 下の数値の範囲内であること。 《未完成学部を除く全学部学科》 0.7以上1.30未満	2016	○	【大学全体】 大学資料集「入学広報4 編入学・転部・転学部・転学科試 験結果」		年度初め



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 5(学生の受け入れ)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	5-8W	<p>【大学全体】 研究科・課程における収容定員に基づいた在籍 学生数の適正な(※)管理が確認されていま すか。</p> <p>※収容定員に対する在籍学生数比率が、以 下の数値の範囲内であること。                      ≪修士課程≫ ≪博士前期課程≫ ≪専門職学位 課程≫                      0.5以上2.00未満                      ≪博士後期課程≫ ≪一貫制博士課程≫                      0.33以上2.00未満</p>	2016	×	<p>【大学全体】 大学資料集「大学院1 ★大学院研究科の学生定員及び 在籍学生数」</p>		年度初め
(5)	5-9W	<p>【大学全体】 各学部・研究科において、学生募集および入 学者選抜など(※1)学生の受け入れの適切性(※ 2)を検証する会議体(委員会等)・手続きが明 文化されていること、また、それによって定 期的に検証され、改善につながっているこ とが確認されていますか。</p> <p>※1 一般入試、大学入試センター試験利用入 試、推薦・特別入試、編入学試験、転学 部・転学科試験、大学院入試などすべて を含む。                      ※2適切性の視点                      ・アドミッションポリシー・障がいのある 学生の受け入れ方針との適合性                      ・学生募集・入学者選抜方法の適切性                      ・定員設定・入学者数比率・在籍学生 数比率の適切性</p>	2016	×		<p>【大学全体】 議題・議事録等 検証会議体:( )</p>	年度末

## 2016年度 自己点検・評価結果

### 基準6 学生支援

文学部・文学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会  
 文学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	6-2U1	【学部】 修学支援に関する方針に沿って、留年者及び 休・退学者の状況を把握し、対処するための仕 組みや組織体制を整備し、適切に運用しまし たか。	2016	○	大学資料集「教務課3 進級・卒業・留年・身分異動状況」 大学資料集「教務課4 退学・休学内訳一覧」確認日: (2017.6.1)		年度末
	6-2G1	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、留年者及び 休・退学者の状況を把握し、対処するための仕 組みや組織体制を整備し、適切に運用しまし たか。	2016	○	大学資料集「大学院3 ★身分異動状況」 大学資料集「大学院4 最低年限超過学生数」確認日: (2017.6.4)		年度末
	6-2U2	【学部】 修学支援に関する方針に沿って、学生の能力に 応じた補習教育を実施するための仕組みや組織 体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	×			年度末
	6-2G2	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、学生の能力に 応じた補習教育を実施するための仕組みや組織 体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	×			年度末
	6-2U3	【学部】 修学支援に関する方針に沿って、障がい学生に 対する修学支援を実施するための仕組みや組 織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	×			年度末
	6-2G3	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、障がい学生に 対する修学支援を実施するための仕組みや組 織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	×			年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会  
 文学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	6-8U	【学部】 学生の進路支援に関して、学部独自に取組みを行いましたか。行っている場合は、具体的に備考欄に記載の上、根拠資料を挙げてください。	2016	×			年度末
	6-8G	【研究科】 学生の進路支援に関して、研究科独自に取組みを行いましたか。行っている場合は、具体的に備考欄に記載の上、根拠資料を挙げてください。	2016	×		アカデミック・キャリア支援として、日本学術振興会特別研究員申請に関する説明会を実施する準備を、2016年度中に行った。そのうえで、2017年4月26日に説明会を実施した(史学科)。	年度末

教育人間科学部・教育人間科学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会  
 教育人間科学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者： 学務部  
 評価基準： 6（学生支援）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
(1)	6-2U1	【学部】 修学支援に関する方針に沿って、留年者及び 休・退学者の状況を把握し、対処するための 仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しま したか。	2016	○	大学資料集「教務課3 進級・卒業・留年・身分異動 状況」 大学資料集「教務課4 退学・休学内訳一覧」	2016年度教育人間科学部教授会議事録（全 回）	年度末
	6-2G1	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、留年者及び 休・退学者の状況を把握し、対処するための 仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しま したか。	2016	○	大学資料集「大学院3 ★身分異動状況」 大学資料集「大学院4 最低年限超過学生数」	2016年度教育人間科学研究科教授会議事録 （全回）	年度末
	6-2U2	【学部】 修学支援に関する方針に沿って、学生の能力 に応じた補習教育を実施するための仕組みや 組織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○		第19回教育人間科学部教授会（2016年3月10 日）資料	年度末
	6-2G2	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、学生の能力 に応じた補習教育を実施するための仕組みや 組織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○		第19回教育人間科学部教授会（2016年3月10 日）資料	年度末
	6-2U3	【学部】 修学支援に関する方針に沿って、障がい学生 に対する修学支援を実施するための仕組みや 組織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○		第19回教育人間科学部教授会（2016年3月10 日）資料	年度末
	6-2G3	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、障がい学生 に対する修学支援を実施するための仕組みや 組織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○		第19回教育人間科学部教授会（2016年3月10 日）資料	年度末



**自己点検・評価チェックリスト**

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会  
 教育人間科学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者： 学務部  
 評価基準： 6（学生支援）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
(2)	6-8U	【学部】 学生の進路支援に関して、学部独自に取組み を行いましたか。行っている場合は、具体的に 備考欄に記載の上、根拠資料を挙げてくださ い。	2016	○			年度末
	6-8G	【研究科】 学生の進路支援に関して、研究科独自に取組 みを行いましたか。行っている場合は、具体 的に備考欄に記載の上、根拠資料を挙げてく ださい。	2016	×			年度末

経済学部・経済学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会  
 経済学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	6-2U1	【学部】 修学支援に関する方針に沿って、留年者及び 休・退学者の状況を把握し、対処するための仕 組みや組織体制を整備し、適切に運用しまし たか。	2016	○	大学資料集「教務課3 進級・卒業・留年・身分異動状況」 大学資料集「教務課4 退学・休学内訳一覧」2017/5/10 確認	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事 録	年度末
	6-2G1	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、留年者及び 休・退学者の状況を把握し、対処するための仕 組みや組織体制を整備し、適切に運用しまし たか。	2016	○	大学資料集「大学院3 ★身分異動状況」 大学資料集「大学院4 最低年限超過学生数」 2017/5/10確認	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事 録	年度末
	6-2U2	【学部】 修学支援に関する方針に沿って、学生の能力に 応じた補習教育を実施するための仕組みや組織 体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○		第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事 録	年度末
	6-2G2	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、学生の能力に 応じた補習教育を実施するための仕組みや組織 体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○		第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事 録	年度末
	6-2U3	【学部】 修学支援に関する方針に沿って、障がい学生に 対する修学支援を実施するための仕組みや組 織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○		第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事 録	年度末
	6-2G3	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、障がい学生に 対する修学支援を実施するための仕組みや組 織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○		第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事 録	年度末

**自己点検・評価チェックリスト**

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会  
 経済学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 〔・会議開催日 等を記入〕	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 〔・会議開催日 等を記入〕	チェック 可能時期
(2)	6-8U	【学部】 学生の進路支援に関して、学部独自に取組みを行いましたか。行っている場合は、具体的に備考欄に記載の上、根拠資料を挙げてください。	2016	○		第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末
	6-8G	【研究科】 学生の進路支援に関して、研究科独自に取組みを行いましたか。行っている場合は、具体的に備考欄に記載の上、根拠資料を挙げてください。	2016	○		第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末

法学部・法学研究科

## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会  
 法学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	6-2U1	【学部】 修学支援に関する方針に沿って、留年者及び 休・退学者の状況を把握し、対処するための仕 組みや組織体制を整備し、適切に運用しまし たか。	2016	○	大学資料集「教務課3 進級・卒業・留年・身分異動状況」 大学資料集「教務課4 退学・休学内訳一覧」		年度末
	6-2G1	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、留年者及び 休・退学者の状況を把握し、対処するための仕 組みや組織体制を整備し、適切に運用しまし たか。	2016	○	大学資料集「大学院3 ★身分異動状況」 大学資料集「大学院4 最低年限超過学生数」		年度末
	6-2U2	【学部】 修学支援に関する方針に沿って、学生の能力に 応じた補習教育を実施するための仕組みや組織 体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○	【学部】 「単位僅少者面談に関する基準」		年度末
	6-2G2	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、学生の能力に 応じた補習教育を実施するための仕組みや組織 体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○	【研究科】 「単位僅少者面談に関する基準」		年度末
	6-2U3	【学部】 修学支援に関する方針に沿って、障がい学生に 対する修学支援を実施するための仕組みや組 織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○	【学部】 学部独自の内規・とりきめ 等		年度末
	6-2G3	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、障がい学生に 対する修学支援を実施するための仕組みや組 織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○	【研究科】 研究科独自の内規・とりきめ 等		年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会  
 法学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
(2)	6-8U	【学部】 学生の進路支援に関して、学部独自に取組みを行いましたか。行っている場合は、具体的に備考欄に記載の上、根拠資料を挙げてください。	2016	○	【学部】 「インターンシップ」「研修・インターンシップ」シラバス・説明会		年度末
	6-8G	【研究科】 学生の進路支援に関して、研究科独自に取組みを行いましたか。行っている場合は、具体的に備考欄に記載の上、根拠資料を挙げてください。	2016	×			年度末



経営学部・経営学研究科

## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会  
 経営学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	6-2U1	【学部】 修学支援に関する方針に沿って、留年者及び休・退学者の状況を把握し、対処するための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○	大学資料集「教務課3 進級・卒業・留年・身分異動状況」 大学資料集「教務課4 退学・休学内訳一覧」		年度末
	6-2G1	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、留年者及び休・退学者の状況を把握し、対処するための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○	大学資料集「大学院3 ★身分異動状況」 大学資料集「大学院4 最低年限超過学生数」		年度末
	6-2U2	【学部】 修学支援に関する方針に沿って、学生の能力に応じた補習教育を実施するための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○	成績不振者面談を前・後期に実施 資料: 面談記録 英語必修科目でフォローアップ講座を開講 大学ホームページ「講義内容」 <a href="http://syllabus.aoyama.ac.jp/">http://syllabus.aoyama.ac.jp/</a>		年度末
	6-2G2	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、学生の能力に応じた補習教育を実施するための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	×			年度末
	6-2U3	【学部】 修学支援に関する方針に沿って、障がい学生に対する修学支援を実施するための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○	教育支援課受付の配慮申請願に基づき、教務課で学生および保証人と面談、主任面談のうえ、各講義担当者に就学支援を依頼する。明文化した規則はないが、学部内の体制は整備し運用した。 根拠資料: 配慮依頼申請および面談記録、修学支援依頼状		年度末
	6-2G3	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、障がい学生に対する修学支援を実施するための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○	教育支援課受付の配慮申請願に基づき、教務課で学生および保証人と面談、主任面談のうえ、各講義担当者に就学支援を依頼する。明文化した規則はない。 根拠資料: ※2016年度該当者なし		年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会  
 経営学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	6-8U	【学部】 学生の進路支援に関して、学部独自に取り組ま を行いましたか。行っている場合は、具体的に備 考欄に記載の上、根拠資料を挙げてください。	2016	×			年度末
	6-8G	【研究科】 学生の進路支援に関して、研究科独自に取り組 を行いましたか。行っている場合は、具体的に備 考欄に記載の上、根拠資料を挙げてください。	2016	×			年度末

国際政治経済学部・国際政治経済学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会  
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	6-2U1	【学部】 修学支援に関する方針に沿って、留年者及び 休・退学者の状況を把握し、対処するための仕 組みや組織体制を整備し、適切に運用しまし たか。	2016	○	大学資料集「教務課3 進級・卒業・留年・身分異動状況」 https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/d-gakuchou/jikotenken- hyouka/shiryoushu/shiryoy2016/5.kyoumu/kyoumuka3.pdf 大学資料集「教務課4 退学・休学内訳一覧」 https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/d-gakuchou/jikotenken- hyouka/shiryoushu/shiryoy2016/5.kyoumu/kyoumuka4.pdf		年度末
	6-2G1	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、留年者及び 休・退学者の状況を把握し、対処するための仕 組みや組織体制を整備し、適切に運用しまし たか。	2016	×	大学資料集「大学院3 ★身分異動状況」 https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/d-gakuchou/jikotenken- hyouka/shiryoushu/shiryoy2016/5.kyoumu/daigakuin3.pdf 大学資料集「大学院4 最低年限超過学生数」 https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/d-gakuchou/jikotenken- hyouka/shiryoushu/shiryoy2017/5.kyoumu/daigakuin4.pdf		年度末
	6-2U2	【学部】 修学支援に関する方針に沿って、学生の能力に 応じた補習教育を実施するための仕組みや組織 体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	×			年度末
	6-2G2	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、学生の能力に 応じた補習教育を実施するための仕組みや組織 体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	×			年度末
	6-2U3	【学部】 修学支援に関する方針に沿って、障がい学生に 対する修学支援を実施するための仕組みや組 織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○			年度末
	6-2G3	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、障がい学生に 対する修学支援を実施するための仕組みや組 織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○			年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会  
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	6-8U	【学部】 学生の進路支援に関して、学部独自に取組みを行いましたか。行っている場合は、具体的に備考欄に記載の上、根拠資料を挙げてください。	2016	○		学部パンフレット(卒業生のメッセージと就職活動体験が紹介されている、外交・国際公務指導室とジャーナリズム指導室が組織運営されている)	年度末
	6-8G	【研究科】 学生の進路支援に関して、研究科独自に取組みを行いましたか。行っている場合は、具体的に備考欄に記載の上、根拠資料を挙げてください。	2016	○		研究科パンフレット(卒業生のメッセージと就職活動体験が紹介されている)	年度末

総合文化政策学部・総合文化政策学研究科



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会  
 総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	6-2U1	【学部】 修学支援に関する方針に沿って、留年者及び 休・退学者の状況を把握し、対処するための仕 組みや組織体制を整備し、適切に運用しまし たか。	2016	○	大学資料集「教務課3 進級・卒業・留年・身分異動状況」 大学資料集「教務課4 退学・休学内訳一覧」		年度末
	6-2G1	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、留年者及び 休・退学者の状況を把握し、対処するための仕 組みや組織体制を整備し、適切に運用しまし たか。	2016	○	大学資料集「大学院3 ★身分異動状況」 大学資料集「大学院4 最低年限超過学生数」		年度末
	6-2U2	【学部】 修学支援に関する方針に沿って、学生の能力に 応じた補習教育を実施するための仕組みや組織 体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	×			年度末
	6-2G2	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、学生の能力に 応じた補習教育を実施するための仕組みや組織 体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	×			年度末
	6-2U3	【学部】 修学支援に関する方針に沿って、障がい学生に 対する修学支援を実施するための仕組みや組 織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	×			年度末
	6-2G3	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、障がい学生に 対する修学支援を実施するための仕組みや組 織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	×			年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会  
 総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	6-8U	【学部】 学生の進路支援に関して、学部独自に取組みを行いましたか。行っている場合は、具体的に備考欄に記載の上、根拠資料を挙げてください。	2016	○		2016年11月末から12月初旬に一般企業との共催で仕事研究セミナーを開催した。 <a href="https://www.kurihaku.jp/2018/event/show/id/13">https://www.kurihaku.jp/2018/event/show/id/13</a> <a href="https://www.kurihaku.jp/2018/event/show/id/14">https://www.kurihaku.jp/2018/event/show/id/14</a> <a href="https://www.kurihaku.jp/2018/event/show/id/15">https://www.kurihaku.jp/2018/event/show/id/15</a>	年度末
	6-8G	【研究科】 学生の進路支援に関して、研究科独自に取組みを行いましたか。行っている場合は、具体的に備考欄に記載の上、根拠資料を挙げてください。	2016	×			年度末

理工学部・理工学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会  
理工学研究科自己点検・評価委員会  
担当部署/担当者: 学務課(相)  
評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	6-2U1	【学部】 修学支援に関する方針に沿って、留年者及び 休・退学者の状況を把握し、対処するための仕 組みや組織体制を整備し、適切に運用しまし たか。	2016	○	大学資料集「教務課3 進級・卒業・留年・身分異動状況」 大学資料集「教務課4 退学・休学内訳一覧」kakuninnbi 確認日 2017年5月29日	物数: 学科会議議事録 2017/03/10 化生: 2017年1月18日、2017年3月10日 学科会議 議事録 電気: 第1回 平成28年4月1日、第13回 平成28年 10月20日、第13回 平成28年10月20日、第15回 平成28年11月30日 機械: 第3回教室会議メモ2016/5/25, 第7回教室 会議メモ2016/7/20, 第11回教室会議メモ 2016/11/9, 第17回教室会議メモ2017/2/27 経シス: 学会会議議事録2016.4.20, 2017.2.16, 2016.9.28 情テク: 学科会議議事録(2017/3/10)	年度末
	6-2G1	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、留年者及び 休・退学者の状況を把握し、対処するための仕 組みや組織体制を整備し、適切に運用しまし たか。	2016	×	大学資料集「大学院3 ★身分異動状況」 大学資料集「大学院4 最低年限超過学生数」 確認日 2017年5月29日	基礎科学: コース会議議事録 2017/02/17 化学: 2017年2月24日 コース会議メモ 機能物質: コース会議第五回議事録 2017.2.20/ 議事録送信3.20 生命科学: 該当者なし 電気: 第3回 平成28年5月11日、第5回 平成28年6 月8日 機械: 第17回教室会議メモ2017/2/27 知能情報: コース会議議事録(2016/9/17) マネテク: コース会議議事録2016.4.20, 2016.7.27	年度末
	6-2U2	【学部】 修学支援に関する方針に沿って、学生の能力に 応じた補習教育を実施するための仕組みや組織 体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○		物数: 学科会議議事録 2016/05/11 化生: 学科会議議事録(201605) 2016年5月11日 学科会議議事録 電気: 第2回 平成28年4月20日、第13回 平成28年 10月20日、第15回 平成28年11月30日 機械: 第3回教室会議メモ2016/5/25 経シス: 学科会議議事録2016.9.28 情テク: 学科会議議事録(2017/2/3)	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会  
 理工学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務課(相)  
 評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	6-2G2	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、学生の能力に 応じた補習教育を実施するための仕組みや組織 体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	×		基礎科学:コース会議議事録 2017/02/17 化学:2016年5月11日コース会議メモ 機能物質:コース会議2017年5月17日 生命科学:該当者なし 電気:×?(該当する学生が無く、対応無し) 機械:第2回教室会議メモ2016/5/11 知能情報:コース会議議事録(2017/1/11) マネテク:コース会議議事録2017.2.16	年度末
	6-2U3	【学部】 修学支援に関する方針に沿って、障がい学生に 対する修学支援を実施するための仕組みや組 織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○		物数:該当無し 電気:該当者無し 経シス:学会会議議事録2016.9.28 情テク:該当者なし	年度末
	6-2G3	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、障がい学生に 対する修学支援を実施するための仕組みや組 織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○		基礎科学:該当無し 化学:該当なし 電気:該当者無し マネテク:コース会議議事録2017.1.11 機能物質創成コース:該当なし 生命科学:該当なし 知能情報:該当者なし	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会  
 理工学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務課(相)  
 評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	6-8U	【学部】 学生の進路支援に関して、学部独自に取り組ま を行いましたか。行っている場合は、具体的に備 考欄に記載の上、根拠資料を挙げてください。	2016	○		物数:就職関連のお知らせ http://www.phys.aoyama.ac.jp/ 化生:進路(就職)説明会(20170201) http://www.chem.aoyama.ac.jp/Chem/job/2016/ , OBによる進路説明会 電気:ホームカミングデー(10月8日実施、当日の 案内文書) 機械:就職支援HP http://www.me.aoyama.ac.jp/~job2017/index.html 経シス:学科会議議事録2016.10.12, 2016.12.21 (学科による就職ガイダンス), 2017.2.16(OBが関 わる就職支援の検討) 情テク:就職説明会(2017/1/16)、OB/OGと語る会 (2017/2/23)WebAsh	年度末
	6-8G	【研究科】 学生の進路支援に関して、研究科独自に取り組 を行いましたか。行っている場合は、具体的に備 考欄に記載の上、根拠資料を挙げてください。	2016	○		基礎科学:進路・就職説明会資料 2017年1月20 日 化学:進路(就職)説明会(20170201) http://www.chem.aoyama.ac.jp/Chem/job/2016/ , OBによる進路説明会等 機能物質:最先端機能物質セミナー(日時) 生命科学: http://www.chem.aoyama.ac.jp/Chem/job/2016/( 化学コースと共通) 電気:ホームカミングデー(10月8日実施、当日の 案内文書) 機械:就職支援HP http://www.me.aoyama.ac.jp/~mech-job-new/ 知能情報:就職説明会(2017/1/16)、OB/OGと語る 会(2017/2/23)WebAsh マネテク:コース会議議事録2017.2.16	年度末

社会情報学部・社会情報学研究科



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 社会情報学部自己点検・評価委員会  
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者： 学務課（相）  
 評価基準： 6（学生支援）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 〔・会議開催日 等を記入〕	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 〔・会議開催日 等を記入〕	チェック 可能時期
(1)	6-2U1	【学部】 修学支援に関する方針に沿って、留年者及び休・退学者の状況を把握し、対処するための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○	大学資料集「教務課3 進級・卒業・留年・身分異動状況」 大学資料集「教務課4 退学・休学内訳一覧」	身分異動について教授会にて状況確認を行う	年度末
	6-2G1	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、留年者及び休・退学者の状況を把握し、対処するための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○	大学資料集「大学院3 ★身分異動状況」 大学資料集「大学院4 最低年限超過学生数」	教授会において身分異動の状況確認、審議を行う。 例：身分異動の審議をした研究科教授会記録参照	年度末
	6-2U2	【学部】 修学支援に関する方針に沿って、学生の能力に応じた補習教育を実施するための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○		数学質問部屋、英語質問部屋を設置し、それぞれ開室時間を公開している。	年度末
	6-2G2	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、学生の能力に応じた補習教育を実施するための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○		質問部屋を開設し、個別相談に応じる仕組み、体制を整えている。適切に運用されていると判断する。	年度末
	6-2U3	【学部】 修学支援に関する方針に沿って、障がい学生に対する修学支援を実施するための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○		障がい学生対応のための手引きを作成 学部での障がい者対応状況について説明会開催 開催日：第20回教授会	年度末
	6-2G3	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、障がい学生に対する修学支援を実施するための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○		学部と同様、修学支援が必要な学生については学科会議にて報告され、就学支援を行っている。また、就学に困難な問題があれば、学務課窓口にて受付、関連部署、教員組織との速やかな連携を行うよう運用しているが、今現在該当するような院生は在籍していない。	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 社会情報学部自己点検・評価委員会  
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者： 学務課（相）  
 評価基準： 6（学生支援）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 〔・会議開催日 等を記入〕	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 〔・会議開催日 等を記入〕	チェック 可能時期
(2)	6-8U	【学部】 学生の進路支援に関して、学部独自に取組みを行いましたか。行っている場合は、具体的に備考欄に記載の上、根拠資料を挙げてください。	2016	○		2017年1月10日（火）「社会情報学部仕事研究会実施要領」を元に企業研究、説明会を開催	年度末
	6-8G	【研究科】 学生の進路支援に関して、研究科独自に取組みを行いましたか。行っている場合は、具体的に備考欄に記載の上、根拠資料を挙げてください。	2016	○		全体的な支援体制に加え、学部独自の企業説明会等の実施を行っている。（企画内容を示すチラシを配布している）	年度末

地球社会共生学部

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 地球社会共生学部自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
(1)	6-2U1	【学部】 修学支援に関する方針に沿って、留年者及び 休・退学者の状況を把握し、対処するための仕 組みや組織体制を整備し、適切に運用しまし たか。	2016	○	大学資料集「教務課3 進級・卒業・留年・身分異動状況」 大学資料集「教務課4 退学・休学内訳一覧」		年度末
	6-2U2	【学部】 修学支援に関する方針に沿って、学生の能力に 応じた補習教育を実施するための仕組みや組 織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	×			年度末
	6-2U3	【学部】 修学支援に関する方針に沿って、障がい学生に 対する修学支援を実施するための仕組みや組 織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	×			年度末
(2)	6-8U	【学部】 学生の進路支援に関して、学部独自に取組みを 行いましたか。行っている場合は、具体的に備 考欄に記載の上、根拠資料を挙げてください。	2016	○		第1回教授会(2016年4月20日) 「地球社会共生学部における大学院進学につい て」	年度末

国際マネジメント研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	6-2G1	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、留年者及び 休・退学者の状況を把握し、対処するための仕 組みや組織体制を整備し、適切に運用しまし たか。	2016	○	大学資料集「大学院3 ★身分異動状況」 大学資料集「大学院4 最低年限超過学生数」	留年者・退学者に関して教授会・博士課程委員 会で報告、TOEIC準備講座・ビジネス英語講 座等を開設など様々な施策を通じ下学生の 修学支援に当たっている	年度末
	6-2G2	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、学生の能 力に応じた補習教育を実施するための仕組 みや組織体制を整備し、適切に運用しまし たか。	2016	○		MBA準備講座の開設、TOEIC準備講座の 開設、ビジネス英語講座の開設など様 々な施策を通じて学生の能力に応じた 教育を行っている	年度末
	6-2G3	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、障がい学 生に対する修学支援を実施するための仕組 みや組織体制を整備し、適切に運用しまし たか。	2016	×		該当事例なし	年度末
(2)	6-8G	【研究科】 学生の進路支援に関して、研究科独自 に取組みを行いましたか。行っている 場合は、具体的に備考欄に記載の上、 根拠資料を挙げてください。	2016	○		修了生による就職支援活動の実施、 インターンシップ科目の開講、企業 からのインターンシップ依頼の学 生への紹介など様々な進路支援活 動を行っている ・根拠資料 2017年度授業要覧MBA Programs、 2017年度授業要覧Ph.D/DBA Pro grams 2017年度大学院国際マ ネジメント研究科シラバス、研 究科ホームページなど	年度末

# 法務研究科



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法務研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部専門職大学院教務課

評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	6-2G1	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、留年者及び 休・退学者の状況を把握し、対処するための仕 組みや組織体制を整備し、適切に運用しまし たか。	2016	○	大学資料集「大学院3 ★身分異動状況」 大学資料集「大学院4 最低年限超過学生数」	法科大学院要覧(2016年度)	年度末
	6-2G2	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、学生の能力に 応じた補習教育を実施するための仕組みや組織 体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○		「コミットメント・ゼミ」実施概要、担当割当表	年度末
	6-2G3	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、障がい学生に 対する修学支援を実施するための仕組みや組 織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	×			年度末
(2)	6-8G	【研究科】 学生の進路支援に関して、研究科独自に取組み を行いましたか。行っている場合は、具体的に備 考欄に記載の上、根拠資料を挙げてください。	2016	○		研究科パンフレット ( 2017 年度 ) 大学ホームページ「進路・就職支援:就職支援・進 路相談」 <a href="http://http://www.law.aoyama.ac.jp/course/recruit.html">http://http://www.law.aoyama.ac.jp/course/recru it.html</a> 確認日:( 6/5 )	年度末

会計プロフェッション研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 会計プロフェッション研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	6-2G1	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、留年者及び 休・退学者の状況を把握し、対処するための仕 組みや組織体制を整備し、適切に運用しまし たか。	2016	○	大学資料集「大学院3 ★身分異動状況」 大学資料集「大学院4 最低年限超過学生数」 2016年度第10回研究科教授会報告事項1、2017年度第3 回研究科教授会協議事項5	「青山学院大学会計プロフェッション研究科2016 年度自己点検評価報告書」	年度末
	6-2G2	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、学生の能力に 応じた補習教育を実施するための仕組みや組織 体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○	「2017年度大学院要覧」16-17ページ 「研究科案内2016」20ページ 2017年度第3回研究科教授会協議事項5	「青山学院大学会計プロフェッション研究科2016 年度自己点検評価報告書」	年度末
	6-2G3	【研究科】 修学支援に関する方針に沿って、障がい学生に 対する修学支援を実施するための仕組みや組 織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○	2016年度第19回研究科教授会協議事項4、2017年度第3 回研究科教授会協議事項5	「青山学院大学会計プロフェッション研究科2016 年度自己点検評価報告書」	年度末
(2)	6-8G	【研究科】 学生の進路支援に関して、研究科独自に取組み を行いましたか。行っている場合は、具体的に備 考欄に記載の上、根拠資料を挙げてください。	2016	○	「2017年度大学院要覧」20ページ 「研究科案内2016」21ページ 2017年度第3回研究科教授会協議事項5	「青山学院大学会計プロフェッション研究科2016 年度自己点検評価報告書」	年度末

青山スタンダード教育機構

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 青山スタンダード教育機構

担当部署/担当者： 学務部

評価基準： 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	6-8A	【青スタ】 進路支援に関する方針に沿って、キャリア形成 支援教育の実施等、組織的・体系的な指導・助 言に必要な体制を整備し、適切に運用しました か。	2016	○		【青スタ】 関連規則等「青山学院大学青山スタンダード教育 機構規則」「青山学院大学インターンシッププログ ラム策定委員会設置要綱」 検証会議体(青山スタンダード教育機構会議、イ ンターンシッププログラム策定委員会)	年度末

大学宗教主任会

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 大学主教主任会

担当部署/担当者: 宗教センター、宗教センター相模原分室

評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	6-1W	<p>【大学全体】 「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、入学者の傾向等の特性を踏まえながら、学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)(※1)を明確に定めていますか(※2)。 また、その方針を公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、周知・公表していますか。</p> <p>※1内部質保証のための諸活動に関する方針のひとつ ※2 ・学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができること。 ・障がいのある学生への支援を含むこと。</p>	2016	○	<p>【大学全体】 大学ホームページ「学生支援に関する方針」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/support.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/support.html</a> 確認日:(2016.6.7)</p>	<p>2016年度大学宗教主任会基本方針 2016年度大学宗教委員会基本方針</p>	年度初め
(2)	6-7W	<p>【大学全体】 学生支援に関する方針に沿って、学生のキリスト教活動を支援するための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しましたか。</p>	2016	○		<p>2016年度大学宗教主任会基本方針 2016年度大学宗教委員会基本方針 大学宗教委員会の主な活動および諸委員会業務内容(2016年4月)</p>	年度末

## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 大学主教主任会

担当部署/担当者： 宗教センター、宗教センター相模原分室

評価基準： 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	6-9W1	<p>【大学全体】 学生支援の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)との適合性 ・学生支援の仕組みや組織体制の整備</p>	2016	○		<p>【大学全体】 関連規則等2016年度大学宗教主任会基本方針 2016年度大学宗教委員会基本方針 検証会議体:(大学宗教主任会、大学宗教委員会)</p>	年度初め
	6-9W2	<p>【大学全体】 学生支援の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)との適合性 ・学生支援の仕組みや組織体制の整備</p>	2016	○		<p>【大学全体】 議題・議事録等 2016年度大学宗教主任会議事録 検証会議体:(大学宗教主任会)</p>	年度末
(4)	6-10W	<p>【大学全体】 学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は修正案を作成のうえ、上位の委員会へ附議してください。</p>	2016	○		<p>議題・議事録等 2016年度大学宗教主任会 第1回議事録 検証会議体:(大学宗教主任会、ソーパター・プログラム運営委員会)</p>	年度初め



全学FD委員会

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 全学FD委員会  
 担当部署/担当者: 学務部、学務課(相模原)  
 評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	6-1W	<p>【大学全体】                      「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、入学者の傾向等の特性を踏まえながら、学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)(※1)を明確に定めていますか(※2)。                      また、その方針を公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、周知・公表していますか。</p> <p>※1内部質保証のための諸活動に関する方針のひとつ                      ※2                      ・学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができること。                      ・障がいのある学生への支援を含むこと。</p>	2016	○	<p>【大学全体】                      大学ホームページ「学生支援に関する方針」  <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/support.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/support.html</a>                      確認日:( 2016/5/10 )</p>		年度初め
(2)	6-2W2	<p>【大学全体】                      修学支援に関する方針に沿って、学生(学部学生、大学院学生および専門職大学院学生)の能力に応じた補習教育を実施するための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しましたか。</p>	2016	×			年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 全学FD委員会  
 担当部署/担当者： 学務部、学務課(相模原)  
 評価基準： 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	6-9W1	<p>【大学全体】 学生支援の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)との適合性 ・学生支援の仕組みや組織体制の整備</p>	2016	×		<p>【大学全体】 関連規則等 検証会議体：( )</p>	年度初め
	6-9W2	<p>【大学全体】 学生支援の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)との適合性 ・学生支援の仕組みや組織体制の整備</p>	2016	×		<p>【大学全体】 議題・議事録等 検証会議体：( )</p>	年度末
(4)	6-10W	<p>【大学全体】 学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は修正案を作成のうえ、上位の委員会へ附議してください。</p>	2016	○			年度初め

学務部

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	6-1W	<p>【大学全体】 「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、入学者の傾向等の特性を踏まえながら、学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)(※1)を明確に定めていますか(※2)。 また、その方針を公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、周知・公表していますか。</p> <p>※1内部質保証のための諸活動に関する方針のひとつ ※2 ・学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができること。 ・障がいのある学生への支援を含むこと。</p>	2016	○	<p>【大学全体】 大学ホームページ「学生支援に関する方針」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/support.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/support.html</a> 確認日:(2016.5.13)</p>		年度初め
(2)	6-2W1	<p>【大学全体】 修学支援に関する方針に沿って、学部学生、大学院学生および専門職大学院学生の留年者及び休・退学者の状況を把握し、対処するための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しましたか。</p>	2016	○	<p>大学資料集「教務課3 進級・卒業・留年・身分異動状況」 大学資料集「教務課4 退学・休学内訳一覧」 大学資料集「大学院3 ★身分異動状況」 大学資料集「大学院4 最低年限超過学生数」</p>	<p>成績不振者対応基準 成績不振学生への修学支援対応一覧</p>	年度末
	6-2W3	<p>【大学全体】 修学支援に関する方針に沿って、学部、研究科、専門職大学院に所属する障がい学生に対する修学支援を実施するための大学全体としての仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しましたか。</p>	2016	○		<p>授業対応依頼申請受付 定期試験対応アンケート 点字パソコン、プリンター等の用意と利用室の確保等</p>	年度末

## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	6-9W1	<p>【大学全体】 学生支援の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)との適合性 ・学生支援の仕組みや組織体制の整備</p>	2016	○		<p>【大学全体】 関連規則等 検証会議体:(学生支援部会、各委員会)</p>	年度初め
	6-9W2	<p>【大学全体】 学生支援の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)との適合性 ・学生支援の仕組みや組織体制の整備</p>	2016	○		<p>【大学全体】 第5回全学自己点検・評価委員会記録 学生支援部会報告書 検証会議体:(全学自己点検・評価委員会、 学生支援部会)</p>	年度末
(4)	6-10W	<p>【大学全体】 学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は修正案を作成のうえ、上位の委員会へ附議してください。</p>	2016	○	2015年度第6回全学自己点検委員会(2016.3.28)		年度初め

相模原事務部学務課

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 学務課(相模原)

評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	6-1W	<p>【大学全体】 「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、入学者の傾向等の特性を踏まえながら、学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)(※1)を明確に定めていますか(※2)。 また、その方針を公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、周知・公表していますか。</p> <p>※1内部質保証のための諸活動に関する方針のひとつ ※2 ・学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができること。 ・障がいのある学生への支援を含むこと。</p>	2016	○	<p>【大学全体】 大学ホームページ「学生支援に関する方針」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/support.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/support.html</a> 確認日:(2016.5.13)</p>		年度初め
(2)	6-2W1	<p>【大学全体】 修学支援に関する方針に沿って、学部学生、大学院学生および専門職大学院学生の留年者及び休・退学者の状況を把握し、対処するための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しましたか。</p>	2016	○	<p>大学資料集「教務課3 進級・卒業・留年・身分異動状況」 大学資料集「教務課4 退学・休学内訳一覧」 大学資料集「大学院3 ★身分異動状況」 大学資料集「大学院4 最低年限超過学生数」</p>	<p>成績不振者対応基準 成績不振学生への修学支援対応一覧</p>	年度末
	6-2W3	<p>【大学全体】 修学支援に関する方針に沿って、学部、研究科、専門職大学院に所属する障がい学生に対する修学支援を実施するための大学全体としての仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しましたか。</p>	2016	○		<p>授業対応依頼申請受付 定期試験対応アンケート 点字パソコン、プリンター等の用意と利用室の確保等</p>	年度末



## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 学務課(相模原)

評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	6-9W1	<p>【大学全体】 学生支援の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)との適合性 ・学生支援の仕組みや組織体制の整備</p>	2016	○		<p>【大学全体】 関連規則等 検証会議体:(学生支援部会、各委員会)</p>	年度初め
	6-9W2	<p>【大学全体】 学生支援の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)との適合性 ・学生支援の仕組みや組織体制の整備</p>	2016	○		<p>【大学全体】 第5回全学自己点検・評価委員会記録 学生支援部会報告書 検証会議体:(全学自己点検・評価委員会、 学生支援部会)</p>	年度末
(4)	6-10W	<p>【大学全体】 学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は修正案を作成のうえ、上位の委員会へ附議してください。</p>	2016	○	2015年度第6回全学自己点検委員会(2016.3.28)		年度初め

学生部委員会

## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 学生部委員会  
 担当部署/担当者: 学生生活部、学生生活課(相模原)  
 評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日・会議開催日等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日・会議開催日等を記入)	チェック可能時期
(1)	6-1W	【大学全体】 「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、入学者の傾向等の特性を踏まえながら、学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)(※1)を明確に定めていますか(※2)。 また、その方針を公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、周知・公表していますか。	2016	○	【大学全体】 大学ホームページ「学生支援に関する方針」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/support.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/support.html</a> 確認日:(2016年6月2日)	なし	年度初め
(2)	6-5W	【大学全体】 生活支援に関する方針に沿って、課外活動や学生の福利厚生のための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○	【大学全体】 大学資料集「学生生活1 学友会予算書」 大学資料集「学生生活2 学友会決算書」 大学資料集「学生生活3 特別援助金交付状況」 大学資料集「学生生活4 アドバイザーグループ引受教員数・登録者数・アドバイザー手当等」	【学友会運営委員会】 関連規則等: 青山学院大学学友会会則 検証会議体: 学友会運営委員会 ①2016年5月18日②2017年3月7日 【青山スポーツ】(スポーツ振興ホームページ) <a href="http://sports.aoyama.ac.jp/">http://sports.aoyama.ac.jp/</a> 【青山スポーツ】(冊子) 【青山学院大学クラブ紹介2016】(冊子) 【アドバイザー登録のしおり】(冊子) 【学生生活の手引き】(冊子) 【フィットネスセンター】(ホームページ) <a href="http://agufitnesscenter.web.fc2.com/">http://agufitnesscenter.web.fc2.com/</a>	年度末
(3)	6-2W4	【大学全体】 生活支援に関する方針に沿って、奨学金等の経済的支援を実施するための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○	大学資料集「学費・奨学金1 奨学金給付・貸与状況」 大学資料集「学費・奨学金2 主な奨学金の種類・概要」 大学資料集「学費・奨学金3 主な奨学金の応募・採用状況(学部)」 大学資料集「学費・奨学金4 奨学生数(学部)」 大学資料集「学費・奨学金5 ★主な奨学金の応募・採用状況(大学院)」 大学資料集「学費・奨学金6 ★奨学生数(大学院)」	・「奨学金ガイド」配布(新入生及び在学生在(希望者)) ・奨学金委員会 第1回 2016/6/16、第2回 2016/11/2、第3回 2017/1/25 ・青山学院大学経済支援給付奨学金委員会 第1回 2016/6/16、第2回 2016/11/2 ・青山学院スカラーシップ学校寄付金管理委員会 第1回 2016/6/16、第2回 2017/1/25 ・入学前予約型給付奨学金委員会 第1回 2016/6/16、第2回 2016/12/7、第3回 2017/1/25	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 学生部委員会  
 担当部署/担当者: 学生生活部、学生生活課(相模原)  
 評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日〕 ・会議開催日 等を記入〕	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日〕 ・会議開催日 等を記入〕	チェック可能時期
(4)	6-9W1	<p>【大学全体】 学生支援の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)との適合性 ・学生支援の仕組みや組織体制の整備</p>	2016	○		<p>【学生部委員会】 関連規則等: 大学学生部規則 検証会議体: 学生部委員会 【全学自己点検・評価委員会学生支援部会】 関連規則等: 検証会議体: 学生支援部会</p>	年度初め
	6-9W2	<p>【大学全体】 学生支援の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)との適合性 ・学生支援の仕組みや組織体制の整備</p>	2016	○		<p>【学生部委員会】 関連規則等: 大学学生部規則 検証会議体: 学生部委員会 ①2016年4月13日 ②2016年9月7日 ③2017年2月6日 ・大規模自然災害被災学生授業料等減免規則制定に関する件 ・障がい学生支援について ④2017年4月12日 ・課外教育プログラムについて</p>	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 学生部委員会  
 担当部署/担当者: 学生生活部、学生生活課(相模原)  
 評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	6-10W	<p>【大学全体】                      学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点                      ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。                      ・現状や計画と大きな乖離がないか。                      ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。                      ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。                      ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は修正案を作成のうえ、上位の委員会へ附議してください。</p>	2016	○		<p>【学生部委員会】                      関連規則等: 大学学生部規則                      検証会議体: 学生部委員会                      【全学自己点検・評価委員会学生支援部会】                      検証会議体: 学生支援部会</p>	年度初め

# 就職部委員会

## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 就職部委員会  
 担当部署/担当者: 進路・就職部、進路・就職課(相模原)  
 評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	6-1W	<p>【大学全体】                      「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、入学者の傾向等の特性を踏まえながら、学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)(※1)を明確に定めていますか(※2)。                      また、その方針を公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、周知・公表していますか。</p> <p>※1内部質保証のための諸活動に関する方針のひとつ                      ※2                      ・学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができること。                      ・障がいのある学生への支援を含むこと。</p>	2016	○	<p>【大学全体】                      大学ホームページ「学生支援に関する方針」  <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/support.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/support.html</a>                      確認日:(2016/6/3)</p>	<p>卒業生進路状況報告書、ガイダンス資料、保証人向け就職説明会、学生向け就活手帳「Ash2017」、Web-Ashの画面にて周知している。尚、発達障がいを含めて、障がいを持つ学生向けのガイダンスも年1回別枠で実施している。障がいを持つ学生への支援についてはHPにて公開している。2015年度のデータ等については6月末に更新予定</p>	年度初め
(2)	6-8W	<p>【大学全体】                      進路支援に関する方針に沿って、学生(学部学生、大学院学生および専門職大学院学生)の進路選択に関わるガイダンスを実施するほか、キャリアセンター等の設置、キャリア形成支援教育の実施等、組織的・体系的な指導・助言に必要な体制を整備し、適切に運用しましたか。</p>	2016	○	<p>年4回開催の就職部委員会(4/23、6/25、12/3、3/4)で承認された事項をガイダンスや支援行事を通じて実施。根拠規則:青山学院大学就職部運営規則)</p>	<p>新入生全員に入学後にオリエンテーションを実施し、キャリア形成支援のため体系的に支援し、充実した学生生活を送るよう指導した。また、新たに神奈川県くらし県民局と共同で「未来★自分史を描こう」と題して、11月に全学生対象に講座を開いた。3年生向けには学部ごとのガイダンスを実施。年間70回以上の行事・プログラムを実施している。(2016年度の具体的な内容は卒業生進路状況報告書に掲載)</p>	年度末

## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 就職部委員会

担当部署/担当者： 進路・就職部、進路・就職課(相模原)

評価基準： 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	6-9W1	<p>【大学全体】 学生支援の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)との適合性 ・学生支援の仕組みや組織体制の整備</p>	2016	○	学生支援における方針については、就職部委員会で確認済み	【大学全体】 関連規則等 検証会議体：(就職部委員会2015.12.2)	年度初め
	6-9W2	<p>【大学全体】 学生支援の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)との適合性 ・学生支援の仕組みや組織体制の整備</p>	2016	○	学生支援部会を設置し、学生支援方針を策定し、進路支援に関しても、学生支援方針に則った体制を構築している。	【大学全体】 議題・議事録等 検証会議体：(学生支援部会2016.6.24)	年度末
(4)	6-10W	<p>【大学全体】 学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は修正案を作成のうえ、上位の委員会へ附議してください。</p>	2016	○	実際の自己点検・評価については、毎年度末に就職部委員会にて検証している。	必要に応じて、学生支援部会にて関係部署との協議を実施している	年度初め



# 教職課程委員会

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 教職課程委員会  
 担当部署/担当者: 学務部、学務課(相模原)  
 評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日等を記入)	チェック 可能時期
(1)	6-1W	<p>【大学全体】                      「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、入学者の傾向等の特性を踏まえながら、学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)(※1)を明確に定めていますか(※2)。                      また、その方針を公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、周知・公表していますか。</p> <p>※1内部質保証のための諸活動に関する方針のひとつ                      ※2                      ・学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができること。                      ・障がいのある学生への支援を含むこと。</p>	2016	○	<p>【大学全体】                      大学ホームページ「学生支援に関する方針」  <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/support.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/support.html</a>                      確認日:( )</p>	5	年度初め
(2)	6-3W	<p>【大学全体】                      修学支援に関する方針に沿って、教職課程のための組織体制を整備し、適切に運用しましたか。</p>	2016	○		<p>大学ホームページ[教職課程に関する情報]  <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/teaching/system.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/teaching/system.html</a> 確認日:2017.6.5                      教員養成に係る取組/組織体制                      教職課程委員会の下に「教職課程指導室」を明記</p>	年度末
(3)	6-9W1	<p>【大学全体】                      学生支援の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点                      ・学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)との適合性                      ・学生支援の仕組みや組織体制の整備</p>	2016	○		<p>【大学全体】                      関連規則等                      教職課程委員会規則[2003.3.28 制定/2015.12.15 改正]                      検証会議体:(教職課程委員会・教職課程小委員会)</p>	年度初め
	6-9W2	<p>【大学全体】                      学生支援の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点                      ・学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)との適合性                      ・学生支援の仕組みや組織体制の整備</p>	2016	○		<p>【大学全体】                      関連規則等                      教職課程委員会規則[2003.3.28 制定/2016.11.8 改正]                      検証会議体:(教職課程委員会・教職課程小委員会)                      2016年度は委員会4回、小委員会2回開催</p>	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 教職課程委員会  
 担当部署/担当者: 学務部、学務課(相模原)  
 評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェック可能時期
(4)	6-10W	<p>【大学全体】                      学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点                      ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。                      ・現状や計画と大きな乖離がないか。                      ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。                      ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。                      ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は修正案を作成のうえ、上位の委員会へ附議してください。</p>	2016	○		概ね適切と考える	年度初め

国際交流委員会

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際交流委員会  
 担当部署/担当者: 学務部、学務課(相模原)  
 評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	6-1W	<p>【大学全体】                      「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、入学者の傾向等の特性を踏まえながら、学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)(※1)を明確に定めていますか(※2)。                      また、その方針を公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、周知・公表していますか。</p> <p>※1内部質保証のための諸活動に関する方針のひとつ                      ※2                      ・学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができること。                      ・障がいのある学生への支援を含むこと。</p>	2016	○	<p>【大学全体】                      大学ホームページ「学生支援に関する方針」  <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/support.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/support.html</a>                      確認日:(2016年4月1日)</p>	<p>&lt;概要&gt;                      国際交流センター専用ウェブサイトにて、適宜情報を発信している。派遣留学生希望者向けには、毎年「Study Abroad」を発行している。                      &lt;根拠資料&gt;                      ①WebSite:<a href="http://web.iec.aoyama.ac.jp/">http://web.iec.aoyama.ac.jp/</a>                      ②Study Abroad 2016</p>	年度初め
(2)	6-4W	<p>【大学全体】                      修学支援に関する方針に沿って、国際交流事業(※)のための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しましたか。</p> <p>※                      ・派遣交換留学、海外語学・文化研修                      ・留学生(短期受入交換・私費外国人)                      ・チャットルーム など</p>	2016	○	<p>【大学全体】                      大学資料集「国際交流6 奨学金給付・貸与状況」</p>	<p>&lt;根拠資料&gt;                      国際交流委員会資料                      奨学金受給者の在籍確認資料、受給報告書等</p>	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際交流委員会  
 担当部署/担当者: 学務部、学務課(相模原)  
 評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	6-9W1	<p>【大学全体】 学生支援の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)との適合性 ・学生支援の仕組みや組織体制の整備</p>	2016	○		<p>&lt;全般的な体制&gt; 国際交流委員会の承認のもと、派遣留学、受入留学、私費留学それぞれに、担当チームを組織し、適切な支援体制をとっている。相模原に関しては、学務課内に国際交流担当を2名置き、全般的な対応を行っている。</p> <p>&lt;根拠資料&gt; ①国際交流委員会開催日程 ②国際交流センター業務分担表</p>	年度初め
	6-9W2	<p>【大学全体】 学生支援の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)との適合性 ・学生支援の仕組みや組織体制の整備</p>	2016	○		<p>&lt;全般的な体制&gt;(永作) 国際交流センター自己点検・評価委員会を適宜開催し、学生支援方針などについて協議できる場を設けている。</p> <p>&lt;根拠資料&gt; 委員会関連資料</p>	年度末
(4)	6-10W	<p>【大学全体】 学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は修正案を作成のうえ、上位の委員会へ附議してください。</p>	2016	○		<p>&lt;概要&gt; 国際交流センター活動方針に則り、年度ごと目標を定めて活動している。時代の要請に配慮し補助金案件については、新規企画、規則改正などを通じて、獲得に資する取り組みを行っている</p> <p>&lt;根拠資料&gt; ①2016国際交流センター活動方針 ②海外インターンシップ要項 ③サマープログラム案内</p>	年度初め

学生相談センター運営委員会

## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 学生相談センター運営委員会  
 担当部署/担当者： 学生生活部、学生生活課(相模原)  
 評価基準： 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	6-1W	<p>【大学全体】                      「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、入学者の傾向等の特性を踏まえながら、学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)(※1)を明確に定めていますか(※2)。                      また、その方針を公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、周知・公表していますか。</p> <p>※1内部質保証のための諸活動に関する方針のひとつ                      ※2                      ・学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができること。                      ・障がいのある学生への支援を含むこと。</p>	2016	○	<p>【大学全体】                      大学ホームページ「学生支援に関する方針」  <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/support.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/support.html</a>                      確認日：(2016年5月12日)</p>		年度初め
(2)	6-2W5	<p>【大学全体】                      生活支援の方針に沿って、学生相談室等、学生の相談に応じる体制を構築して学生へ案内するための仕組みや組織体制を整備し、適切に(※)運用しましたか。</p> <p>※適切な視点                      保健管理センターとの連携 を含む</p>	2016	○		個人情報提供依頼書等の継続活用	年度末
	6-2W6	<p>【大学全体】                      生活支援の方針に沿って、各種ハラスメント防止に向けた取り組みのための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しましたか。</p>	2016	○		2016年4月1日付 ハラスメント相談員名簿	年度末



## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 学生相談センター運営委員会  
 担当部署/担当者: 学生生活部、学生生活課(相模原)  
 評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	6-9W1	<p>【大学全体】 学生支援の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)との適合性 ・学生支援の仕組みや組織体制の整備</p>	2016	○		<p>【大学全体】 関連規則等: 青山学院大学学生相談センター規則 検証会議体: 学生相談センター運営委員会 会議開催日: 2016年6月29日</p>	年度初め
	6-9W2	<p>【大学全体】 学生支援の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)との適合性 ・学生支援の仕組みや組織体制の整備</p>	2016	○		<p>【大学全体】 議題・議事録等 検証会議体: (学生支援部会) 開催実績なし</p>	年度末
(4)	6-10W	<p>【大学全体】 学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は修正案を作成のうえ、上位の委員会へ附議してください。</p>	2016	○		<p>【学生相談センター】 学生相談センター年報(2015年度) 発行日: 2016年7月1日</p>	年度初め

保健管理センター運営委員会

## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 保健管理センター運営委員会  
 担当部署/担当者: 学生生活部、学生生活課(相模原)  
 評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	6-1W	<p>【大学全体】                      「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、入学者の傾向等の特性を踏まえながら、学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)(※1)を明確に定めていますか(※2)。                      また、その方針を公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、周知・公表していますか。</p> <p>※1内部質保証のための諸活動に関する方針のひとつ                      ※2                      ・学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができること。                      ・障がいのある学生への支援を含むこと。</p>	2016	○	<p>【大学全体】                      大学ホームページ「学生支援に関する方針」  <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/support.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/support.html</a>                      確認日:(2016.6.8)</p>		年度初め
(2)	6-6W	<p>【大学全体】                      生活支援に関する方針に沿って、保健管理のための仕組みや組織体制を整備し、適切に(※)運用しましたか。</p> <p>※適切な視点                      学生相談センターとの連携 を含む</p>	2016	○		<p>【大学全体】                      関連規則等 青山学院大学保健管理センター規則                      検証会議体:(保健管理センター運営委員会 6月29日実施)</p>	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 保健管理センター運営委員会  
 担当部署/担当者: 学生生活部、学生生活課(相模原)  
 評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	6-9W1	<p>【大学全体】 学生支援の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)との適合性 ・学生支援の仕組みや組織体制の整備</p>	2016	○	<p>大学ホームページ http://www.aoyama.ac.jp/outline/facilities/health/ 確認日(2016.6.8)</p>	<p>【大学全体】 関連規則等 青山学院大学保健管理センター規則 検証会議体:(保健管理センター運営委員会)</p>	年度初め
	6-9W2	<p>【大学全体】 学生支援の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)との適合性 ・学生支援の仕組みや組織体制の整備</p>	2016	○		<p>【大学全体】 議題・議事録等 検証会議体:(保健管理センター運営委員会 6月29日実施)</p>	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 保健管理センター運営委員会  
 担当部署/担当者: 学生生活部、学生生活課(相模原)  
 評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	6-10W	<p>【大学全体】                      学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点                      ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。                      ・現状や計画と大きな乖離がないか。                      ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。                      ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。                      ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は修正案を作成のうえ、上位の委員会へ附議してください。</p>	2016	○	大学ホームページ <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/facilities/health/">http://www.aoyama.ac.jp/outline/facilities/health/</a> 確認日(2016.6.8) 大学ホームページ「学生支援に関する方針」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/support.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/support.html</a> 確認日:(2016.6.8)		年度初め

ボランティアセンター

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: ボランティアセンター

担当部署/担当者: 学生生活部

評価基準: 6(学生支援)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日〕 ・会議開催日 等を記入〕	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日〕 ・会議開催日 等を記入〕	チェック 可能時期
(2)	6-5W	【大学全体】 生活支援に関する方針に沿って、課外活動や学生の福利厚生のための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しましたか。	2016	○	【大学全体】 大学資料集「学生生活1 学友会予算書」 大学資料集「学生生活2 学友会決算書」 大学資料集「学生生活3 特別援助金交付状況」 大学資料集「学生生活4 アドバイザーグループ引受教員数・登録者数・アドバイザー手当等」	・ボランティアセンターホームページ <a href="http://volunteer-aoyamagakuin.jp/">http://volunteer-aoyamagakuin.jp/</a> 関連規則等: 青山学院大学ボランティアセンター規則 会議体: ボランティアセンター運営委員会、ボランティアセンター実務委員会 ボランティアセンターリーフレット ボランティアセンター2016年度活動報告書	年度末
(4)	6-9W2	【大学全体】 学生支援の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。  ※適切性の視点 ・学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援に関する方針)との適合性 ・学生支援の仕組みや組織体制の整備	2016	○		議題・議事録等 検証会議体: ボランティアセンター運営委員会 第1回2016年10月24日、第2回2017年1月7日、第3回2017年3月2日、 第4回2017年3月24日 ・2017年度事業計画(案)の件 ・相模原キャンパスにおけるVC設置準備プロジェクト(案)設置の件 検証会議体: ボランティアセンター実務委員会 ①2016年10月24日②2016年11月28日③2016年12月19日 ④2017年1月30日「相模原キャンパスボランティアセンター(仮称)設置に向けた調査結果について」 ⑤2017年2月27日 ⑥2017年3月21日「相模原キャンパスにおけるVC設置準備プロジェクト(案)設置の件」 ①2017年5月26日「自己点検・評価の件」他	年度末

2016年度 自己点検・評価結果

基準7 教育研究等環境



文学部・文学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会  
 文学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	7-3U1	【学部】 ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)、スチューデント・アシスタント(SA)、ITアシスタント(IT-A)等の人的支援について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、管理体制や関連規則等を整備し運用しましたか。	2016	○	【学部】 青山学院大学教育補助員規則 確認日:(2017.5.18)		年度末
	7-3G1	【研究科】 ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)、スチューデント・アシスタント(SA)、ITアシスタント(IT-A)等の人的支援について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、管理体制や関連規則等を整備し運用しましたか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学教育補助員規則 確認日:(2017.6.4)		年度末
	7-3U2	【学部】 研究倫理教育や研究不正行為への対応について、研究の特性上必要な場合、規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置を学部において独自に行いましたか。  ※研究の特性上必要でない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則確認日:(2017.5.18)		年度末
	7-3G2	【研究科】 研究倫理教育や研究不正行為への対応について、研究の特性上必要な場合、規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置を研究科において独自に行いましたか。  ※研究の特性上必要でない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則確認日:(2017.6.4)		年度末

教育人間科学部・教育人間科学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会  
 教育人間科学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者： 学務部  
 評価基準： 7（教育研究等環境）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	7-3U1	【学部】 ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、スチューデント・アシスタント (SA)、ITアシスタント (IT-A) 等の人的支援について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、管理体制や関連規則等を整備し運用しましたか。	2016	○	【学部】 青山学院大学教育補助員規則		年度末
	7-3G1	【研究科】 ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、スチューデント・アシスタント (SA)、ITアシスタント (IT-A) 等の人的支援について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、管理体制や関連規則等を整備し運用しましたか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学教育補助員規則		年度末
	7-3U2	【学部】 研究倫理教育や研究不正行為への対応について、研究の特性上必要な場合、規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置を学部において独自に行いましたか。  ※研究の特性上必要でない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則	教育人間科学部研究倫理審査委員会 青山学院大学教育人間科学部「研究倫理に関する内規」	年度末
	7-3G2	【研究科】 研究倫理教育や研究不正行為への対応について、研究の特性上必要な場合、規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置を研究科において独自に行いましたか。  ※研究の特性上必要でない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則	教育人間科学部研究倫理審査委員会 青山学院大学教育人間科学部「研究倫理に関する内規」	年度末

経済学部・経済学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会  
 経済学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	7-3U1	【学部】 ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)、スチューデント・アシスタント(SA)、ITアシスタント(IT-A)等の人的支援について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、管理体制や関連規則等を整備し運用しましたか。	2016	○	【学部】 青山学院大学教育補助員規則	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末
	7-3G1	【研究科】 ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)、スチューデント・アシスタント(SA)、ITアシスタント(IT-A)等の人的支援について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、管理体制や関連規則等を整備し運用しましたか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学教育補助員規則	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末
	7-3U2	【学部】 研究倫理教育や研究不正行為への対応について、研究の特性上必要な場合、規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置を学部において独自に行いましたか。  ※研究の特性上必要でない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末
	7-3G2	【研究科】 研究倫理教育や研究不正行為への対応について、研究の特性上必要な場合、規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置を研究科において独自に行いましたか。  ※研究の特性上必要でない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末

法学部・法学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会  
 法学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	7-3U1	【学部】 ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)、スチューデント・アシスタント(SA)、ITアシスタント(IT-A)等の人的支援について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、管理体制や関連規則等を整備し運用しましたか。	2016	○	【学部】 青山学院大学教育補助員規則		年度末
	7-3G1	【研究科】 ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)、スチューデント・アシスタント(SA)、ITアシスタント(IT-A)等の人的支援について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、管理体制や関連規則等を整備し運用しましたか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学教育補助員規則		年度末
	7-3U2	【学部】 研究倫理教育や研究不正行為への対応について、研究の特性上必要な場合、規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置を学部において独自に行いましたか。  ※研究の特性上必要でない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則		年度末
	7-3G2	【研究科】 研究倫理教育や研究不正行為への対応について、研究の特性上必要な場合、規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置を研究科において独自に行いましたか。  ※研究の特性上必要でない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則		年度末



経営学部・経営学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会  
 経営学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	7-3U1	【学部】 ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)、スチューデント・アシスタント(SA)、ITアシスタント(IT-A)等の人的支援について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、管理体制や関連規則等を整備し運用しましたか。	2016	○	【学部】 青山学院大学教育補助員規則		年度末
	7-3G1	【研究科】 ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)、スチューデント・アシスタント(SA)、ITアシスタント(IT-A)等の人的支援について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、管理体制や関連規則等を整備し運用しましたか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学教育補助員規則		年度末
	7-3U2	【学部】 研究倫理教育や研究不正行為への対応について、研究の特性上必要な場合、規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置を学部において独自に行いましたか。  ※研究の特性上必要でない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則		年度末
	7-3G2	【研究科】 研究倫理教育や研究不正行為への対応について、研究の特性上必要な場合、規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置を研究科において独自に行いましたか。  ※研究の特性上必要でない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則		年度末

国際政治経済学部・国際政治経済学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会  
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	7-3U1	【学部】 ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)、スチューデント・アシスタント(SA)、ITアシスタント(IT-A)等の人的支援について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、管理体制や関連規則等を整備し運用しましたか。	2016	○	【学部】 青山学院大学教育補助員規則 国際政治経済学部教育補助員規則運用細則 <a href="https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/soumu/JoureiV5HTMLContents/act/frame/frame110000425.htm">https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/soumu/JoureiV5HTMLContents/act/frame/frame110000425.htm</a>	2016年度第1回国際政治経済学部教授会(2016/4/20)協議事項14.、2016年度第3回国際政治経済学部教授会(2016/5/25)協議事項6.、2016年度第5回国際政治経済学部教授会(2016/6/22)協議事項6.、2016年度第8回国際政治経済学部教授会(2016/9/14)協議事項8.、2016年度第11回国際政治経済学部教授会(2016/10/19)協議事項3.	年度末
	7-3G1	【研究科】 ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)、スチューデント・アシスタント(SA)、ITアシスタント(IT-A)等の人的支援について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、管理体制や関連規則等を整備し運用しましたか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学教育補助員規則 国際政治経済学部教育補助員規則運用細則 <a href="https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/soumu/JoureiV5HTMLContents/act/frame/frame110000425.htm">https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/soumu/JoureiV5HTMLContents/act/frame/frame110000425.htm</a>		年度末
	7-3U2	【学部】 研究倫理教育や研究不正行為への対応について、研究の特性上必要な場合、規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置を学部において独自に行いましたか。  ※研究の特性上必要でない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則	2016年度第7回国際政治経済学部教授会(2016/7/20)報告事項4.	年度末
	7-3G2	【研究科】 研究倫理教育や研究不正行為への対応について、研究の特性上必要な場合、規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置を研究科において独自に行いましたか。  ※研究の特性上必要でない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則	2016年度第7回国際政治経済学部教授会(2016/7/20)報告事項4.	年度末

総合文化政策学部・総合文化政策学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会  
 総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	7-3U1	【学部】 ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)、スチューデント・アシスタント(SA)、ITアシスタント(IT-A)等の人的支援について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、管理体制や関連規則等を整備し運用しましたか。	2016	○	【学部】 青山学院大学教育補助員規則	総合文化政策学部教育補助員任用についての内規	年度末
	7-3G1	【研究科】 ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)、スチューデント・アシスタント(SA)、ITアシスタント(IT-A)等の人的支援について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、管理体制や関連規則等を整備し運用しましたか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学教育補助員規則		年度末
	7-3U2	【学部】 研究倫理教育や研究不正行為への対応について、研究の特性上必要な場合、規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置を学部において独自に行いましたか。  ※研究の特性上必要でない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則		年度末
	7-3G2	【研究科】 研究倫理教育や研究不正行為への対応について、研究の特性上必要な場合、規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置を研究科において独自に行いましたか。  ※研究の特性上必要でない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則		年度末

理工学部・理工学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会  
理工学研究科自己点検・評価委員会  
担当部署/担当者: 学務課(相)  
評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	7-3U1	【学部】 ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)、スチューデント・アシスタント(SA)、ITアシスタント(IT-A)等の人的支援について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、管理体制や関連規則等を整備し運用しましたか。	2016	○	【学部】 青山学院大学教育補助員規則	第3回学科主任会 2016年5月24日 第3回教授会 2016年5月25日  物数:TA関係書類一式 化生:学科会議議事録(2016.5, 2017.2) 電気:第18回 平成29年1月11日、第19回 平成29年1月19日 機械:第17回教室会議メモ2017/2/27 経シス:学科会議議事録 第2回 2016.4.20 情テク:学科会議議事録(2016/5/11)	年度末
	7-3G1	【研究科】 ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)、スチューデント・アシスタント(SA)、ITアシスタント(IT-A)等の人的支援について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、管理体制や関連規則等を整備し運用しましたか。	2016	×	【研究科】 青山学院大学教育補助員規則	基礎科学:コース会議議事録 2017/02/17 化学:2017年3月11日学科会議議事録(共通議題) 機能物質:TA講習会を卒業研究発表会後に開き、またマニュアルを作り運用 生命科学:学科会議議事録 2017年3月11日(化学コースと共通議題として) 電気:第18回 平成29年1月11日、第19回 平成29年1月19日 機械:第17回教室会議メモ2017/2/27 知能情報:コース会議議事録(2016/5/11) マネジメント	年度末
	7-3U2	【学部】 研究倫理教育や研究不正行為への対応について、研究の特性上必要な場合、規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置を学部において独自に行いましたか。  ※研究の特性上必要でない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則	第10回教授会 2016年10月19日  物数:× 化学:一部研究室で知財セミナーを開催している。 電気:× 情テク:学部全体の研修に参加 知能情報:学部全体の研修に参加	年度末



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会  
 理工学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務課(相)  
 評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	7-3G2	<p>【研究科】 研究倫理教育や研究不正行為への対応につ いて、研究の特性上必要な場合、規程の整備、研 修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫 理を浸透させるための措置を研究科において独 自に行いましたか。</p> <p>※研究の特性上必要でない場合は、便宜上 「○」とし、備考欄にその旨記載してください。</p>	2016	○	<p>【研究科】 青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則</p>	<p>第10回教授会 2016年10月19日</p> <p>基礎科学: ×                      化学: 一部研究室で知財セミナーを開催している。                      電気: ×                      情テク: 研究科全体の研修に参加                      機能物質コース会議第五回議事録 2017.2.20/議                      事録送信3.20また、最先端機能物質セミナーでも                      説明。                      生命科学: ×                      知能情報: 研究科全体の研修に参加</p>	年度末

社会情報学部・社会情報学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 社会情報学部自己点検・評価委員会  
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者： 学務課（相）  
 評価基準： 7（教育研究等環境）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 (・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	7-3U1	【学部】 ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、スチューデント・アシスタント (SA)、ITアシスタント (IT-A)等の人的支援について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、管理体制や関連規則等を整備し運用しましたか。	2016	○	【学部】 青山学院大学教育補助員規則	青山学院大学教育補助員規則を元に、採用に当たっては教授会にて審議し、結果を学部長会に付議している。 第2回社会情報学部教授会記録(2016. 5. 11)	年度末
	7-3G1	【研究科】 ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、スチューデント・アシスタント (SA)、ITアシスタント (IT-A)等の人的支援について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、管理体制や関連規則等を整備し運用しましたか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学教育補助員規則		年度末
	7-3U2	【学部】 研究倫理教育や研究不正行為への対応について、研究の特性上必要な場合、規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置を学部において独自に行いましたか。  ※研究の特性上必要でない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則	全専任教員対象の研修を行い、全教員が参加した。 研修日:2015. 7. 11 ※当日欠席した教員へは後日個別にて研修を行った。	年度末
	7-3G2	【研究科】 研究倫理教育や研究不正行為への対応について、研究の特性上必要な場合、規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置を研究科において独自に行いましたか。  ※研究の特性上必要でない場合は、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則		年度末

地球社会共生学部

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 地球社会共生学部自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	7-3U1	【学部】 ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシ スタント(RA)、スチューデント・アシスタ (SA)、ITアシスタント(IT-A)等の人的支援につ いて、教育研究等環境の整備に関する方針に 沿って、管理体制や関連規則等を整備し運用し ましたか。	2016	○	【学部】 青山学院大学教育補助員規則		年度末
	7-3U2	【学部】 研究倫理教育や研究不正行為への対応につ いて、研究の特性上必要な場合、規程の整備、研 修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫 理を浸透させるための措置を学部において独自 に行いましたか。  ※研究の特性上必要でない場合は、便宜上 「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則		年度末

国際マネジメント研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	7-3G1	【研究科】 ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)、スチューデント・アシスタント(SA)、ITアシスタント(IT-A)等の人的支援について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、管理体制や関連規則等を整備し運用し	2016	×	【研究科】 青山学院大学教育補助員規則	該当者なし	年度末
	7-3G2	【研究科】 研究倫理教育や研究不正行為への対応について、研究の特性上必要な場合、規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置を研究科において独自に行いましたか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則	論文剽窃チェックシステムを導入。学生に対する周知も行う。	年度末

# 法務研究科



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法務研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部専門職大学院教務課

評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	7-3G1	【研究科】 ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシ スタント(RA)、スチューデント・アシスタント (SA)、ITアシスタント(IT-A)等の人的支援につ いて、教育研究等環境の整備に関する方針に 沿って、管理体制や関連規則等を整備し運用し ましたか。	2016	×	【研究科】 青山学院大学教育補助員規則		年度末
	7-3G2	【研究科】 研究倫理教育や研究不正行為への対応につい て、研究の特性上必要な場合、規程の整備、研 修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫 理を浸透させるための措置を研究科において独 自に行いましたか。  ※研究の特性上必要でない場合は、便宜上 「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則		年度末

青山スタンダード教育機構

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 青山スタンダード教育機構

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	7-3A	【青スタ】 ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシ スタント(RA)、スチューデント・アシスタント (SA)、ITアシスタント(IT-A)等の人的支援につ いて、教育研究等環境の整備に関する方針に 沿って、管理体制や関連規則等を整備し運用し ましたか。	2016	○	【青スタ】 青山学院大学教育補助員規則	【青スタ】 青山スタンダード教育機構学生補助員要綱 青山学院大学青山スタンダード教育機構教育補 助員細則	年度末

庶務部

自己点検・評価チェックリスト(訂正版)

担当委員会:

担当部署/担当者: 庶務部

評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	7-1W	【大学全体】 教育研究等環境の整備に関する方針(※)を、「青山学院教育方針」および「青山学院大学の理念」を踏まえて定めていますか。また、その方針を公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員や社会一般に対して、周知・公表していますか。  ※内部質保証のための諸活動に関する方針のひとつ	2016	○	【大学全体】 大学ホームページ「教育研究等環境の整備に関する方針」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/environment.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/environment.html</a> 確認日:(2016年5月16日)		年度初め
(2)	7-2W	【大学全体】 校地および校舎面積が、法令上の基準(大学設置基準等)を満たしており、かつ運動場等の必要な施設・設備を整備していますか。	2016	○	【大学全体】 大学資料集「施設課1 主要施設の概況」 大学資料集「施設課3 校地、校舎、講義室・演習室等の面積」		年度初め
(3)	7-3W1	【大学全体】 施設・設備について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、バリアフリーに対応する等、施設・設備の安全性、利便性を向上させるような取り組みを行いましたか。	2016	○	【大学全体】 大学資料集「施設課2 身障者用設備等」		年度末
(4)	7-7W	【大学全体】 専任教員のための研究室を整備していますか。	2016	○		教員研究室整備資料	年度初め
(5)	7-3W6	【大学全体】 研究専念時間(在宅研究日)の設定等、教員の研究機会について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、関連規則等を整備し保障していますか。	2016	○	【大学全体】 青山学院在外研究に関する規則 青山学院国内研究に関する規則 青山学院大学特別研究期間制度に関する規則 専任教員の出講に関する内規 大学資料集「研究推進2 在外研究員/国内研究員/特別研究期間制度適用者」		年度初め

自己点検・評価チェックリスト(訂正版)

担当委員会:

担当部署/担当者: 庶務部

評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	7-8W1	<p>【大学全体】 教育研究等環境の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・法令の順守 ・教育研究等環境に関する方針との整合性 ・社会・時代の要請 ・理念・目的の実現 ・学生サービス ・採算性 など</p>	2016	×		<p>【大学全体】 関連規則等</p> <p>検証会議体:( )</p>	年度初め
	7-8W2	<p>【大学全体】 教育研究等環境の適切性(※)は明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・法令の順守 ・教育研究等環境に関する方針との整合性 ・社会・時代の要請 ・理念・目的の実現 ・学生サービス ・採算性 など</p>	2016	○	<p>大学ホームページ「教育研究等環境の整備に関する方針」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/environment.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/environment.html</a> 確認日:(2017年6月12日)</p>	<p>【大学全体】 議題・議事録等</p> <p>検証会議体:( 教育研究等環境部会 開催日: 2017.6.20)</p>	年度末
(7)	7-9W	<p>【大学全体】 教育研究等環境の整備に関する方針は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は修正案を作成のうえ、上位の委員会へ附議してください。</p>	2016	○	<p>大学ホームページ「教育研究等環境の整備に関する方針」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/environment.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/environment.html</a> 確認日:(2016年5月16日)</p>		年度初め

相模原事務部庶務課

## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 庶務課(相模原)

評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	7-1W	【大学全体】 教育研究等環境の整備に関する方針(※)を、「青山学院教育方針」および「青山学院大学の理念」を踏まえて定めていますか。また、その方針を公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員や社会一般に対して、周知・公表していますか。  ※内部質保証のための諸活動に関する方針のひとつ	2016	○	【大学全体】 大学ホームページ「教育研究等環境の整備に関する方針」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/environment.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/environment.html</a> 確認日:(2016.5.25)		年度初め
(2)	7-2W	【大学全体】 校地および校舎面積が、法令上の基準(大学設置基準等)を満たしており、かつ運動場等の必要な施設・設備を整備していますか。	2016	○	【大学全体】 大学資料集「施設課1 主要施設の概況」 大学資料集「施設課3 校地、校舎、講義室・演習室等の面積」		年度初め
(3)	7-3W1	【大学全体】 施設・設備について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、バリアフリーに対応する等、施設・設備の安全性、利便性を向上させるような取り組みを行いましたか。	2016	○	【大学全体】 大学資料集「施設課2 身障者用設備等」		年度末
(4)	7-7W	【大学全体】 専任教員のための研究室を整備していますか。	2016	○	【大学全体】 事務ポータル 内線電話番号表 研究室:大学(青山) <a href="https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/tel/aoyama_kyo.pdf">https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/tel/aoyama_kyo.pdf</a> 研究室:大学(相模原) <a href="https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/tel/sagami_kyo.pdf">https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/tel/sagami_kyo.pdf</a> 確認日:(2016.5.25)		年度初め



## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 庶務課(相模原)

評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	7-3W6	【大学全体】 研究専念時間(在宅研究日)の設定等、教員の 研究機会について、教育研究等環境の整備に 関する方針に沿って、関連規則等を整備し保障 していますか。	2016	○	【大学全体】 青山学院在外研究に関する規則 専任教員の出講に関する内規 大学資料集「研究推進2 在外研究員/国内研究員/特 別研究期間制度適用者」		年度初め
(6)	7-8W1	【大学全体】 教育研究等環境の適切性(※)を検証するにあ たり、会議体(委員会等)・手続きが明文化され ていますか。  ※適切性の視点 ・法令の順守 ・教育研究等環境に関する方針との整合性 ・社会・時代の要請 ・理念・目的の実現 ・学生サービス ・採算性 など	2016	×		【大学全体】 関連規則等  検証会議体:( )	年度初め
	7-8W2	【大学全体】 教育研究等環境の適切性(※)は明文化された 手続きに従って定期的に検証され、その結果は 改善につながっていますか。  ※適切性の視点 ・法令の順守 ・教育研究等環境に関する方針との整合性 ・社会・時代の要請 ・理念・目的の実現 ・学生サービス ・採算性 など	2016	○	【大学全体】 大学ホームページ「教育研究等環境の整備に関する方 針」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/environment.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/ environment.html</a> 確認日:( 2017/05/02 )	【大学全体】 関連規則等  検証会議体: ( 教育研究等環境部会 開催日:2017/06/20 )	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 庶務課(相模原)

評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(7)	7-9W	<p>【大学全体】 教育研究等環境の整備に関する方針は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は修正案を作成のうえ、上位の委員会へ附議してください。</p>	2016	✕			年度初め

研究推進部

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 研究推進部

評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	7-1W	<p>【大学全体】 教育研究等環境の整備に関する方針(※)を、「青山学院教育方針」および「青山学院大学の理念」を踏まえて定めていますか。また、その方針を公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員や社会一般に対して、周知・公表していますか。</p> <p>※内部質保証のための諸活動に関する方針のひとつ</p>	2016	○	<p>【大学全体】 大学ホームページ「教育研究等環境の整備に関する方針」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/environment.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/environment.html</a> 確認日:(2016.6.1、ウェブ確認)</p>	<p>【大学全体】 《参考》 「研究活動における不正行為防止、研究費不正使用防止の取り組み」として、以下の学内規則を制定し、それぞれのサイトで周知・公表している。 * 青山学院大学公的研究費の運営、管理及び監査の実施体制に関する規則 * 青山学院大学公的研究費の使用における不正行為への対応に関する細則 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/public_research/plan.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/public_research/plan.html</a> * 青山学院大学研究活動における不正行為の防止の実施体制に関する規則 * 青山学院大学研究活動における不正行為への対応に関する細則 * 青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/public_research/system.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/public_research/system.html</a> (2016.6.1、ウェブ確認)</p>	年度初め
(2)	7-6W	<p>【大学全体】 専任教員に対して、研究活動に必要な研究費を支給していますか。</p>	2016	○	<p>【大学全体】 青山学院大学教員研究費規則</p>		年度初め
(3)	7-3W6	<p>【大学全体】 研究専念時間(在宅研究日)の設定等、教員の研究機会について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、関連規則等を整備し保障していますか。</p>	2016	○	<p>【大学全体】 青山学院在外研究に関する規則 青山学院国内研究に関する規則 青山学院大学特別研究期間制度に関する規則 専任教員の出講に関する内規 大学資料集「研究推進2 在外研究員/国内研究員/特別研究期間制度適用者」</p>	<p>【大学全体】 例年、年度初頭の学部長会で、学内研究制度(在外・国内・特研)の手続きや申請スケジュールと共に、適用期間中の研究への専念等、候補者の選考における留意点も公表・徹底している。 * 資料:「2017年度学内研究制度候補者の申請について」(2016.4.11学部長会「報告資料-16」)</p>	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 研究推進部

評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	7-8W1	<p>【大学全体】 教育研究等環境の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・法令の順守 ・教育研究等環境に関する方針との整合性 ・社会・時代の要請 ・理念・目的の実現 ・学生サービス ・採算性 など</p>	2016	○	<p>【大学全体】 青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則 青山学院大学研究活動における不正行為の防止の実施体制に関する規則 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/public_research/system.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/public_research/system.html</a> 青山学院大学公的研究費の運営、管理及び監査の実施体制に関する規則 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/public_research/plan.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/public_research/plan.html</a> (2015.6.1、ウェブ確認)</p>	<p>【大学全体】 関連規則等 「青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則」を制定し、同委員会の開催により、個々の利益相反等の審査や不正防止対応の検討等を行うことにしている。 第5回:2015年4月23日(木) メーリング 第6回:2015年11月9日(月) 開催 第7回:2015年12月5日(土) メーリング 第8回:2016年3月12日(土) メーリング</p>	年度初め
	7-8W2	<p>【大学全体】 教育研究等環境の適切性(※)は明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・法令の順守 ・教育研究等環境に関する方針との整合性 ・社会・時代の要請 ・理念・目的の実現 ・学生サービス ・採算性 など</p>	2016	○	<p>ホームページの「教育研究等環境の整備に関する方針」 (<a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/environment.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/environment.html</a>) (2017.5.26、ウェブ確認)</p>		年度末
(5)	7-9W	<p>【大学全体】 教育研究等環境の整備に関する方針は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は修正案を作成のうえ、上位の委員会へ附議してください。</p>	2016	○		<p>【大学全体】 文部科学省による「研究機関における公的研究費の管理・監査ガイドライン」(平成26年2月18日改正)、及び「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」(平成26年8月26日)に係るものとして、「公的研究費の管理・監査体制と不正防止計画の策定」と「研究活動における不正行為の防止と利益相反及び研究教育倫理の実施体制」を、関係する学内規則と共に、以下のサイトに周知・公表している。 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/public_research/">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/public_research/</a> (2016.6.1、ウェブ確認)</p>	年度初め

相模原事務部研究推進課

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 研究推進課(相模原)

評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	備考 状況説明や (次年度への引き継ぎ事項など)	チェック 可能時期
(1)	7-1W	<p>【大学全体】 教育研究等環境の整備に関する方針(※)を、「青山学院教育方針」および「青山学院大学の理念」を踏まえて定めていますか。また、その方針を公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員や社会一般に対して、周知・公表していますか。</p> <p>※内部質保証のための諸活動に関する方針のひとつ</p>	2016	○	<p>【大学全体】 大学ホームページ「教育研究等環境の整備に関する方針」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/environment.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/environment.html</a> 確認日:(2016.6.1、ウェブ確認)</p>	<p>【大学全体】 《参考》 「研究活動における不正行為防止、研究費不正使用防止の取り組み」として、以下の学内規則を制定し、それぞれのサイトで周知・公表している。 * 青山学院大学公的研究費の運営、管理及び監査の実施体制に関する規則 * 青山学院大学公的研究費の使用における不正行為への対応に関する細則 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/public_research/plan.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/public_research/plan.html</a> * 青山学院大学研究活動における不正行為の防止の実施体制に関する規則 * 青山学院大学研究活動における不正行為への対応に関する細則 * 青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/public_research/system.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/public_research/system.html</a> (2016.6.1、ウェブ確認)</p>	「教育研究等環境の整備に関する方針」が2015年度末にホームページで周知・公表された。	年度初め
(2)	7-6W	<p>【大学全体】 専任教員に対して、研究活動に必要な研究費を支給していますか。</p>	2016	○	<p>【大学全体】 青山学院大学教員研究費規則</p>			年度初め
(3)	7-3W6	<p>【大学全体】 研究専念時間(在宅研究日)の設定等、教員の研究機会について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、関連規則等を整備し保障していますか。</p>	2016	○	<p>【大学全体】 青山学院在外研究に関する規則 青山学院国内研究に関する規則 青山学院大学特別研究期間制度に関する規則 専任教員の出講に関する内規 大学資料集「研究推進2 在外研究員/国内研究員/特別研究期間制度適用者」</p>	<p>【大学全体】 例年、年度初頭の学部長会で、学内研究制度(在外・国内・特研)の手続きや申請スケジュールと共に、適用期間中の研究への専念等、候補者の選考における留意点も公表・徹底している。 * 資料:「2017年度学内研究制度候補者の申請について」(2016.4.11学部長会「報告資料-16」)</p>		年度初め



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 研究推進課(相模原)

評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	備考 状況説明や (次年度への引き継ぎ事項など)	チェック 可能時期
(4)	7-8W1	<p>【大学全体】 教育研究等環境の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・法令の順守 ・教育研究等環境に関する方針との整合性 ・社会・時代の要請 ・理念・目的の実現 ・学生サービス ・採算性 など</p>	2016	○	<p>【大学全体】 青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則 青山学院大学研究活動における不正行為の防止の実施体制に関する規則 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/public_research/system.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/public_research/system.html</a> 青山学院大学公的研究費の運営、管理及び監査の実施体制に関する規則 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/public_research/plan.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/public_research/plan.html</a> (2015.6.1、ウェブ確認)</p>	<p>【大学全体】 関連規則等 「青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則」を制定し、同委員会の開催により、個々の利益相反等の審査や不正防止対応の検討等を行うことにしている。 第5回:2015年4月23日(木) メーリング 第6回:2015年11月9日(月) 開催 第7回:2015年12月5日(土) メーリング 第8回:2016年3月12日(土) メーリング</p>		年度初め
	7-8W2	<p>【大学全体】 教育研究等環境の適切性(※)は明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・法令の順守 ・教育研究等環境に関する方針との整合性 ・社会・時代の要請 ・理念・目的の実現 ・学生サービス ・採算性 など</p>	2016	○	<p>ホームページの「教育研究等環境の整備に関する方針」 (<a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/environment.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/environment.html</a>) (2017.5.26、ウェブ確認)</p>			年度末
(5)	7-9W	<p>【大学全体】 教育研究等環境の整備に関する方針は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は修正案を作成のうえ、上位の委員会へ附議してください。</p>	2016	○		<p>【大学全体】 文部科学省による「研究機関における公的研究費の管理・監査ガイドライン」(平成26年2月18日改正)、及び「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」(平成26年8月26日)に係るものとして、「公的研究費の管理・監査体制と不正防止計画の策定」と「研究活動における不正行為の防止と利益相反及び研究教育倫理の実施体制」を、関係する学内規則と共に、以下のサイトに周知・公表している。 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/public_research/">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/public_research/</a> (2016.6.1、ウェブ確認)</p>		年度初め



学務部

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	7-3W6	【大学全体】 研究専念時間(在宅研究日)の設定等、教員の 研究機会について、教育研究等環境の整備に 関する方針に沿って、関連規則等を整備し保障 していますか。	2016	○	【大学全体】 青山学院在外研究に関する規則 専任教員の出講に関する内規 大学資料集「研究推進2 在外研究員/国内研究員/特 別研究期間制度適用者」	2015年度第1回教育研究等環境部会記録 (2015年6月22日開催) 2015年第15回学部長会(2016年2月29日開催)	年度初め
	7-3W10	【大学全体】 ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシ スタント(RA)、スチューデント・アシスタント (SA)、ITアシスタント(IT-A)等の人的支援につ いて、教育研究等環境の整備に関する方針に 沿って、管理体制や関連規則等を整備し運用し ましたか。	2016	○	【大学全体】 青山学院大学教育補助員規則 青山学院大学理工学部リサーチアシスタント規則 青山学院大学青山スタンダード教育機構教育補助員細則 青山学院大学附置情報メディアセンターIT講習会補助員 要綱		年度末
(2)	7-8W1	【大学全体】 教育研究等環境の適切性(※)を検証するにあ たり、会議体(委員会等)・手続きが明文化され ていますか。  ※適切性の視点 ・法令の順守 ・教育研究等環境に関する方針との整合性 ・社会・時代の要請 ・理念・目的の実現 ・学生サービス ・採算性 など	2016	○		【大学全体】 関連規則等  検証会議体:(教育研究等環境部会、各委員会 会)	年度初め
	7-8W2	【大学全体】 教育研究等環境の適切性(※)は明文化された 手続きに従って定期的に検証され、その結果は 改善につながっていますか。  ※適切性の視点 ・法令の順守 ・教育研究等環境に関する方針との整合性 ・社会・時代の要請 ・理念・目的の実現 ・学生サービス ・採算性 など	2016	○		【大学全体】 議題・議事録等  検証会議体:(教育研究等環境部会)	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	7-9W	<p>【大学全体】 教育研究等環境の整備に関する方針は適切で すか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社 会、文部科学省、大学基準協会等)の要請に あっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすい か。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は修正案を作成のうえ、上位の 委員会へ附議してください。</p>	2016	○		<p>2015年度第2回教育研究等環境部会 (2015年12月8日開催) 2015年度第6回全学自己点検・評価委員会 (2016年3月28日開催)</p>	年度初め

相模原事務部学務課

## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 学務課(相模原)

評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	7-3W6	【大学全体】 研究専念時間(在宅研究日)の設定等、教員の 研究機会について、教育研究等環境の整備に 関する方針に沿って、関連規則等を整備し保障 していますか。	2016	○	【大学全体】 青山学院在外研究に関する規則 専任教員の出講に関する内規 大学資料集「研究推進2 在外研究員/国内研究員/特 別研究期間制度適用者」	2015年度第1回教育研究等環境部会記録 (2015年6月22日開催) 2015年第15回学部長会(2016年2月29日開催)	年度初め
	7-3W10	【大学全体】 ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシ スタント(RA)、スチューデント・アシスタント (SA)、ITアシスタント(IT-A)等の人的支援につ いて、教育研究等環境の整備に関する方針に 沿って、管理体制や関連規則等を整備し運用し ましたか。	2016	○	【大学全体】 青山学院大学教育補助員規則 青山学院大学理工学部リサーチアシスタント規則 青山学院大学青山スタンダード教育機構教育補助員細則 青山学院大学附置情報メディアセンターIT講習会補助員 要綱		年度末
(2)	7-8W1	【大学全体】 教育研究等環境の適切性(※)を検証するにあ たり、会議体(委員会等)・手続きが明文化され ていますか。  ※適切性の視点 ・法令の順守 ・教育研究等環境に関する方針との整合性 ・社会・時代の要請 ・理念・目的の実現 ・学生サービス ・採算性 など	2016	○		【大学全体】 関連規則等  検証会議体:(教育研究等環境部会、各委員会 会)	年度初め
	7-8W2	【大学全体】 教育研究等環境の適切性(※)は明文化された 手続きに従って定期的に検証され、その結果は 改善につながっていますか。  ※適切性の視点 ・法令の順守 ・教育研究等環境に関する方針との整合性 ・社会・時代の要請 ・理念・目的の実現 ・学生サービス ・採算性 など	2016	○		【大学全体】 議題・議事録等  検証会議体:(教育研究等環境部会)	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 学務課(相模原)

評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	7-9W	<p>【大学全体】 教育研究等環境の整備に関する方針は適切で すか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社 会、文部科学省、大学基準協会等)の要請に あっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすい か。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は修正案を作成のうえ、上位の 委員会へ附議してください。</p>	2016	○		<p>2015年度第2回教育研究等環境部会 (2015年12月8日開催) 2015年度第6回全学自己点検・評価委員会 (2016年3月28日開催)</p>	年度初め

図書館委員会

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 図書館委員会  
 担当部署/担当者: 学術情報部、学術情報課(相模原)  
 評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 {資料年度・URL・ウェブ確認日・会議開催日等を記入}	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 {資料年度・URL・ウェブ確認日・会議開催日等を記入}	チェック可能時期
(1)	7-1W	【大学全体】 教育研究等環境の整備に関する方針(※)を、「青山学院教育方針」および「青山学院大学の理念」を踏まえて定めていますか。また、その方針を公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員や社会一般に対して、周知・公表していますか。  ※内部質保証のための諸活動に関する方針のひとつ	2016	○	【大学全体】 大学ホームページ「教育研究等環境の整備に関する方針」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/environment.html 確認日:( 2016.5.11 )	図書館ホームページ https://www.agulin.aoyama.ac.jp/ 2015年度年次報告書 館長・分館長の巻頭文 図書館広報誌 館報「AGULI」、「AGULI+」	年度初め
(2)	7-4W	【大学全体】 大学、学部・研究科等において十分な教育研究活動を行うために、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、図書館に必要な質・量の図書、学術雑誌、電子媒体等を備えていますか。	2016	○	【大学全体】 大学資料集「図書課1 図書館概要、蔵書図書資料(蔵書数/逐次刊行物所蔵タイトル数/非図書資料所蔵タイトル数)」	図書館ホームページ https://www.agulin.aoyama.ac.jp/ 2015年度年次報告書「規模及び概要」 日本図書館協会「大学図書館実態調査票」2016年度版 文部科学省「学術情報基盤実態調査」平成27年度版	年度初め
(3)	7-5W	【大学全体】 図書館・学術情報サービスを支障なく提供するために、専門的な知識を有する専任職員(司書)をすべての図書館(青山・相模原)に配置していますか。	2016	○	【大学全体】 大学資料集「図書課1 図書館概要、蔵書図書資料(蔵書数/逐次刊行物所蔵タイトル数/非図書資料所蔵タイトル数)」	年次報告書 日本図書館協会「大学図書館実態調査票」2016年度版 専任職員(青山)8名中3名、(相模原)4名中1名* 委託職員(青山)50名中37名、(相模原)19名中18名 *相模原の専任職員には学術情報課長を含む  <専門知識を高めるための講習会・研修会参加> 文化庁主催「図書館等職員著作権実務講習会」 http://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seminar/h27/ 国立情報学研究所「目録システム講習会」等 http://www.nii.ac.jp/hrd/index.html 東京大学東洋文化研究所「漢籍整理長期研修」 http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/training/kanseki.html 一橋大学社会科学古典資料センター「西洋社会科学古典資料講習会」 http://chssl.lib.hit-u.ac.jp/education/school.html  3館(本館・万代・短大)業務担当者研修会の開催	年度初め



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 図書館委員会  
 担当部署/担当者: 学術情報部、学術情報課(相模原)  
 評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日・会議開催日等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日・会議開催日等を記入)	チェック可能時期
(4)	7-3W2	【大学全体】 学生の学修に関する情報支援を含む、国立情報学研究所のCiNii等のサービスや他の図書館とのネットワークや学術情報へのアクセス等について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、設備、機器・備品や関連規則等を整備し、充実を図っていますか。	2016	○	【大学全体】 青山学院大学図書館利用規則	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館ホームページ <a href="https://www.agulin.aoyama.ac.jp/">https://www.agulin.aoyama.ac.jp/</a></li> <li>・機関リポジトリ「AURORA-IR」 <a href="https://www.agulin.aoyama.ac.jp/opac/repository/1000/?lang=0&amp;acc_schema[]=1000&amp;acc_cate=all">https://www.agulin.aoyama.ac.jp/opac/repository/1000/?lang=0&amp;acc_schema[]=1000&amp;acc_cate=all</a></li> <li>・NII(国立情報学研究所)の提供するサービス <a href="http://www.nii.ac.jp/service/general/">http://www.nii.ac.jp/service/general/</a></li> <li>・NDL(国立国会図書館) デジタル化資料送信サービス <a href="http://www.ndl.go.jp/jp/library/service_digi/">http://www.ndl.go.jp/jp/library/service_digi/</a></li> <li>・他大学との相互協定                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム</li> <li>・国際連合大学ライブラリー</li> <li>・実践女子大学・実践女子大学短期大学部図書館</li> <li>・日本赤十字看護大学図書館</li> <li>・相模原市内大学図書館等と相模原市立図書館</li> <li>・神奈川県図書館協会加盟大学図書館</li> </ul> </li> <li><a href="http://www.agulin.aoyama.ac.jp/ja/honkan/othre_libraries">http://www.agulin.aoyama.ac.jp/ja/honkan/othre_libraries</a></li> <li>・短大図書館との相互利用 <a href="http://www.agulin.aoyama.ac.jp/ja">http://www.agulin.aoyama.ac.jp/ja</a></li> <li>・私立大学図書館協会に加盟</li> <li>・大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)に加盟</li> </ul>	年度初め
	7-3W3	【大学全体】 座席数・開館時間などの図書館利用環境について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、施設・設備、機器・備品や体制を整備し、学生の学修に配慮した利用環境を整備していますか。	2016	○	【大学全体】 青山学院大学図書館規則 青山学院大学図書館利用規則	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青山キャンパスの座席数について 2015年度年次報告書「2011～2015年度本館経年変化」 閲覧席 (2011年度)1102席→(2015年度)1456席</li> <li>・図書館内環境整備 (青山) ・全閲覧机・椅子の交換 ・共同学習エリアの充実(本館・8号館・9号館) 図書館広報誌「AGULI+a」No.21号に掲載</li> <li>(相模原) ・グローバル化への対応 英語版「Service Guide」の作成、館内サインの英語表示 ・3階視聴覚コーナーのレイアウト変更</li> </ul>	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 図書館委員会  
 担当部署/担当者: 学術情報部、学術情報課(相模原)  
 評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	7-8W1	<p>【大学全体】 教育研究等環境の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点                      ・法令の順守                      ・教育研究等環境に関する方針との整合性                      ・社会・時代の要請                      ・理念・目的の実現                      ・学生サービス                      ・採算性 など</p>	2016	○		<p>【大学全体】                      青山学院大学図書館規則                      青山学院大学利用規則                      青山学院大学図書館資料収集規則                      青山学院大学図書館委員会及び学部等図書委員に関する細則                      青山学院大学図書館資料管理規則                      青山学院大学図書館資料管理規則第4条に係る申合せ                      青山学院大学図書館における図書費の予算の配分及び執行に関する内規                      電子的資料の取扱いに関する要項                      青山学院大学図書館重複資料受入基準                      青山学院大学図書館貴重書指定基準及び取扱い指針                      青山学院大学教員研究費購入図書に関する取扱い基準                      青山学院大学図書館報編集委員会申し合せ事項                      実験調査研究費(実験研究費)購入図書の取扱いに関する取定事項</p> <p>【検証会議体】                      図書館委員会                      図書館報編集委員会                      選書小委員会                      自己点検評価委員会                      データベース検討委員会                      青山スタンダード教育開発センターとの学修支援共同プログラム検討会議</p>	年度初め
	7-8W2	<p>【大学全体】 教育研究等環境の適切性(※)は明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点                      ・法令の順守                      ・教育研究等環境に関する方針との整合性                      ・社会・時代の要請                      ・理念・目的の実現                      ・学生サービス                      ・採算性 など</p>	2016	○	<p>【大学全体】                      青山学院大学図書館規則                      青山学院大学図書館利用規則</p>	<p>【大学全体】                      ・議題:図書予算の検討、蔵書点検、図書館活動の周知(オリエンテーション等)                      (検証会議体:図書館委員会3回開催)                      ・議題:データベース・電子ジャーナル見直し                      (検証会議体:データベース等検討会1回開催)                      ・議題:自己点検・評価チェックリストの作成・点検                      (検証会議体:自己点検・評価委員会)                      ・議題:「教養講座」の開設                      議題:「物理・数理お助け部屋」の開設                      (検証会議体:青山スタンダード教育開発センターとの学修支援共同プログラム検討会)</p>	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 図書館委員会  
 担当部署/担当者: 学術情報部、学術情報課(相模原)  
 評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入〕	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入〕	チェック 可能時期
(6)	7-9W	<p>【大学全体】 教育研究等環境の整備に関する方針は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は修正案を作成のうえ、上位の委員会へ附議してください。</p>	2016	○		<p>・オリエンテーション参加者へのアンケート実施。 ・図書館利用指導の実施(ゼミクラス単位オリエンテーション2015年度 青山130件2666名、相模原7件932名)他にも多数実施 ・情報の探索と表現コンテスト実施(4回開催) 文部科学省の平成27年度「大学図書館における先進的な取り組みの実践例(Web版)」に「データベースを活用したコンテストの実施 学生の図書館利用促進と情報活用能力向上の実現」した取組として掲載。 <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/kaihatu/jouhou/1341375.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/kaihatu/jouhou/1341375.htm</a> ・「第1回教養講座」の開催(参加者は学生・教職員・卒業生等): 青山キャンパス ・図書館内に修学サポートコーナー「物理・数理お助け部屋」を開設し、数学や物理に関する質問に答え、授業のサポートをしている。延べ195名): 相模原キャンパス ・夏期、春期休業中の高校生を対象とした図書館公開の実施(2015年度利用登録者30名): 相模原キャンパス ・ビブリオバトル: 相模原キャンパス</p>	年度初め

情報メディアセンター運営委員会

## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 情報メディアセンター運営委員会  
 担当部署/担当者: 学術情報部、学術情報課(相模原)  
 評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日等を記入)	チェック 可能時期
(1)	7-1W	【大学全体】 教育研究等環境の整備に関する方針(※)を、「青山学院教育方針」および「青山学院大学の理念」を踏まえて定めていますか。また、その方針を公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員や社会一般に対して、周知・公表していますか。  ※内部質保証のための諸活動に関する方針のひとつ	2016	○	【大学全体】 大学ホームページ「教育研究等環境の整備に関する方針」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/environment.html 確認日:( 2016/04/30 )	情報メディアセンターオリジナルサイト http://www.aim.aoyama.ac.jp/ 印刷物(パンフレット・IT講習会パンフレット・CampusGuideMAP・※青山インフォメーション・サイエンス・※大学のコンピュータシステムの利用について)※印を除く印刷物は上記WEBに掲載 新任教職員向け利用説明会 情報システムポリシー	年度初め
(2)	7-3W4	【大学全体】 学生の学修に関する情報支援を含む、情報学習の設備環境について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、施設・設備、機器・備品、ネットワーク等や体制を整備し、学生の学修に配慮した利用環境を整備していますか。	2016	○	【大学全体】教職員ポータル青山学院規則集掲載 青山学院大学附置情報メディアセンター規則 青山学院大学附置情報メディアセンター所員規則 学校法人青山学院情報戦略推進委員会規則 大学情報戦略推進委員会設置要綱 青山学院大学附置情報メディアセンター研究プロジェクト細則	情報メディアセンターオリジナルサイト http://www.aim.aoyama.ac.jp/ ・中等部校舎建設に伴い「学院共通ネットワーク環境」打合せ ・短大・セカンダリーの情報教育支援対応 ・青山学院基幹ネットワーク利用ガイドライン制定 2017年度教研システム公開について計画・立案 研究支援プロジェクト募集・支援	年度初め
	7-3W9	【大学全体】 教員の教育研究活動に関する情報支援について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、施設・設備、機器・備品やネットワーク等を整備し管理運営を行いましたか。	2016	○		【大学全体】 関連規則等 青山学院大学附置情報メディアセンター規則 青山学院大学附置情報メディアセンター所員規則 検証会議体:( 運営委員会・運営執行会議・各利用者委員会)	年度末
	7-3W10	【大学全体】 ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)、スチューデント・アシスタント(SA)、ITアシスタント(IT-A)等の人的支援について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、管理体制や関連規則等を整備し運用しましたか。	2016	○	【大学全体】 青山学院大学教育補助員規則 青山学院大学理工学部リサーチアシスタント規則	青山学院大学附置情報メディアセンターIT講習会補助員要綱 青山学院大学附置情報メディアセンター学生補助員要綱 青山学院大学附置情報メディアセンター規則 青山学院大学附置情報メディアセンター所員規則	年度末



## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 情報メディアセンター運営委員会  
 担当部署/担当者: 学術情報部、学術情報課(相模原)  
 評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	7-8W1	<p>【大学全体】 教育研究等環境の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・法令の順守 ・教育研究等環境に関する方針との整合性 ・社会・時代の要請 ・理念・目的の実現 ・学生サービス ・採算性 など</p>	2016	○		<p>【大学全体】 関連規則等 青山学院大学附置情報メディアセンター規則 青山学院大学附置情報メディアセンター所員規則 検証会議体:( 運営委員会・運営執行会議・各利用者委員会) ・情報メディアセンターサポート体制確立</p>	年度初め
	7-8W2	<p>【大学全体】 教育研究等環境の適切性(※)は明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・法令の順守 ・教育研究等環境に関する方針との整合性 ・社会・時代の要請 ・理念・目的の実現 ・学生サービス ・採算性 など</p>	2016	○		<p>【大学全体】 関連規則等 青山学院大学附置情報メディアセンター規則 青山学院大学附置情報メディアセンター所員規則 検証会議体:( 運営委員会・運営執行会議・各利用者委員会) ・情報メディアセンターサポート体制確立</p>	年度末
(4)	7-9W	<p>【大学全体】 教育研究等環境の整備に関する方針は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は修正案を作成のうえ、上位の委員会へ附議してください。</p>	2016	○		<p>補助金申請(文科省)予定 ・大学院等の機能の高度化への支援 ・特色ある経済的支援方策 ・学生経費に係る調査 ・私立大学等教育研究活性化設備整備事業(アクティブラーニング教室) 企業協賛の教育デザインと情報メディアに関するシンポジウム開催予定 ・IT講習会 ・他大学アクティブラーニング環境調査</p>	年度初め

外国語ラボラトリー運営委員会

## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 外国語ラボラトリー運営委員会  
 担当部署/担当者: 学術情報部、学術情報課(相模原)  
 評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	7-1W	<p>【大学全体】 教育研究等環境の整備に関する方針(※)を、「青山学院教育方針」および「青山学院大学の理念」を踏まえて定めていますか。また、その方針を公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員や社会一般に対して、周知・公表していますか。</p> <p>※内部質保証のための諸活動に関する方針のひとつ</p>	2016	○	<p>【大学全体】 大学ホームページ「教育研究等環境の整備に関する方針」  <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/environment.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/environment.html</a>                      確認日:(2016年6月6日)                      大学ホームページ「大学案内」  <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/">http://www.aoyama.ac.jp/outline/</a>                      大学案内2017(冊子)                      青山学院大学ガイドブック2016(冊子)</p>	<p>外国語ラボラトリーホームページ  <a href="http://www.agufl.aoyama.ac.jp/">http://www.agufl.aoyama.ac.jp/</a>                      確認日:2016年6月6日                      外国語ラボラトリーリーフレット(2013年度発行)                      外国語ラボラトリー主催公開セミナー実施に係る資料</p>	年度初め
(2)	7-3W5	<p>【大学全体】 学生の学修に関する情報支援を含む、語学教育の設備環境について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、施設・設備、機器・備品や体制を整備し、学生の学修に配慮した利用環境を整備していますか。</p>	2016	○	<p>【大学全体】 青山学院大学附置外国語ラボラトリー規則</p>	<p>外国語ラボラトリーホームページ  <a href="http://www.agufl.aoyama.ac.jp/">http://www.agufl.aoyama.ac.jp/</a>                      確認日:2016年6月6日                      外国語ラボラトリー運営委員会開催                      年5回開催(4月・6月・10月・12月・2月)</p>	年度初め



## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 外国語ラボラトリー運営委員会  
 担当部署/担当者: 学術情報部、学術情報課(相模原)  
 評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	7-8W1	<p>【大学全体】 教育研究等環境の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・法令の順守 ・教育研究等環境に関する方針との整合性 ・社会・時代の要請 ・理念・目的の実現 ・学生サービス ・採算性 など</p>	2016	○		<p>【大学全体】 青山学院大学附置外国語ラボラトリー規則 検証会議体:(外国語ラボラトリー運営委員会)</p>	年度初め
	7-8W2	<p>【大学全体】 教育研究等環境の適切性(※)は明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・法令の順守 ・教育研究等環境に関する方針との整合性 ・社会・時代の要請 ・理念・目的の実現 ・学生サービス ・採算性 など</p>	2016	○		<p>【大学全体】 議題・議事録等 2016年度教育研究等環境部会における各担当部局の自己点検・評価チェックリストの確認・報告及び改善の方向性の検討 検証会議体:(教育研究等環境部会)</p>	年度末
(4)	7-9W	<p>【大学全体】 教育研究等環境の整備に関する方針は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は修正案を作成のうえ、上位の委員会へ附議してください。</p>	2016	○			年度初め

利益相反及び研究教育倫理委員会

## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 利益相反及び研究教育倫理委員会  
 担当部署/担当者： 研究推進部、研究推進課(相模原)  
 評価基準： 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	7-1W	<p>【大学全体】 教育研究等環境の整備に関する方針(※)を、「青山学院教育方針」および「青山学院大学の理念」を踏まえて定めていますか。また、その方針を公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員や社会一般に対して、周知・公表していますか。</p> <p>※内部質保証のための諸活動に関する方針のひとつ</p>	2016	○	<p>【大学全体】 大学ホームページ「教育研究等環境の整備に関する方針」の「研究倫理」によって、周知・公表されている。  <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/environment.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/environment.html</a>            確認日：(2016/06/01)</p>		年度初め
(2)	7-3W11	<p>【大学全体】 研究倫理教育や研究不正行為への対応について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置を行いましたか。</p>	2016	○	<p>【大学全体】 大学ホームページ「公的研究費の管理・監査体制と不正防止計画の策定」と「研究活動における不正行為の防止と利益相反及び研究教育倫理の実施体制」によって、周知・公表されている。  <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/public_research/">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/public_research/</a>            確認日：(2017/05/26)</p>	<p>【大学全体】 大学ホームページ「研究活動における不正行為防止、研究費不正使用防止の取り組み」として、以下の学内規則を制定し、それぞれのサイトで周知・公表している。            * 青山学院大学公的研究費の運営、管理及び監査の実施体制に関する規則            * 青山学院大学公的研究費の使用における不正行為への対応に関する細則  <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/public_research/plan.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/public_research/plan.html</a>            * 青山学院大学研究活動における不正行為の防止の実施体制に関する規則            * 青山学院大学研究活動における不正行為への対応に関する細則            * 青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則  <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/public_research/system.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/public_research/system.html</a>            確認日：(2017/05/26)</p>	年度末

## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 利益相反及び研究教育倫理委員会

担当部署/担当者： 研究推進部、研究推進課(相模原)

評価基準： 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	7-8W1	<p>【大学全体】 教育研究等環境の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・法令の順守 ・教育研究等環境に関する方針との整合性 ・社会・時代の要請 ・理念・目的の実現 ・学生サービス ・採算性 など</p>	2016	○	<p>青山学院大学研究活動における不正行為の防止の実施体制に関する規則 青山学院大学公的研究費の運営、管理及び監査の実施体制に関する規則 青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則</p>	<p>【大学全体】 大学ホームページ「教育研究等環境の整備に関する方針」の「研究倫理」によって、周知・公表されている。 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/environment.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/environment.html</a> 確認日：(2016/06/01)</p>	年度初め
	7-8W2	<p>【大学全体】 教育研究等環境の適切性(※)は明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・法令の順守 ・教育研究等環境に関する方針との整合性 ・社会・時代の要請 ・理念・目的の実現 ・学生サービス ・採算性 など</p>	2016	○	<p>青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則</p>	<p>【大学全体】 青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則には、同委員会が利益相反及び研究教育倫理に係ることの情報等を適宜開示し、啓発活動を行うこととされており、これにより、適切性の定期的検証や改善を行う事としている。</p>	年度末
(4)	7-9W	<p>【大学全体】 教育研究等環境の整備に関する方針は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は修正案を作成のうえ、上位の委員会へ附議してください。</p>	2016	○		<p>【大学全体】 青山学院大学利益相反及び研究教育倫理委員会規則には、同委員会が利益相反及び研究教育倫理に係ることの情報等を適宜開示し、啓発活動を行うことが規定されており、これにより方針の適切性を確認することとしている。</p>	年度初め

事務システム部

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 事務システム部

評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	7-1W	【大学全体】 教育研究等環境の整備に関する方針(※)を、「青山学院教育方針」および「青山学院大学の理念」を踏まえて定めていますか。また、その方針を公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員や社会一般に対して、周知・公表していますか。  ※内部質保証のための諸活動に関する方針のひとつ	2016	○	【大学全体】 大学ホームページ「教育研究等環境の整備に関する方針」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/environment.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/environment.html</a> 確認日:( 2016.4.15 )		年度初め
(2)	7-3W7	【大学全体】 事務情報支援について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、施設・設備、機器・備品やネットワーク等を整備し管理運営を行いましたか。	2016	○		事務システムリプレイス基本設計(2016/10~2017/1実施) 事務システムリプレイス詳細設計(2017/1~) 第3回情報セキュリティ説明会(2016/5/16・17開催) 第4回情報セキュリティ説明会(2016/10/6・7開催)	年度末
	7-3W8	【大学全体】 学生の学修に関する情報支援について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、施設・設備、機器・備品やネットワーク等を整備し管理運営を行いましたか。	2016	○		学生ポータルサイトの機能改善 【学内情報端末撤去に伴う印刷機能提供】 ・メッセージ詳細画面、履修科目一覧画面、履修登録リスト画面、成績通知書・GPA画面、定期試験情報画面、追試験情報画面  【英語対応範囲の拡大】 (1)学生ポータル(PC版) ・トップページ:メッセージ一覧のタイトル、授業科目ページ、休講情報一覧ページ、教室変更一覧ページ、補講実施時間割ページ、定期試験時間割(個人)ページ、教務提出レポート情報(個人)ページ、大学院教務提出レポート情報(個人)ページ、追試験時間割(個人)ページ、追試験教務提出レポート情報(個人)ページ (2)学生ポータル(スマートフォン版) ・トップページ:メッセージ一覧のタイトル、授業科目ページ、休講情報一覧ページ、教室変更一覧ページ、定期試験時間割(個人)ページ、教務提出レポート情報(個人)ページ、大学院教務提出レポート情報(個人)ページ  【スマートフォン版機能追加】 ・補講実施時間割、追試験時間割(個人)、追試験教務提出レポート情報(個人)	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 事務システム部

評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	7-3W9	【大学全体】 教員の教育研究活動に関する情報支援について、教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、施設・設備、機器・備品やネットワーク等を整備し管理運営を行いましたか。	2016	○		事務システムリプレイス基本設計(2016/10～2017/1実施) 事務システムリプレイス詳細設計(2017/1～)	年度末
(3)	7-8W1	【大学全体】 教育研究等環境の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。  ※適切性の視点 ・法令の順守 ・教育研究等環境に関する方針との整合性 ・社会・時代の要請 ・理念・目的の実現 ・学生サービス ・採算性 など	2016	○		【大学全体】 関連規則等 学校法人青山学院情報戦略推進委員会規則 青山学院大学情報戦略推進委員会設置要綱 検証会議体:( )	年度初め
	7-8W2	【大学全体】 教育研究等環境の適切性(※)は明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。  ※適切性の視点 ・法令の順守 ・教育研究等環境に関する方針との整合性 ・社会・時代の要請 ・理念・目的の実現 ・学生サービス ・採算性 など	2016	○		【大学全体】 議題・議事録等 学校法人青山学院情報戦略推進委員会規則 青山学院大学情報戦略推進委員会設置要綱  検証会議体:(教育研究等環境部会 開催日: 2017/6/20)	年度末



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 事務システム部

評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	7-9W	<p>【大学全体】 教育研究等環境の整備に関する方針は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は修正案を作成のうえ、上位の委員会へ附議してください。</p>	2016	○		学生ポータルサイト「大学へのご意見・ご要望」、 教職員ポータルサイト「法人へのご意見・ご提案」 等	年度初め



総合研究所

## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合研究所

担当部署/担当者: 研究推進部、研究推進課(相模原)

評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	7-1W	【大学全体】 教育研究等環境の整備に関する方針(※)を、「青山学院教育方針」および「青山学院大学の理念」を踏まえて定めていますか。また、その方針を公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員や社会一般に対して、周知・公表していますか。  ※内部質保証のための諸活動に関する方針のひとつ	2016	×		【総合研究所】 総合研究所ホームページ 「研究体制・研究成果・情報の発信」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/research/laboratory/ri/detail.html">http://www.aoyama.ac.jp/research/laboratory/ri/detail.html</a> 確認日:(2016年5月31日)	年度初め
(2)	7-6W	【大学全体】 専任教員に対して、研究活動に必要な研究費を支給していますか。	2016	○	【大学全体】 青山学院大学教員研究費規則	【総合研究所】 青山学院大学総合研究所規則 第10条 第11条 青山学院大学総合研究所運営規則 第15～18条 確認日:(2016年5月31日) 2016年4月13日 第1回総合研究所運営委員会 2016年5月24日 第1回総合研究所管理委員会	年度初め
(3)	7-3W12	【大学全体】 教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、本学の教育・研究の基礎を培い、その水準を高めることを可能とする環境や体制を整備し運用しましたか。	2016	×		【総合研究所】 総合研究所ホームページ 「2017年度プロジェクト募集について」 <a href="http://www.ri.aoyama.ac.jp/pjt_invite2017.html">http://www.ri.aoyama.ac.jp/pjt_invite2017.html</a> 確認日:(2017年5月23日)	年度末

## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合研究所  
 担当部署/担当者: 研究推進部、研究推進課(相模原)  
 評価基準: 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	7-8W1	<p>【大学全体】 教育研究等環境の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・法令の順守 ・教育研究等環境に関する方針との整合性 ・社会・時代の要請 ・理念・目的の実現 ・学生サービス ・採算性 など</p>	2016	×	「備考」に記したとおり。	<p>【総合研究所】 青山学院大学総合研究所規則 第7～9条 青山学院大学総合研究所運営規則 第7条 確認日:(2016年5月31日)</p>	年度初め
	7-8W2	<p>【大学全体】 教育研究等環境の適切性(※)は明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・法令の順守 ・教育研究等環境に関する方針との整合性 ・社会・時代の要請 ・理念・目的の実現 ・学生サービス ・採算性 など</p>	2016	○		<p>【総合研究所】 第1～7回総合研究所運営委員会議事録 第1～3回総合研究所管理委員会議事録 検証会議体:(総合研究所運営委員会、総合研究所管理委員会)</p>	年度末
(5)	7-9W	<p>【大学全体】 教育研究等環境の整備に関する方針は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は修正案を作成のうえ、上位の委員会へ附議してください。</p>	2016	×	「備考」に記したとおり。	「備考」に記したとおり。	年度初め

社会連携機構

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 社会連携機構  
 担当部署/担当者： 研究推進部、研究推進課(相模原)  
 評価基準： 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	備考 状況説明や (次年度への引き継ぎ事項など)	チェック 可能時期
(1)	7-1W	【大学全体】 教育研究等環境の整備に関する方針(※)を、「青山学院教育方針」および「青山学院大学の理念」を踏まえて定めていますか。また、その方針を公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員や社会一般に対して、周知・公表していますか。  ※内部質保証のための諸活動に関する方針のひとつ	2016	×	「備考」に記したとおり。	「備考」に記したとおり。	現行の「教育研究等環境の整備に関する方針」には、「社会連携機構」に係ることは掲載されていない。従って、該当するホームページにも記載されていないので×とした。  ※「社会連携機構/研究推進課(相)」において実施した自己点検・評価は「×」だった。チェックリスト詳細は、教職員ポータルを参照。」	年度初め
(2)	7-3W13	【大学全体】 教育研究等環境の整備に関する方針に沿って、各センターにおける研究活動を支援する環境や体制を整備し運用しましたか。	2016	○		2016年度は活動を行い、検証もしてきた。	年度末で機構下でのセンター組織は廃止され、2017年度は、センターの一部は学長直属の組織として活動を継続。	年度末
	7-8W1	【大学全体】 教育研究等環境の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。  ※適切性の視点 ・法令の順守 ・教育研究等環境に関する方針との整合性 ・社会・時代の要請 ・理念・目的の実現 ・学生サービス ・採算性 など	2016	×	青山学院大学社会連携機構規則	「備考」に記したとおり。	現行の「教育研究等環境の整備に関する方針」には、「社会連携機構」に係ることは掲載されていないので×とした。  ※「社会連携機構/研究推進課(相)」において実施した自己点検・評価は「×」だった。チェックリスト詳細は、教職員ポータルを参照。」	年度初め
(3)	7-8W2	【大学全体】 教育研究等環境の適切性(※)は明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。  ※適切性の視点 ・法令の順守 ・教育研究等環境に関する方針との整合性 ・社会・時代の要請 ・理念・目的の実現 ・学生サービス ・採算性 など	2016	○		2016年度は活動を行い、検証もしてきた。	年度末で機構下でのセンター組織は廃止され、2017年度は、センターの一部は学長直属の組織として活動を継続。	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 社会連携機構  
 担当部署/担当者： 研究推進部、研究推進課(相模原)  
 評価基準： 7(教育研究等環境)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	備考 状況説明や (次年度への引き継ぎ事項など)	チェック 可能時期
(4)	7-9W	<p>【大学全体】 教育研究等環境の整備に関する方針は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点                      ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。                      ・現状や計画と大きな乖離がないか。                      ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。                      ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。                      ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は修正案を作成のうえ、上位の委員会へ附議してください。</p>	2016	×		「備考」に記したとおり。	<p>現行の「教育研究等環境の整備に関する方針」には、「社会連携機構」に係ることは掲載されていないので×とした。</p> <p>※「社会連携機構/研究推進課(相)において実施した自己点検・評価は「×」だった。チェックリスト詳細は、教職員ポータルを参照。」</p>	年度初め

2016年度 自己点検・評価結果

基準8 社会連携・社会貢献

文学部・文学研究科



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会  
 文学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 8(社会連携・社会貢献)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	8-2U	【学部】 社会連携・社会貢献に関する方針に沿って、社会連携・社会貢献が推進されましたか。推進されている場合、具体的に備考欄に記載のうえ、根拠資料をあげてください。	2016	○		青山フランス文学会会報 青山学院大学日本文学会 会報第51号(2017.3.17) 『パラゴナーネ』第4号(2016年度比較芸術学会活動報告)	年度末
	8-2G	【研究科】 社会連携・社会貢献に関する方針に沿って、社会連携・社会貢献が推進されましたか。推進されている場合、具体的に備考欄に記載のうえ、根拠資料をあげてください。	2016	×		史学科では、例えば、「さいたま市史編さん専門委員」 ( <a href="http://www.city.saitama.jp/006/008/002/012/004/006/p036155_d/fil/27-1kaigikakkatou.pdf">http://www.city.saitama.jp/006/008/002/012/004/006/p036155_d/fil/27-1kaigikakkatou.pdf</a> )のような、公共機関が実施する歴史関係の事業に協力している。その他、講演会も実施した ( <a href="http://raweb1.jm.aoyama.ac.jp/aguhp/KgApp?kojinId=acbhc">http://raweb1.jm.aoyama.ac.jp/aguhp/KgApp?kojinId=acbhc</a> 「社会的活動」欄を参照)。	年度末

教育人間科学部・教育人間科学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会  
 教育人間科学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者： 学務部  
 評価基準： 8（社会連携・社会貢献）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
(1)	8-2U	【学部】 社会連携・社会貢献に関する方針に沿って、 社会連携・社会貢献が推進されましたか。推 進されている場合、具体的に備考欄に記載の うえ、根拠資料をあげてください。	2016	○		第19回教育人間科学部教授会（2016年3月10 日）資料 青山学院大学心理臨床研究，第17巻，53-62. 2017年3月	年度末
	8-2G	【研究科】 社会連携・社会貢献に関する方針に沿って、 社会連携・社会貢献が推進されましたか。推 進されている場合、具体的に備考欄に記載の うえ、根拠資料をあげてください。	2016	○		第19回教育人間科学部教授会（2016年3月10 日）資料 青山学院大学心理臨床研究，第17巻，53-62. 2017年3月	年度末

経済学部・経済学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会  
 経済学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 8(社会連携・社会貢献)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	8-2U	【学部】 社会連携・社会貢献に関する方針に沿って、社会連携・社会貢献が推進されましたか。推進されている場合、具体的に備考欄に記載のうえ、根拠資料をあげてください。	2016	○		第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末
	8-2G	【研究科】 社会連携・社会貢献に関する方針に沿って、社会連携・社会貢献が推進されましたか。推進されている場合、具体的に備考欄に記載のうえ、根拠資料をあげてください。	2016	○		第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末

法学部・法学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会  
 法学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 8(社会連携・社会貢献)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	8-2U	【学部】 社会連携・社会貢献に関する方針に沿って、社会連携・社会貢献が推進されましたか。推進されている場合、具体的に備考欄に記載のうえ、根拠資料をあげてください。	2016	×			年度末
	8-2G	【研究科】 社会連携・社会貢献に関する方針に沿って、社会連携・社会貢献が推進されましたか。推進されている場合、具体的に備考欄に記載のうえ、根拠資料をあげてください。	2016	×			年度末

経営学部・経営学研究科



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会  
 経営学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 8(社会連携・社会貢献)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	8-2U	【学部】 社会連携・社会貢献に関する方針に沿って、社会連携・社会貢献が推進されましたか。推進されている場合、具体的に備考欄に記載のうえ、根拠資料をあげてください。	2016	×			年度末
	8-2G	【研究科】 社会連携・社会貢献に関する方針に沿って、社会連携・社会貢献が推進されましたか。推進されている場合、具体的に備考欄に記載のうえ、根拠資料をあげてください。	2016	×			年度末

国際政治経済学部・国際政治経済学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会  
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 8(社会連携・社会貢献)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	8-2U	【学部】 社会連携・社会貢献に関する方針に沿って、社会連携・社会貢献が推進されましたか。推進されている場合、具体的に備考欄に記載のうえ、根拠資料をあげてください。	2016	○		2016年度国際政治経済学部付置国際研究センター研究会報告・シンポジウムテーマ一覧	年度末
	8-2G	【研究科】 社会連携・社会貢献に関する方針に沿って、社会連携・社会貢献が推進されましたか。推進されている場合、具体的に備考欄に記載のうえ、根拠資料をあげてください。	2016	○		2016年度国際政治経済学部付置国際研究センター研究会報告・シンポジウムテーマ一覧	年度末

総合文化政策学部・総合文化政策学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会  
 総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務部  
 評価基準: 8(社会連携・社会貢献)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	8-2U	【学部】 社会連携・社会貢献に関する方針に沿って、社会連携・社会貢献が推進されましたか。推進されている場合、具体的に備考欄に記載のうえ、根拠資料をあげてください。	2016	○		・青山学院大学総合文化政策学部と新庄市の連携協力に関する協定書 ・宮城県気仙沼市教育委員会と青山学院大学の連携協力に関する覚書	年度末
	8-2G	【研究科】 社会連携・社会貢献に関する方針に沿って、社会連携・社会貢献が推進されましたか。推進されている場合、具体的に備考欄に記載のうえ、根拠資料をあげてください。	2016	×			年度末

理工学部・理工学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会  
 理工学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者: 学務課(相)  
 評価基準: 8(社会連携・社会貢献)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	8-2U	【学部】 社会連携・社会貢献に関する方針に沿って、社会連携・社会貢献が推進されましたか。推進されている場合、具体的に備考欄に記載のうえ、根拠資料をあげてください。	2016	○		物数: 高校での模擬授業(日時?) 化生: 出張授業(20161023等)、文部科学省、JSPS、JSTにおける各部局委員 電気: 第37回南西フォーラム(10月7日)、理工学部科学技術セミナー(第1回6月24日、第2回7月14日、第3回8月30日)、子供サイエンス教室(8月3日)、神奈川サイエンスキャリアプログラム(7月28日) 経シス: 相模原市ロボットセミナー(2016.7.26、2016.9.1) 情テク&経シス: 文科省研究ブランディング事業産学連携の「次世代ウェルビーイング」が採択 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/education_reform/2016/well-being/contents.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/education_reform/2016/well-being/contents.html</a>  大学資料集より 2017年5月29日 受託研究 17件 共同研究 44件 指定寄付金 21件 技術指導料 5件 外部からの委員委嘱 講師派遣 出張授業	年度末
	8-2G	【研究科】 社会連携・社会貢献に関する方針に沿って、社会連携・社会貢献が推進されましたか。推進されている場合、具体的に備考欄に記載のうえ、根拠資料をあげてください。	2016	○		化学: 出張授業(20161023等)、文部科学省、JSPS、JSTにおける各部局委員 電気: 第37回南西フォーラム(10月7日)、理工学部科学技術セミナー(第1回6月24日、第2回7月14日、第3回8月30日)、子供サイエンス教室(8月3日)、神奈川サイエンスキャリアプログラム(7月28日) マネテク: 相模原市ロボット協議会、Sier育成協議会(2017.3.24) 機能物質: ×(方針作成や予定は根拠思慮ではない) 生命科学: × 知能情報: 文科省研究ブランディング事業産学連携の「次世代ウェルビーイング」が採択 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/education_reform/2016/well-being/contents.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/education_reform/2016/well-being/contents.html</a>  大学資料集より 2017年5月29日 受託研究 17件 共同研究 44件 指定寄付金 21件 技術指導料 5件 外部からの委員委嘱 講師派遣 出張授業	年度末

社会情報学部・社会情報学研究科



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 社会情報学部自己点検・評価委員会  
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会  
 担当部署/担当者： 学務部  
 評価基準： 8（社会連携・社会貢献）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 〔・会議開催日 等を記入〕	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 〔・会議開催日 等を記入〕	チェック 可能時期
(1)	8-2U	【学部】 社会連携・社会貢献に関する方針に沿って、 社会連携・社会貢献が推進されましたか。推 進されている場合、具体的に備考欄に記載の うえ、根拠資料をあげてください。	2016	○		プロジェクト演習入門の授業での産・官連携 での取り組み。 公益社団法人相模原・町田大学地域コンソー シアム主催の「さがまちバンバンアワード 2016」参加	年度末
	8-2G	【研究科】 社会連携・社会貢献に関する方針に沿って、 社会連携・社会貢献が推進されましたか。推 進されている場合、具体的に備考欄に記載の うえ、根拠資料をあげてください。	2016	○		研究科および学部附置生涯学習ラボ等による 相模原市の子供向けプログラムの実施 <a href="http://sckids.exblog.jp/tags/%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%83%E3%83%97/">http://sckids.exblog.jp/tags/%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%83%E3%83%97/</a>	年度末

地球社会共生学部

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 地球社会共生学部自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 8(社会連携・社会貢献)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
(1)	8-2U	【学部】 社会連携・社会貢献に関する方針に沿って、社会連携・社会貢献が推進されましたか。推進されている場合、具体的に備考欄に記載のうえ、根拠資料をあげてください。	2016	○		<p>大和市による寄附講座が開講された。科目名称は、「特殊講義B(Ⅲ)」「(前期)」「講義内容検索」 <a href="http://syllabus.aoyama.ac.jp">http://syllabus.aoyama.ac.jp</a> 2017年5月30日確認)。</p> <p>地球社会共生学部学生連合により、相模原ソーシャルデザイン研究所astro coms とともに、相模原市の共同事業「まちの顧客発、にぎわい情報の発信事業」としてスタートした、相模原のお店ウェブマガジン「CHROUS -エンジョイサガミハラライフ-」の取材、企画、及び編集のサポートを行った(地球社会共生学部学生連合2016年度年次報告書)。</p> <p>地球社会共生学部学生連合により、青山学院大学、麻布大学、桜美林大学の3大学連携による地域連携団体「ふちのべ大学」へ参加し、地域活性化のための定例ワークショップ、相模原市民桜まつり、大野北銀河まつり、さらに相模原市と「経済・観光に関わる交流協定」を結んでいる立科町とのプロジェクトなどへ参加した(地球社会共生学部学生連合2016年度年次報告書)。</p> <p>地球社会共生学部学生連合により、昨年度に引き続き大和市との共同プロジェクトへ参加し、「大和市外国人サミット」、「寺子屋やまと」、「大和English Day」、「大和市国際交流フェスティバル」へ参加した(地球社会共生学部学生連合2016年度年次報告書)。</p>	年度末

国際マネジメント研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 8(社会連携・社会貢献)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	8-2G	<p>【研究科】 社会連携・社会貢献に関する方針に沿って、社会連携・社会貢献が推進されましたか。推進されている場合、具体的に備考欄に記載のうえ、根拠資料をあげてください。</p>	2016	○		<p>以下のような多岐にわたる社会連携・社会貢献活動を行っている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●企業との連携による科目 ・「マーケティング・プランニング・プロジェクト」科目 東京急行電鉄、明治、ティップネス、キーコーヒーなどの企業との連携実績あり。2016年度は明治と連携 ・寄付講座(以下の5講座を開設) 「ファイナンス会計特別講座(証券投資の基礎)」 「企業資本市場概論」 「ROEマネジメント」 「農業マーケティング」 「百貨店マーケティング」</li> <li>●団体との連会 「日本CFA協会とCFAプログラム・パートナー」を提携</li> <li>●地域との連携 「地域活性化のマーケティング」科目 岩手県一関市、埼玉県秩父市、神奈川県鎌倉市、静岡県熱海市、愛媛県今治市、大阪府泉佐野市、東京都文京区、徳島県神山町など多数の市・区と連携</li> <li>●各種フォーラムの開催 MBAフォーラム、キャリアフォーラム、マーケティングフォーラムなど</li> <li>●日本経済新聞社と共催でMBA講座の開催</li> </ul>	年度末

# 法務研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法務研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部専門職大学院教務課

評価基準: 8(社会連携・社会貢献)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
	8-2G	【研究科】 社会連携・社会貢献に関する方針に沿って、社会連携・社会貢献が推進されましたか。推進されている場合、具体的に備考欄に記載のうえ、根拠資料をあげてください。	2016	○		科目等履修生募集要項(2017年度)	年度末

会計プロフェッション研究科



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 会計プロフェッション研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 8(社会連携・社会貢献)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
(1)	8-2G	【研究科】 社会連携・社会貢献に関する方針に沿って、社会連携・社会貢献が推進されましたか。推進されている場合、具体的に備考欄に記載のうえ、根拠資料をあげてください。	2016	○		【研究科】 研究科ホームページ「会計プロフェッション研究センター」 <a href="http://www.gspa.aoyama.ac.jp/research_institute/center.html">http://www.gspa.aoyama.ac.jp/research_institute/center.html</a> 確認日:(2017年5月22日)	年度末

大学宗教主任会

## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 大学宗教主任会  
 担当部署/担当者: 宗教センター、宗教センター相模原分室  
 評価基準: 8(社会連携・社会貢献)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	8-1W1	【大学全体】 社会連携・社会貢献に関する方針(※)が、「青山学院教育方針」および「青山学院大学の理念」を踏まえながら定められていますか。  ※内部質保証のための諸活動に関する方針のひとつ	2016	○	【大学全体】 大学ホームページ「社会連携・社会貢献に関する方針」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/society.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/society.html</a> 確認日:(2016.6.7)	2016年度大学宗教主任会基本方針 2016年度大学宗教委員会基本方針	年度初め
(2)	8-2W	【大学全体】 社会連携・社会貢献に関する方針に沿って、社会連携・社会貢献が推進されましたか。	2016	○	【大学全体】 大学資料集「庶務課11 公開講座／青学オープンカレッジ概要」 大学資料集「庶務課12 公開講座／青学オープンカレッジ受講状況」	大学資料集「122.刊行物2016(宗教センター)」 大学ホームページ「キリスト教教育」 2016年度第1、2回大学宗教主任会議事録 ソーパァー・プログラムパンフレット	年度末
(3)	8-3W1	【大学全体】 社会連携・社会貢献の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。  ※適切性の視点 ・社会連携・社会貢献に関する方針との整合性など	2016	○		【大学全体】 関連規則等 2016年度大学宗教主任会基本方針 検証会議体:(大学宗教主任会)	年度初め
	8-3W2	【大学全体】 社会連携・社会貢献の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。  ※適切性の視点 ・社会連携・社会貢献に関する方針との整合性など	2016	○		【大学全体】 議題・議事録等 2016年度大学宗教主任会議事録 検証会議体:(大学宗教主任会)	年度末

**自己点検・評価チェックリスト**

担当委員会: 大学宗教主任会  
 担当部署/担当者: 宗教センター、宗教センター相模原分室  
 評価基準: 8(社会連携・社会貢献)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	8-4W	<p>【大学全体】                      社会連携・社会貢献に関する方針は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点                      ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。                      ・現状や計画と大きな乖離がないか。                      ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。                      ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。                      ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は修正案を作成の上、上位の委員会へ附議してください。</p>	2016	○		<p>【大学全体】                      議題・議事録等 2016年度大学宗教主任会 第1回議事録                      検証会議体:(大学宗教主任会)</p>	年度初め

相模原事務部庶務課

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 庶務課(相模原)

評価基準: 8(社会連携・社会貢献)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	8-1W1	【大学全体】 社会連携・社会貢献に関する方針(※)が、「青山学院教育方針」および「青山学院大学の理念」を踏まえながら定められていますか。  ※内部質保証のための諸活動に関する方針のひとつ	2016	○	【大学全体】 大学ホームページ「社会連携・社会貢献に関する方針」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/society.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/society.html</a> 確認日:(2016.5.30)		年度初め
	8-1W2	【大学全体】 社会連携・社会貢献に関する方針が、公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員および社会一般に対して周知・公表されていますか。	2016	○	【大学全体】 方針が記載されている教職員での共有状況や社会に対しての公表状況が分かる媒体等 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/society.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/society.html</a> 確認日:(2016.5.30)		年度初め
(2)	8-2W	【大学全体】 社会連携・社会貢献に関する方針に沿って、社会連携・社会貢献が推進されましたか。	2016	○	【大学全体】 大学資料集「庶務課11 公開講座／青学オープンカレッジ概要」 大学資料集「庶務課12 公開講座／青学オープンカレッジ受講状況」		年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 庶務課(相模原)

評価基準: 8(社会連携・社会貢献)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	8-3W1	【大学全体】 社会連携・社会貢献の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。  ※適切性の視点 ・社会連携・社会貢献に関する方針との整合性など	2016	○		【大学全体】 関連規則等 青山学院大学公開講座規則 検証会議体:(青山学院大学公開講座委員会) 2016年6/1(第1回)開催、7/13(第2回)開催予定	年度初め
	8-3W2	【大学全体】 社会連携・社会貢献の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。  ※適切性の視点 ・社会連携・社会貢献に関する方針との整合性など	2016	○		【大学全体】 議題・議事録等 検証会議体:(青山学院大学公開講座委員会)	年度末
(4)	8-4W	【大学全体】 社会連携・社会貢献に関する方針は適切ですか(※)。  ※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など  適切でない場合は修正案を作成の上、上位の委員会へ附議してください。	2016	○		【大学全体】 議題・議事録等 検証会議体:( )	年度初め

相模原事務部学生生活課



## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 学生生活課(相模原)

評価基準: 8(社会連携・社会貢献)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	8-1W1	【大学全体】 社会連携・社会貢献に関する方針(※)が、「青山学院教育方針」および「青山学院大学の理念」を踏まえながら定められていますか。  ※内部質保証のための諸活動に関する方針のひとつ	2016	○	【大学全体】 大学ホームページ「社会連携・社会貢献に関する方針」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/society.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/society.html</a> 確認日:(2016.6.3)		年度初め
	8-1W2	【大学全体】 社会連携・社会貢献に関する方針が、公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員および社会一般に対して周知・公表されていますか。	2016	○	【大学全体】 大学ホームページ「社会連携・社会貢献に関する方針」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/society.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/society.html</a> 確認日:(2016.6.3)		年度初め
(2)	8-2W	【大学全体】 社会連携・社会貢献に関する方針に沿って、社会連携・社会貢献が推進されましたか。	2016	○	【大学全体】 大学資料集「庶務課11 公開講座／青学オープンカレッジ概要」 大学資料集「庶務課12 公開講座／青学オープンカレッジ受講状況」	相模原祭実行委員会において下記活動を実施 ・クリーンウォーク(地域清掃活動) ・相模原市民桜祭り参加 ・橋本七夕祭り ・相模原祭における市民局男女共同参画課の出店協力	年度末

## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 学生生活課(相模原)

評価基準: 8(社会連携・社会貢献)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	8-3W1	<p>【大学全体】 社会連携・社会貢献の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・社会連携・社会貢献に関する方針との整合性など</p>	2016	○		<p>【大学全体】 関連規則等 青山学院大学学友会相模原祭委員会細則 検証会議体:(相模原祭委員会)</p>	年度初め
	8-3W2	<p>【大学全体】 社会連携・社会貢献の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・社会連携・社会貢献に関する方針との整合性など</p>	2016	○		<p>【大学全体】 議題・議事録等 検証会議体:(相模原祭委員会)</p>	年度末
(4)	8-4W	<p>【大学全体】 社会連携・社会貢献に関する方針は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は修正案を作成の上、上位の委員会へ附議してください。</p>	2016	○		<p>【大学全体】 議題・議事録等 検証会議体:(相模原祭委員会) 2016年度第14回相模原祭パンフレット 相模原祭サイト(<a href="http://sagamiharasai.com/">http://sagamiharasai.com/</a>)</p>	年度初め

社会連携機構

## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会連携機構

担当部署/担当者: 研究推進部、研究推進課(相模原)

評価基準: 8(社会連携・社会貢献)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	8-1W1	【大学全体】 社会連携・社会貢献に関する方針(※)が、「青山学院教育方針」および「青山学院大学の理念」を踏まえながら定められていますか。  ※内部質保証のための諸活動に関する方針のひとつ	2016	○	【大学全体】 諸活動に関する方針のひとつに、「社会連携・社会貢献に関する方針」が定められている。 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/society.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/society.html</a> 確認日:(2016/06/01)		年度初め
	8-1W2	【大学全体】 社会連携・社会貢献に関する方針が、公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員および社会一般に対して周知・公表されていますか。	2016	○	【大学全体】 「社会連携・社会貢献に関する方針」が、諸活動に関する方針のひとつとして、大学HPに周知・公表されている。 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/research/cooperation/chitekishisan.html">http://www.aoyama.ac.jp/research/cooperation/chitekishisan.html</a> 確認日:(2016/06/01)	大学ホームページ「社会連携機構」には、同機構内の各センターに係る社会連携・社会貢献に関する方針が、周知・公表されている。 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/research/cooperation/chitekishisan.html">http://www.aoyama.ac.jp/research/cooperation/chitekishisan.html</a> 確認日:(2016/06/01)	年度初め
(2)	8-2W	【大学全体】 社会連携・社会貢献に関する方針に沿って、社会連携・社会貢献が推進されましたか。	2016	○		2016年度は活動を行い、検証もしてきた。	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会連携機構  
 担当部署/担当者: 研究推進部、研究推進課(相模原)  
 評価基準: 8(社会連携・社会貢献)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	8-3W1	【大学全体】 社会連携・社会貢献の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。  ※適切性の視点 ・社会連携・社会貢献に関する方針との整合性など	2016	○		社会連携機構の下に置かれた各センターには、それぞれ評価委員会が設置されており、適切性の検証を行うこととしている。 関連規則等: 青山学院大学社会学連携研究センター規則、青山学院大学WTO研究センター規則、青山学院大学ヒューマン・イノベーション研究センター規則、青山学院大学国際交流共同研究センター規則、青山学院大学アジア国際センター規則	年度初め
	8-3W2	【大学全体】 社会連携・社会貢献の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。  ※適切性の視点 ・社会連携・社会貢献に関する方針との整合性など	2016	○		2016年度は活動を行い、検証もしてきた。	年度末
(4)	8-4W	【大学全体】 社会連携・社会貢献に関する方針は適切ですか(※)。  ※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など  適切でない場合は修正案を作成の上、上位の委員会へ附議してください。	2016	○		青山学院大学社会連携機構規則の附則2には、機構会議として、同機構内のセンターの活動等を総合的に評価し、必要に応じて見直しを含めた措置を講ずることが規定されており、これにより方針の適切性を確認することとしている。	年度初め

# 緊急支援対策委員会

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 緊急支援対策委員会  
 担当部署/担当者: 政策・企画部  
 評価基準: 8(社会連携・社会貢献)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	8-1W1	【大学全体】 社会連携・社会貢献に関する方針(※)が、「青山学院教育方針」および「青山学院大学の理念」を踏まえながら定められていますか。  ※内部質保証のための諸活動に関する方針のひとつ	2016	○	【大学全体】 大学ホームページ「社会連携・社会貢献に関する方針」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/society.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/society.html</a> 確認日:( 2016/5/24 )		年度初め
	8-1W2	【大学全体】 社会連携・社会貢献に関する方針が、公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員および社会一般に対して周知・公表されていますか。	2016	○	【大学全体】 大学ホームページ「社会連携・社会貢献に関する方針」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/society.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/society.html</a> 確認日:( 2016/5/24 )		年度初め
(2)	8-2W	【大学全体】 社会連携・社会貢献に関する方針に沿って、社会連携・社会貢献が推進されましたか。	2016	○	【大学全体】 大学資料集「庶務課11 公開講座／青学オープンカレッジ概要」 大学資料集「庶務課12 公開講座／青学オープンカレッジ受講状況」	ボランティア・ステーション2016年次報告書 大学ホームページ「ボランティアセンター」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/life/volunteer/volunteercenter/">http://www.aoyama.ac.jp/life/volunteer/volunteercenter/</a>	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 緊急支援対策委員会  
 担当部署/担当者: 政策・企画部  
 評価基準: 8(社会連携・社会貢献)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	8-3W1	【大学全体】 社会連携・社会貢献の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。  ※適切性の視点 ・社会連携・社会貢献に関する方針との整合性など	2016	×		【大学全体】 関連規則等 大規模災害等の被災地に対する緊急支援等に関する内規 検証会議体:( 緊急支援対策委員会 )	年度初め
	8-3W2	【大学全体】 社会連携・社会貢献の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。  ※適切性の視点 ・社会連携・社会貢献に関する方針との整合性など	2016	○		【大学全体】 議題・議事録等 第1回(2016.7.26)記録 検証会議体:( 緊急支援対策委員会 )	年度末
(4)	8-4W	【大学全体】 社会連携・社会貢献に関する方針は適切ですか(※)。  ※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など  適切でない場合は修正案を作成の上、上位の委員会へ附議してください。	2016	×		【大学全体】 議題・議事録等 検証会議体:( )	年度初め



ボランティアセンター

## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: ボランティアセンター  
 担当部署/担当者: 学生生活部  
 評価基準: 8(社会連携・社会貢献)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	8-2W	【大学全体】 社会連携・社会貢献に関する方針に沿って、社会連携・社会貢献が推進されましたか。	2016	○	【大学全体】 大学資料集「庶務課11 公開講座／青学オープンカレッジ概要」 大学資料集「庶務課12 公開講座／青学オープンカレッジ受講状況」	・ボランティアセンターホームページ <a href="http://volunteer-aoyamagakuin.jp/">http://volunteer-aoyamagakuin.jp/</a> 関連規則等: 青山学院大学ボランティアセンター規則 会議体: ボランティアセンター運営委員会、ボランティアセンター実務委員会 ・ボランティアセンターリーフレット ・ボランティアセンター2016年度活動報告書	年度末
(3)	8-3W2	【大学全体】 社会連携・社会貢献の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。  ※適切性の視点 ・社会連携・社会貢献に関する方針との整合性など	2016	○		関連規則等: 青山学院大学ボランティアセンター規則 検証会議体: ボランティアセンター運営委員会 第1回2016年10月24日、第2回2017年1月7日、第3回2017年3月2日、 第4回2017年3月24日 ・2017年度事業計画(案)の件 検証会議体ボランティアセンター実務委員会 第1回2016年10月24日、第2回2016年11月28日、 第3回2016年12月19日、 第4回2017年1月30日「仙北市除雪ボランティアについて」 第5回2017年2月27日、第6回2017年3月21日 第1回2017年5月26日 ・自己点検・評価の件 ・外部との連携事業実施形態及び意思決定機関の件 ・総社市シンポジウム開催について	年度末

## 2016年度 自己点検・評価結果

### 基準9-1 管理運営・財務

(管理運営)

庶務部

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 庶務部

評価基準: 9-1(管理運営・財務\_\_管理運営)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	9-1-1W	<p>【大学全体】 「青山学院教育方針」「青山学院大学の理念」などの大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針(※)を明確に定めていますか。 また、その方針を公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員や社会一般に対して、周知・公表していますか。</p> <p>※内部質保証のための諸活動に関する方針のひとつ ※意思決定プロセスや、権限・責任(大学と法人との関係性含む)、中長期の大学運営のあり方等</p>	2016	×			年度初め
(2)	9-1-2W1	<p>【大学全体】 管理運営方針に基づき、適切な規程を整備していますか。</p>	2016	×	<p>【大学全体】 監事監査規則 内部監査規則 内部監査実施細則 監査報告書(監事監査および内部監査)</p>		年度初め
(3)	9-1-3W	<p>【大学全体】 学長をはじめとする、管理運営に必要な職を置き、また学部長会、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明確にしていますか。</p>	2016	○	<p>【大学全体】 学校法人青山学院寄附行為 学校法人青山学院寄附行為細則 青山学院大学学則 青山学院大学大学院学則 青山学院大学専門職大学院学則 青山学院大学職制規則 青山学院大学大学協議会規則 青山学院大学学部長会規則 青山学院大学教授会及び専任教授会規則 青山学院大学学長候補者選出に関する規則 青山学院大学学部長及び専門職大学院研究科長候補者選出に関する規則</p>		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 庶務部

評価基準: 9-1(管理運営・財務\_\_管理運営)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	9-1-6W1	【大学全体】 管理運営を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きを明文化していますか。	2016	×		【大学全体】 関連規則等 検証会議体:( )	年度初め
	9-1-6W2	【大学全体】 管理運営について明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	×	管理運営方針 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/management.html">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/management.html</a> (2017年6月1日)	【大学全体】 議題・議事録等 検証会議体:( )	年度末
(5)	9-1-7W	【大学全体】 管理運営方針は適切ですか(※)。  ※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など  適切でない場合は修正案を作成のうえ、上位の委員会へ附議してください。	2016	×			年度初め

全学FD委員会

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 全学FD委員会

担当部署/担当者: 学務部、学務課(相模原)

評価基準: 9-1(管理運営・財務\_\_管理運営)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	9-1-5W	【大学全体】 事務職員の意欲・資質向上に向けた研修等の 取り組みを行って改善につなげていますか。	2016	○	【大学全体】 大学資料集「本部7 職員学内研修会参加状況」	2016/11/22 FD・SD研修会 (情報メディアセンターとの共催) 2016/9/14 第2回新任教職員研修会	年度末



政策・企画部

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 政策・企画部

評価基準: 9-1(管理運営・財務\_管理運営)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	9-1-1W	【大学全体】 「青山学院教育方針」「青山学院大学の理念」などの大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針(※)を明確に定めていますか。 また、その方針を公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員や社会一般に対して、周知・公表していますか。  ※内部質保証のための諸活動に関する方針のひとつ ※意思決定プロセスや、権限・責任(大学と法人との関係性含む)、中長期の大学運営のあり方等	2016	×			年度初め
(2)	9-1-2W2	【大学全体】 管理運営方針に基づき、規程に則った管理運営を行いましたか。	2016	×	【大学全体】 監事監査規則 内部監査規則 内部監査実施細則 監査報告書(監事監査および内部監査)		年度末
(3)	9-1-6W1	【大学全体】 管理運営を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きを明文化していますか。	2016	×		【大学全体】 関連規則等 検証会議体:( )	年度初め
	9-1-6W2	【大学全体】 管理運営について明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	×		【大学全体】 2016年度第5回全学自己点検・評価委員会(2017年2月28日開催)資料3及び同委員会記録	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 政策・企画部

評価基準: 9-1(管理運営・財務\_\_管理運営)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	9-1-7W	<p>【大学全体】 管理運営方針は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は修正案を作成のうえ、上位の委員会へ附議してください。</p>	2016	✕			年度初め

事務局長

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 事務局長

評価基準: 9-1(管理運営・財務\_\_管理運営)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	9-1-4W	【大学全体】 大学(・法人)の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な事務等を行うための事務組織を設けていますか。また、必要な事務職員を配置していますか。	2016	×	【大学全体】 青山学院青山学院事務分掌規則 大学資料集「庶務課3 大学事務組織」	事務組織検討プロジェクト答申書	年度初め
(2)	9-1-5W	【大学全体】 事務職員の意欲・資質向上に向けた研修等の取り組みを行って改善につながっていますか。	2016	○	【大学全体】 大学資料集「本部7 職員学内研修会参加状況」	SD研修会「学生の厚生補導」実施概要(2016.11.2) SD講演会「内部質保証の理解を深める」実施報告書(2016.12.19, 20) SD講演会「高大接続改革」実施概要(2016.6.14) SD講演会「単位制度の理解と展望」実施概要(2016.9.29)	年度末
(3)	9-1-6W1	【大学全体】 管理運営を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きを明文化していますか。	2016	×		【大学全体】 関連規則等 検証会議体:( )	年度初め
	9-1-6W2	【大学全体】 管理運営について明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。	2016	×		【大学全体】 議題・議事録等 検証会議体:( )	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 事務局長

評価基準: 9-1(管理運営・財務\_\_管理運営)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	9-1-7W	<p>【大学全体】 管理運営方針は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は修正案を作成のうえ、上位の委員会へ附議してください。</p>	2016	×			年度初め

人事部

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 人事部

評価基準: 9-1(管理運営・財務\_\_管理運営)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	9-1-5W	【大学全体】 事務職員の意欲・資質向上に向けた研修等の 取り組みを行って改善につなげていますか。	2016	○	【大学全体】 大学資料集「本部7 職員学内研修会参加状況」		年度末



## 2016年度 自己点検・評価結果

### 基準9-2 管理運営・財務

(財務)

庶務部

## 自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 庶務部

評価基準: 9-2(管理運営・財務\_\_財務)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	9-2-1W	【大学全体】 「青山学院教育方針」「青山学院大学の理念」などの大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針(※)を明確に定めていますか。 また、その方針を公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員や社会一般に対して、周知・啓発していますか。	2016	×			年度初め
(2)	9-2-2W1	【大学全体】 管理運営方針(財務に関する事項)に基づき、適切な規程を整備していますか。	2016	×	【大学全体】 監事監査規則 内部監査規則 内部監査実施細則 監査報告書(監事監査および内部監査)		年度初め
(3)	9-2-3W	【大学全体】 「青山学院教育方針」「青山学院大学の理念」および学部・研究科の「教育研究上の目的」を具体的に実現する上で必要な財政基盤(または配分予算)を確立していますか。	2016	○	【大学全体】 財務諸表 大学資料集「庶務課13 文部科学省及び日本私立大学振興・共済事業団より受けた補助金」 大学資料集「庶務課14 その他機関より受けた補助金」		年度初め
(4)	9-2-4W	【大学全体】 大学の中・長期の教育研究計画に対する、法人および大学の中・長期的な財政計画を策定していますか。また、それらの関連性が適切ですか。	2016	×			年度初め
(5)	9-2-5W	【大学全体】 教育研究の遂行と財政確保の両立を図るための仕組みについて、工夫を行いましたか。	2016	○			年度末
(6)	9-2-6W2	【大学全体】 資産運用等の状況は、大学の財政基盤の充実を図る上で適切でしたか。	2016	×			年度末
(7)	9-2-7W	【大学全体】 大学の財務関係比率について、自己点検・評価における指標や目標を示していますか。また、実際の各関係比率は、それらの目標が十分に達成されていますか。	2016	×			年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 庶務部

評価基準: 9-2(管理運営・財務\_\_財務)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(9)	9-2-9W2	<p>【大学全体】 予算配分と執行プロセスの明確性・透明性や、 監査の方法・プロセス等の適切性(※)を検証する にあたり、会議体(委員会等)・手続きを明文化 していますか。</p> <p>※適切性の視点 ・法令の順守等</p>	2016	○		<p>【大学全体】 関連規則等 ・青山学院大学予算執行に関する事務取扱要綱 ・学校法人青山学院予算執行に関する内規 ・学校法人青山学院経理規則 ・学校法人青山学院経理業務取扱細則 ・学校法人青山学院内部監査規則 ・学校法人青山学院内部監査実施細則</p>	年度初め
	9-2-9W4	<p>【大学全体】 予算配分と執行プロセスの明確性・透明性や、 監査の方法・プロセス等の適切性(※)は、明文化 された手続きに従って定期的に検証され、その 結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・法令の順守等</p>	2016	○		<p>【大学全体】 関連規則等 ・青山学院大学予算執行に関する事務取扱要綱 ・学校法人青山学院予算執行に関する内規 ・学校法人青山学院経理規則 ・学校法人青山学院経理業務取扱細則 ・学校法人青山学院内部監査規則 ・学校法人青山学院内部監査実施細則</p>	年度末
(10)	9-2-10W	<p>【大学全体】 管理運営方針は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社 会、文部科学省、大学基準協会等)の要請に あっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすい か。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は修正案を作成のうえ、上位の 委員会へ附議してください。</p>	2016	×			年度初め

研究推進部

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 研究推進部

評価基準: 9-2(管理運営・財務\_\_財務)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	9-2-6W1	【大学全体】 文部科学省科学研究費補助金、外部資金(寄附金、受託研究費、共同研究費など)等の状況は、大学の財政基盤の充実を図る上で適切でしたか。	2016	○	【大学全体】 大学資料集「研究推進3 科学研究費補助金の採択状況」 大学資料集「研究推進4 科学研究費補助金の採択状況(個人別一覧)」 大学資料集「研究推進5 大型プロジェクト採択状況」 大学資料集「研究推進6 受託研究・共同研究・指定寄付金・技術指導料等」		年度末
(2)	9-2-9W1	【大学全体】 予算の執行プロセス(※1)の明確性・透明性や、監査のプロセス等の適切性(※2)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きを明文化していますか。  ※1 ・文部科学省科学研究費補助金、外部資金(寄附金、受託研究費、共同研究費など)等の状況について ※2適切性の視点 ・法令の順守等	2016	○		【大学全体】 関連規則等 青山学院大学公的研究費の使用に関する内規 青山学院大学公的研究費の運営、管理及び監査の実施体制に関する規則 青山学院大学受託研究規則 青山学院大学共同研究規則 青山学院大学受託研究及び共同研究における間接経費の取扱いに関する細則 青山学院大学公的外部資金によるプロジェクト教員に関する規則  検証会議体:( ) 毎年7~9月に法人監査室による監査を実施、その結果を学部長会で報告 資料:「監査室による内部監査結果及びそれに伴う対応について」第10回学部長会「報告事項-5」(2015.10.19) 毎年2月に公認会計士による往査を実施 外部資金の大型研究プロジェクト等、外部資金メインの各センターは年度末頃に第三者評価委員会、外部評価委員会を実施	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 研究推進部

評価基準: 9-2(管理運営・財務\_\_財務)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
	9-2-9W3	<p>【大学全体】 予算の執行プロセス(※1)の明確性・透明性や、 監査のプロセス等の適切性(※2)は、明文化さ れた手続きに従って定期的に検証され、その結 果は改善につながっていますか。</p> <p>※1 ・文部科学省科学研究費補助金、外部資金(寄 附金、受託研究費、共同研究費など)等の状況 について ※適切性の視点 ・法令の順守等</p>	2016	○	<p>・体制整備等自己評価チェックリスト(監査室、常任監事の 確認を経て、毎年秋に文部科学省へ提出) ・学校法人青山学院内部監査規則 ・青山学院大学における公的研究費等の不正防止計画 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/public_research/pdf/public_research_02.pdf">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/public_research/ pdf/public_research_02.pdf</a> ・青山学院大学研究費ハンドブック(青山キャンパス) ・青山学院大学科研費支出取扱いハンドブック(青山キャン パス) ・青山学院大学科学研究費支出取扱いハンドブック(相模 原キャンパス版) <a href="http://rs.aoyama.ac.jp/">http://rs.aoyama.ac.jp/</a> (2017.5.25、ウェブ確認)</p>	<p>【大学全体】 監査対象は科学研究費、科学技術振興機構委託 費において、前年度に研究代表者として交付を受 けた研究課題の事業区分ごと10%について無作 為に抽出し、不正要因の高い事象を重点的に検 証 第12回学部長会(2016.1121(月))「報告事項-10」 外部資金の大型研究プロジェクトは内容を含めた 評価委員会を実施 外部資金メインの各センターは大型研究プロジェ クトとは別に評価委員会を実施</p>	年度末

政策・企画部



自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 政策・企画部

評価基準: 9-2(管理運営・財務\_財務)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	9-2-2W2	【大学全体】 管理運営方針(財務に関する事項)に基づき、規 程に則った管理運営を行いましたか。	2016	×	【大学全体】 監事監査規則 内部監査規則 内部監査実施細則 監査報告書(監事監査および内部監査)	【大学全体】 2016年度第5回全学自己点検・評価委員会(2017 年2月28日開催)資料3及び同委員会記録	年度末

監査室

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 監査室

評価基準: 9-2(管理運営・財務\_\_財務)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	9-2-9W4	<p>【大学全体】 監査の方法・プロセス等の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・法令の順守等</p>	2016	○	学校法人青山学院内部監査実施細則 監査計画書 監査報告書 改善計画書 改善報告書 年間監査報告書(理事会資料)	2016年度監査計画書 監査報告書(CCE資料) 改善計画書・改善報告書(監査室保管資料) 2016年度監査報告書(理事会資料)	年度末

## 2016年度 自己点検・評価結果

### 基準10 内部質保証

全学自己点検・評価委員会

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 全学自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 政策・企画部

評価基準: 10(内部質保証)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	10-1W	【大学全体】 内部質保証に関する方針が定められ、それが教職員で共有され、社会にも公表されていますか。	2016	○	【大学全体】 方針が記載されている教職員での共有状況や社会に対しての公表状況が分かる媒体等 大学ホームページ「各種方針-内部質保証に関する方針」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/</a> 確認日:(2016.5.16)	2015年度第6回全学自己点検・評価委員会(2016.3.28)資料1 2016年度学部長会(2016.4.11)報告資料8 内部質保証システム実務説明会(2016.4.13ほか2回)資料1 <a href="https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/d-gakuchou/jikotenken-hyouka/shitsuoshou/setsumeikai/setsumeikai2016/setsumeikai2016.htm">https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/d-gakuchou/jikotenken-hyouka/shitsuoshou/setsumeikai/setsumeikai2016/setsumeikai2016.htm</a> 確認日:(2016.5.16)	年度初め
(2)	10-2W	【大学全体】 各部局における、チェックリストに基づく自己点検・評価の実施状況が確認されていますか。	2016	○		2016年度第2回全学自己点検・評価委員会(2016.7.16開催)資料1~4、記録 確認日:(2017.5.1)	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 全学自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 政策・企画部

評価基準: 10(内部質保証)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
(3)		<p>【大学全体】 受験生を含む社会一般に対して、公的な刊行物、ホームページ等によって、必要な情報(※)が公表されていますか。</p> <p>※ ・学校教育法(同法施行規則)によるもの ・財務関係書類 ・自己点検・評価の結果</p> <p>●学校教育法(同法施行規則)によるもの ・大学の教育研究上の目的に関すること ・教育研究上の基本組織に関すること ・教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること ・入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業または修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること ・授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること ・学修の成果に係る評価及び卒業または修了の認定に当たっての基準に関すること ・校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること ・授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること ・大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること</p> <p>●財務関係書類 ・財務三表の公開</p> <p>●自己点検・評価報告書</p> <p>●その他法令等で要請されている事項</p>	2016	×	<p>【大学全体】 青山学院大学教育情報の公表に関する要綱</p>		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 全学自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 政策・企画部

評価基準: 10(内部質保証)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
(4)	10-4W1	【大学全体】 大学全体での内部質保証システムが整備されていますか。	2016	○	【大学全体】 青山学院大学自己点検・評価委員会規則 青山学院大学自己点検・評価規則 青山学院大学教育情報の公表に関する要綱 確認日:(2016.5.16)	第3回全学自己点検・評価委員会(2015.12.2) 資料1~5、記録 第4回全学自己点検・評価委員会(2015.12.4~9 メール会議形式)資料1、資料2、記録 確認日:(2016.5.16)	年度初め
	10-4W2	【大学全体】 大学全体での内部質保証システムが適切に (※)機能しましたか。  ※適切な視点 ・学外者からの意見聴取等、内部質保証の取 組みの客観性・妥当性を高めるための工夫 ・文部科学省及び認証評価機関からの指摘事項 に対する適切な対処 ・大学の諸活動における検証と見直しのシステ ムが実行されているかの把握 ・内部質保証に関する各種方針の見直し など	2016	○		2016年度第1~6回全学自己点検・評価委員会記 録 2016年度第1~2回内部質保証ワーキンググルー プ記録 確認日(2017.5.1)	年度末
(5)	10-5W	【大学全体】 内部質保証に関する方針は適切ですか(※)。  ※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社 会、文部科学省、大学基準協会等)の要請に あっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやす いか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など  適切でない場合は修正案を作成のうえ、全学自 己点検・評価委員会へ附議してください。	2016	○		2015年度第6回全学自己点検・評価委員会 (2016.3.28)資料1、資料2、記録 大学基準、点検・評価項目(公益財団法人大学基 準協会) 大学ホームページ「各種方針-内部質保証に関す る方針」 <a href="http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/">http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_stud y/</a> 確認日:(2016.5.16)	年度初め